集古十種稿』の分析からみる『集古十種』 完成までの過程

川見典久

はじめに

紀伊藩主から江戸幕府八代将軍となった徳川吉宗は、政治・経済・文化の多方面にわたって改革的な施策をおこなったことで知られる。筆者が興味を持つ武器・武具の分野においても、寺社や大名、旗本な筆の所有する由緒ある名品を上覧するとともに、甲冑師・春田故明を世の形式による大鎧を作らせている。また、刀剣についても本阿弥家に名刀を列挙した名物帳の提出を命じる一方、刀鍛冶の全国調査をおこない、優れた刀工を江戸へ呼び寄せて作刀させた。伊勢貞丈をはじめとする十八世紀における武家故実研究の高まりなど、江戸中期からめとする十八世紀における武家故実研究の高まりなど、江戸中期からめとする十八世紀における武家故実研究の高まりなど、江戸中期からし、吉宗が集積した情報がまとまった書物として残されていないため、その重要性が認識されているとは言いがたい。

はそのうち兵器篇を取り上げ、伊勢貞丈およびその周辺で蓄積された故実の探求を形にしたものと位置づけることができる。昨年の紀要で孫にあたる松平定信が編纂した『集古十種』は、吉宗のおこなった

能になろう。 げる際には寛政十二年の成立として考えられることがあるためである。 ことにより、 鈴の情報を漢学者や国学者、考証家らがどの程度得ていたのかを検討 したと考えられるにもかかわらず、『集古十種』掲載の資料を取り上 あると考える。というのも、寛政十二年(一八〇〇)の序文を有する 両者の内容がどのように異なっているのかを具体的に検証する必要が 情報を基礎に編纂していることを明らかにした。しかし、『集古十種』 れた資料の情報がいつ、どのように伝えられたのかを丹念に検証する のがあることがわかった。『集古十種』をはじめとする文献に掲載さ のは『集古十種稿』のみであり、その増補改訂により八十五冊が完成 かでも八十五冊の完本に至る以前の先駆的・過渡的な版本とされる 全体の成立過程については、充分に追求することができなかった。な したところ、実物資料や模本の伝来についてかなり詳細に判明するも 『集古十種稿』は、『集古十種』の編纂を考える上で重要な資料であり、 さらに、前々号において杉本研究員が江戸時代に出土した古鏡や古 江戸時代の故実研究について具体的に理解することが可

な作業として、まず『集古十種稿』の現存状況について確認し、そのそこで本稿では、『集古十種』の資料的性格を明らかにする基礎的

としたい。
としたい。
としたい。
としたい。
を高辺にその情報がもたらされた時期について判明するものをて、定信周辺にその情報がもたらされた時期について判明するものをる。そのうえで、『集古十種稿』になく完本で追加された資料につい構成や内容が『集古十種』完本とどのように相違するのかを明確にす

『集古十種稿』の所蔵状況

集したものが出版されている。ただし、この国書刊行会本は全体の順 刊行され、さらに明治四十一年には国書刊行会より洋装本四冊に再編 成る。現在もその版木一四五一枚が三重桑名の鎮國守國神社に所蔵さ 器篇六冊、文房篇二冊、 序などを大きく入れ替えており、用いる際には注意を要する れ、重要文化財に指定されている。この版木を使用して明治三十二年 真蹟小倉色紙」一冊、 古画 旗」五冊、「刀剣」三冊、「馬具」三冊に細分され、古画・法帖篇は 数え、碑銘篇十三冊、鐘銘篇九冊、兵器篇二十五冊、銅器篇三冊、 (一八九九)には青木嵩山堂より総目録三冊を加えた八十八冊として で構成される。このうち兵器篇は「甲冑」十二冊、「弓矢」二冊、 『集古十種』の完本(以下、八十五冊本と称する)は全八十五冊 肖像」五冊、「七祖賛 弘法大師真蹟」二冊、 「牧渓玉澗八景」一冊、「名物 印章篇七冊、 扁額篇十冊、 古画・法帖篇十冊 古画」一 「法帖 定家卿 一冊から 楽

存状況と内容を確認しておく。表1に八十五冊本とそれぞれの所蔵すバード燕京図書館に所蔵されることが確認できた。まずはこれらの現国立国会図書館、センチュリー文化財団、台東区立書道博物館、ハー『集古十種稿』(以下、『稿』)は現在までのところ、彦根城博物館、

のなかで紹介しており、参考としてその冊数も表に示した。十種』(実際には『稿』か)を『群書一覧』(享和元年〈一八〇一〉序)学者・尾崎雅嘉(一七五五~一八二七)は当時出版されていた『集古る『稿』の巻構成をまとめたので参照いただきたい。なお、大坂の国

定家卿真蹟小倉色紙」の未完成版とみられている。 まず、彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来本(以下、彦根本)は まず、彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来本(以下、彦根本)は まず、彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来本(以下、彦根本)は

め、『稿』が一冊だけ混入しているとわかる。のみ序文が付属し、内容も八十五冊本とは異なり彦根本と一致するた家卿真蹟小倉色紙」の八冊から成る一本がある。このなかで銅器篇に具」、「弓矢」、「刀剣」、印章篇の序目巻、追加巻、銅器篇、「法帖 定具」、「弓矢」、「刀剣」、印章篇の序目巻、追加巻、銅器篇、「法帖 定成である。なお、同館所蔵の『集古十種』には、兵器篇の「旌旗」、「馬成である。なお、同館所蔵の『集古十種』には、兵器篇の「旌旗」、「馬成である。

他と表紙が異なっており、 冊には『稿』であれば存在するはずの序文が掲載されず、 も五十三冊は紀伊徳川家の南葵文庫旧蔵とわかる。ただし、 蔵本は五十八冊から成る 安府芸台印」「献英楼図書記」の印記があることから、 八十五冊本であるとわかる。また、 には「徳川家南癸文庫蔵 センチュリー文化財団 (慶應義塾大学附属研究所斯道文庫寄託) さらに七祖賛二冊も含めた計五冊には 集古十種 (以下、センチュリー本)。 鐘銘篇巻八の一冊、 全五十三冊」とあり、 収納する箱の蓋 田安家の旧蔵本 刀剣篇 内容からも 楽器篇六 印記から 所

表1 『集古十種稿』の所蔵状況

第1								
篇	名	85冊本	彦根博	国会図	センチュリー	書道博	ハーバード	群書一覧
碑銘		13	13	13	13	13 —		7
鐘銘		9	9 9 9 9 —			6		
	甲胄	12	_	_	_	_	_	3
	旌旗	5	4	4	4	_	_	3
兵器	弓矢	2	1	1	1	_	_	1
	刀剣	3	2	2	2	_	_	2
	馬具	3	2	2	2	_	_	2
銅器		3	1	1	1	_	_	1
楽器		6	4	4	6*	_	4	3
文房(古	硯)	2	1	1	1			1
印章		7	5	5	5	_	_	4
扁額		10	10	10	10	_	_	9
肖像		5	_	_	_	_	_	_
弘法大師真蹟		2	_	_	2**	_	_	_
小倉色紙		1	(1)	_	1**	_	_	1
牧渓玉澗八景		1	_	_	_	_	_	_
名物古画		1			1**			
	合計	85	53	52	58	22	4	19

[・]センチュリー本の※印は『集古十種稿』ではなく『集古十種』として考えるべきもの。

含まれる点が貴重である。「法帖「定家卿真蹟小倉色紙」一冊、「名物「古画」一冊など計四冊がと判明する。彦根本や国会本にはない「法帖「大師真蹟七祖賛」二冊、

のハーバード燕京図書館に楽器篇が所蔵される。
この他、台東区立書道博物館には碑銘篇と鐘銘篇、アメリカ合衆合書れる点が貴重である。

[集古十種稿]は国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースにも項目が立てられておらず、『集古十種』として登録されるものなかに『稿』が紛れている可能性も高い。今後、両者を区別するためにも、まずは現在判明しているものから『集古十種』と『集古十種らない限り『稿』は彦根本を参照することとする。また比較する『集古十種』は国立国会図書館所蔵のうち、八十五巻を三十一冊に装幀し古十種』は国立国会図書館所蔵のうち、八十五巻を三十一冊に装幀し古十種』は国立学研究資料館の日本古典籍総合目録データベー他本や青木嵩山堂本を参照した。

『集古十種稿』各篇の概要および『集古十種』との相違点

(1) 碑銘

凡例

所、僅かに数字を淂るのみ。 だも知るべからず。因て侍臣をして往かしめ訂すること凡そ三て之を校合し上梓す。奥州森山田村麻呂祠前碑の如きは、磨滅しず。蓋し打者の工拙に因るらん。今石李数本及び諸家の木本を以ず。

するあたはざればなり。凡そ此の集は、得るに随て収入す。是れ世次年代を以て皆以て序

無きは、今しばらく収入し、以て博覧に資す。(原漢文)凡そ物の偽贋に渉ること疑うべき有りと雖も、的證の指摘すべき

覧に供するとあり、八十五冊本も違いはない。もあるものの、明確な証拠のないものについてはひとまず掲載して博は碑銘の年代ではなく、資料の取得順である、③偽物と疑われる資料集し、場合によって家臣を派遣して実物と校訂させた、②掲載の順序これによると、①この篇に載せる碑銘はいくつかの拓本を校合して編

末尾の付表と対応しているので適宜参照いただきたい。 降は余白となる。目次の項目を比較すると、『稿』で同じ国名が続く 降は余白となる。目次の項目を比較すると、『稿』で同じ国名が続く 場合には「同国」、巻八以降「○○碑銘」となっているものは「銘」 字を削るなど、八十五冊本では表記の統一を図ったことがわかる。で は内容が『稿』から八十五冊本でどのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』から八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻か は内容が『稿』がら八十五冊本でとのように変わったのか、第一巻い

巻 巻

「□」を挿入する。 文字のいくつかを解読するとともに、空白の箇所に文字の存在を示す1「大和国薬師寺仏足石碑」の刻字釈文を見ると、わからなかった

巻二

の ・ 8「武蔵国野火留平林寺碑」と9「大和国吉野山中苔清水碑」で、 ・ 8、11「大和国招提寺金堂鴟図并銘」では、六行ある銘文の二行また、11「大和国招提寺金堂鴟尾図并銘」では、六行ある銘文の二行また、11「大和国招提寺金堂鴟尾図并銘」では、六行ある銘文の二行大和国奈良招提寺金堂鮪図并銘」であった「大和国」を「同」、「鮪」を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡切山碑」は語順を入れ替えて「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡場を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡場を「鴟尾」に変更する。同じく12「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡切山碑」は語順を入れ替えて「陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡岩を「鴟尾」とする。

巻三

釈文の文字訂正や改行箇所の変更をおこなう。 あわせて一行としてここに挿入する。なお、21「上野国山名村碑」は脱けており、次の「同国山名村碑」と「同国同村観音堂碑」の二碑を『稿』の目次では20「陸奥国宮城郡信田小太郎古館跡岩切山碑」が

● 巻 五

を付け足す。目次も同様に「古碑」の下に「図所不詳」を加える。43「古碑《高一尺三寸八分/幅一尺》」の下に「未詳所在」の四字

巻六

誤って六行目の「五郎」下にあった「佛衆生 八郎」を五行目「念」51「武蔵国足立郡登田村松岡山勝願寺旧地碑」の拓本七行のうち、

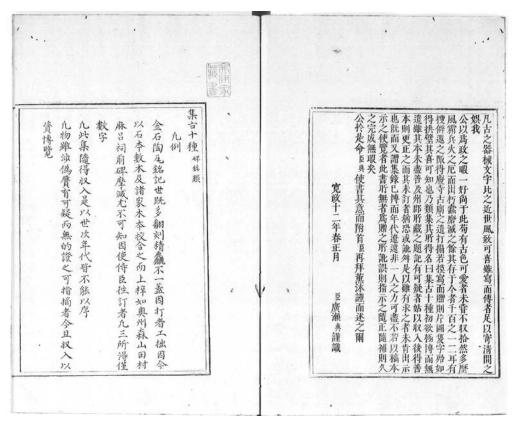


図1 『集古十種稿』碑銘篇序文および凡例 (彦根城博物館)

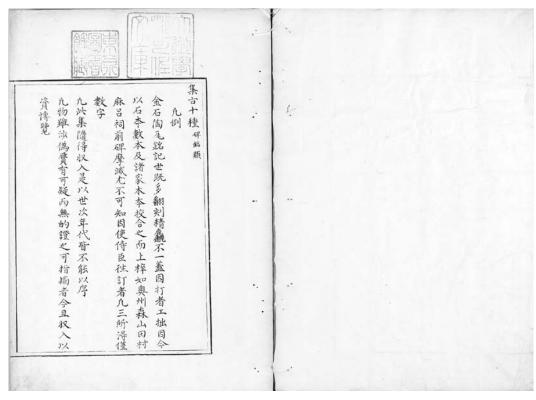


図2 『集古十種』碑銘篇凡例(国立国会図書館)

應寺碑」に「并同和田村碑」を書き加える。

でとに横線を加えて改行を示す。また目次の8「同国安達郡西内村相から七文字目の下に横線を引いて上下を分けるとともに、拓本も七字に記載した釈文で不明の文字いくつかを新たに解読する。さらに、上字の下に移動する。また、9「下野国字都宮清厳寺鉄碑」は、全図左

巻七

高野山上智院」との割注を入れる。主人(松平定信)による跋の書体が異なる。また、名称の下に「今蔵主人(松平定信)による跋の書体が異なる。また、名称の下に「今蔵名「僧空海益田池碑草本真蹟」は名称や末尾の寛政九年八月敬蘭堂

●巻八

寺碑」に改める。

寺碑」に改める。

「同国佐場野医王寺碑并同国信夫郡飯坂天王字を□に改め、78「陸奥国安積郡大重院碑」全図の左に「右碑漫漶不可する。また、79「陸奥国安積郡大重院碑」全図の左に「右碑漫漶不可する。また、79「陸奥国安積郡大重院碑」全図の左に「右碑漫漶不可する。また、79「陸奥国安積郡大重院碑」全図の左に「右碑漫漶不可する。また、79「陸奥国安積郡大重院碑」全図の左に「右碑漫漶不可する。また、79「陸奥国安積郡大重院碑」全図の名で「□□土慶造立」とある「壬」

巻九

る。内容は同一である。 目次の「大和国杜社碑銘」を「河内国駒谷村所掘出之断碑」に改め

●巻十

面九字」の注記を左頁に移す。 高野山天野道知石」の「道知」を「路」に改め、右頁にあった「左側黒く彫り残したままであった項目名を彫り入れる。また、10「紀伊国祭「摂津国呉田吉田某蔵古瓦」、99「同古瓦」について、長方形に

巻十一

灯扉図」の「廃」字の上に「寺」字を挿入する。□の「乗碑」を「下乗碑」と訂正し、□『京都深草法性廃跡所掘得古鉄四「寺者講田碑」を「同国山辺郡役行寺者講田碑」とし、釈文も「龍福郡行者講田碑」を「同国山辺郡役行寺者講田碑」とし、釈文も「龍福田』「大和国般若寺古碑銘」の「銘」字を削除する。□『和泉国山辺

巻十二

115「南都西大寺塔銘」を「陸奥国伊達郡下大石村古碑」に差し替える。

郡下大石村古碑」のみである。とがわかる。八十五冊本で新たに加えた資料は巻十二の「陸奥国伊達映させるとともに、目次や本文の名称において表記の統一を図ったこ以上をみると、『稿』の誤りを訂正して新たに釈読できた文字を反

(2) 鐘銘

じ序文に続いて、次のような凡例がある。から成り、これも八十五冊本と同じ構成である。冒頭には碑銘篇と同から成り、これも八十五冊本と同じ構成である。冒頭には碑銘篇と同鐘や鰐口などの銘文を収めた鐘銘篇は、目録巻と巻一~八の計九冊

凡例

も次序ならず。 凡そ集中に収入するは、獲る所の先後に随い、世次年代は必ずし凡そ鐘馨銅燈及び銅佛背銘記有るものは皆収載す。

證無ければ則ち諸観者の鑑に任せ、私に廃さざるなり。(原漢文)凡そ収入する所、或いは真贋を疑うべきと雖も、然るに指摘に確

る。巻一以降の相違点のみを順にみていく。
(八十五冊本には序文がないものの、凡例はまったく同じ内容であ

方が健全な状態の拓本であったために削除したと思われる。幡宮銅灯銘」として収録されており、七行目の破損の有無など後者のされている。これはまったく同じ銘文が巻六に61「相模国鎌倉鶴岡八まず、巻五の「相模国鎌倉八幡宮灯台銘」が目次、内容ともに削除

また、巻七の84「河内国大県郡雁田尾地蔵堂鐘銘」は黒地白文のまた、巻七の84「河内国大県郡雁田尾地蔵堂鐘銘」は黒地白文のまた、巻七の84「河内国大県郡雁田尾地蔵堂鐘銘」は黒地白文のまたるやの疑あり」と記している。

嶋延福寺鐘銘」、111「和泉国高倉村高蔵寺古鐃銘」の三件を追加する。 八十五冊本では末尾に108「河内国道明寺鐘銘」、109「摂津国兵庫経

(3) 兵器

内題はすべて「集古十種 兵器類」となる。器 弓矢」、「兵器 旌旗」、「兵器 刀剣之類」、「兵器 馬具」とあり、四巻、「刀剣」二巻、「馬具」二巻の計九巻九冊から成り、現在までに四巻、「刃剣」二巻、「馬具」二巻の計九巻九冊から成り、現在までに三巻、「馬具」三巻により構成されるのに対して、「弓矢」一巻、「旌旗」八十五冊本が「甲冑」十二巻、「弓矢」二巻、「旌旗」五巻、「刀剣」

いて次のような同じ凡例が収録される。「弓矢」、「旌旗」、「刀剣」、「馬具」はすべて冒頭に序文を掲げ、続

例

なり。 在りて枚挙須べからざるは、覧者は図に就きてこれを求めるべき凡そ題して曰く、某蔵甲胄とは所謂腹巻胴丸の類なり。其の中に凡そ甲冑、弓矢、旌旗、刀剣、兵器に係るものは皆此集に載せる。

凡そ邦制の甲冑の分目は、或いは函工の方言に依り、或いは後人の付会に出づる。笠印付環は又高勝環と為し、天空は又息出と為に随い、載せるに随てこれに注する故に、前後体例未だ帰一ならに随い、載せるに随てこれに注する故に、前後体例未だ帰一ならであるの有り。然らば其の意自ら断らかにて、今必ずしも改めざるなり。

は集古十種考に付す。 難きなり。此の集一つは俗称に仍て其の衆説の折衷を取舎す。諸甲冑分目の説は、近世故実を称する者多く付会にして、尽く従い

に傚う。
ののでは、集古十種考に詳らかなり。刀剣鞍鐙の属も亦此りに説を改めず。集古十種考に詳らかなり。刀剣鞍鐙の属も亦此時の製にあらざる有り。今しばらく伝称に随て登録し、敢えて妄見をおすれども間に新製有り。或いは某鎧を称すれども当

ば、今謹んで収載し、敢えて私見を以て斥棄せず。凡そ刀剣の間、蛮製に似たるもの有りて、現伝し本祠の宝器為れ

の猶お体製を弁るべきも則ち別に出ださず。則ち元文を写して付す。未だ筆意の委曲を知らしめず。但だ縮字凡そ旌旗は方幅容れ難く、皆縮写し以て収む。其の題字に至ては、

雖も、今敢えて省かず。幅長短則ち得るべからざるして知れば、又或いは後世の書く所と四天王寺所蔵の古旌旗の今存する所は其の題字のみ。若し夫れ全

るあたわざればなり。凡そ此の集は得るに随て収入す。是れ世次年代を以て皆以て序す

凡そ文字の脱誤、書画の紕謬は、覧者の考訂を俟ちて改めん。

(原漢文)

たと考えてよかろう。
器に係るものは皆此集に載せる」とあることから、「甲冑」も存在し器に係るものは皆此集に載せる」とあることから、「甲冑」も存在し

衛家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 電家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 電家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 電家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 電家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 電家蔵源義経朝臣靱図」は図が異なる。 まず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たにまず「弓矢」巻一は八十五冊本の巻一にほぼ相当し、巻二が新たいますが、

「旌旗」四巻はおおよそ八十五冊本の巻一~三と巻四、巻五前半に

三件、巻四に39~42、巻五に47~50のそれぞれ四件を追加する。蔵源三位頼政旗棹図」、25「細川家臣大矢野某家蔵菊池家旗紋図」の相当する。巻三に19「信貴山本覚院蔵楠正成旗図」、23「宇治平等院

塁所獲鍔図」を追加する。また、14「本阿弥三郎兵衛代々所守護鬼丸 図った箇所も少なくない。 高山国分寺蔵小烏丸太刀図」がある。また、具体的に所蔵者を記して 新する。図が異なるものは他に15「相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵杏葉太刀 国牛窓御皇后社蔵太刀図」、 蔵楠正成卿短刀図」、 氏公短刀図」、24「安芸国厳島社蔵太刀図」、48「河内国天野山金剛寺 いたものが「或家蔵」や「蔵未詳」となるなど、訂正や表記の統一を 太刀図」、95「河内国天野山金剛寺蔵後醍醐天皇御剣図」、102 太刀図」は「酒井家蔵」との誤った記載を訂正するとともに、 「刀剣」二巻は八十五冊本の巻三途中までの内容となっており、 124および2「伊勢国大神宮蔵太刀図」、 41 「出雲国大社蔵剣図」、 50「横瀬家蔵源義貞朝臣目貫小柄図」、71 99 「陸奥国会津商家森与三郎蔵於山崎古 63 「摂津国農家栗花落理左衛門蔵 6 「安芸国厳島社蔵足利尊 「飛騨国 図を更 「備前 103

綱銜図」や61「伊勢内宮文殿蔵銜図」は異なる図に更新する。図」を「家蔵銜図」に差し替え、30「備前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛三郎兵衛蔵大塔宮鞍図」に、39「大和国奈良東大寺八幡宮蔵鎖鞚并鐙三郎兵衛蔵大塔宮鞍図」に、39「大和国奈良東大寺八幡宮蔵鎖鞚并鐙」を「本阿弥丁馬具」二巻は八十五冊本の巻一、巻二に相当し、十七件を収録す

(4) 銅器

以下、銅器篇と呼称する。序文に続いて掲げる次の凡例は、八十五冊外題に「集古十種稿 銅器古鏡」、内題に「集古十種 銅器」とある。

本も同様である。

凡例

あたはざればなり。一凡そ此の集は得るに随て収入す。是れ世次年代を以て序するに一凡そ鏡鐸匜盤の銅器に係わるものは皆、此の集に載す。

きは、今しばらく収入し以て博覧に資す。(原漢文)一凡そ物の偽贋に渉ること疑うべきと雖も、的證の指摘すべき無

一巻のみであり、三巻で構成される八十五冊本の巻一にほぼ相当する。外題に「古鏡」とあるように、『稿』の収録資料は鏡のみであっる。外題に「古鏡」とあるように、『稿』の収録資料は鏡のみであったが、八十五冊本で追加した「蜷川氏蔵山城国宇治郡掘地所得埴鏡図」以降の六十一件には、鈴や水瓶、香炉なども含まれる。なお、法隆寺以降の六十一件には、鈴や水瓶、香炉なども含まれる。なお、法隆寺以降の六十一件には、鈴や水瓶、香炉なども含まれる。なお、法隆寺は追加した35「大和国奈良法隆寺蔵鏡図」三」のひとつとして掲載が、八十五冊本の巻一にほぼ相当する。

(5) 楽器

巻一冒頭には序文があり、次のような凡例が続く。鼓、笛、笙、箏、琴、篳篥や舞楽面などを収録し、四巻四冊から成る。外題に「集古十種稿楽器」、内題に「集古十種楽器部」とある。

凡例

ずしも以て序ならず。凡そ此の集は、得るに随て収入し、年代の前後、品類の次第は必

凡そ笛・篳篥は其れ名器を称するは、其の音律の絶凡なるを以てあたはず、審訂ししばらく旧模に随て収入す。に伝模の本は多く斜向一図を止めるのみ。今尽く原器に就くこと凡そ仮面は正面側面並び備えて後に其の全象を見るべし。しかる

凡そ物の偽贋に渉ること疑うべき有りと雖も、明証の拠るべき無からず。今皆収入し其の凡器と別無きを嫌はず。す。その形象に至りては他器と大異無くして、図は以て分別すべ

きは亦しばらく収入し、敢えて黜落を憶断せず。(原漢文)

八十五冊本にはこの後にさらに次の一条が追加される。

て之を収入す。故に大小同じからざるもの有り。(原漢文)凡そ得る所の模本は、正図有り、縮図有り。今一たび模本に仍り

でいた他の篇と同じく名称表記の統一を図るとともに、約五十件を増さらに他の篇と同じく名称表記の統一を図るとともに、約五十件を増さらに他の篇と同じく名称表記の統一を図るとともに、約五十件を増さらに他の篇と同じく名称表記の統一を図るとともに、約五十件を増ら、同図を拡大して掲載したとみられるものが多い。

(6) 文房

外題に「集古十種稿 文房」、内題に「集古十種 文房類」とあり、

いて、次の凡例を掲げる。八十五冊本が二巻で構成されるのに対して、一巻から成る。序文に続

凡例

れを以て硯は多く彼に譲り、此れには略す。近者平安の市人の出だす硯譜は頗る精博にして観るべきなり。是

はざればなり。 凡そ此の集は得るに随い収入す。是れ世次年代を以て序するあた

無きは、今しばらく収入し、以て博覧に資す。(原漢文)凡そ物の偽贋に渉ること疑うべき有りと雖も、的証の指摘すべき

た京・大和での寺社宝物調査の成果が『集古十種』にも多く反映され 明八年に幕府の寄合儒者として招かれた人物で、 る。 には天明七年、柴野栗山(一七三六~一八○七)による序文を掲げ 日中の名硯や著名人が使用したものを紹介した図入りの書物で、巻頭 などの著作が知られる。 九年序)、『本朝黄白志』(天明四年自跋)、『文林花押集』(文化六年刊 年序)、『捃印補遺』(文化七年〈一八一〇〉自序)、『壬申銷夏記』(文化 考』(天明二年〈一七八二〉 希聡、字を叡父、通称を万七郎といい、石隠とも号した。画家池大雅 の門人で篆刻家の韓天寿や高芙蓉らとも親交を重ねた。『芥子園画伝 の著した『和漢研譜』(寛政七年自序)を指すと思われる。台麓は名を ここでいう硯譜は、 もと徳島蜂須賀藩の儒者であった栗山は、定信が老中就任中の天 定信もこの 『和漢研譜』を参照したとみてよかろう。 京都の画家・鳥羽台麓(一七三九~一八二三) 寛政九年に刊行された『和漢研譜』三巻は 序、寛政十二年刊)、『捃印補正』(寛政十一 寛政四年におこなっ

八十五冊本にはさらに次の一文を追加する。

は、敢えて之れを此の部中に録す。(原漢文)已に一定と為り、頗る収入し難し。故に少しく文房具に類する者凡そ継いで得たる所の、古物に徴するに足るもの有れども、門部

われる。
『稿』刊行以降に追加収録することとした資料のなかには、掲載する

風字硯図」、24「同蔵硯図」については、図が異なっている。訂正する。また、9「壬生寺蔵壬生忠岑硯図」、23「東寺蔵弘法大師蔵澄泥研図」に差し替え、27「東大寺蔵朝倉義景硯図」を本能寺蔵へ八十五冊本では二十二件を増補するとともに、20「東寺蔵硯図」を「家

(7) 印章

次のような凡例からはじまる。
印章類」とある。冒頭に序文がない点がこれまでとは異なっており、印章類」とある。冒頭に序文がない点がこれまでとは異なっており、印影を掲載する。外題に「集古十種稿」印章」、内題に「集古十種印影を掲載する。外題に「集古十種稿」印章」、内題に「集古十種の図と烙印のりによる印影(一部墨刷りあり)、巻四の計五冊から成り、巻一〜三には朱刷印章篇は目録巻と巻一〜巻四の計五冊から成り、巻一〜三には朱刷

凡例

を成す。今一たび之を本とし、余が捜討し獲る所を以て之を補う。凡そ官私の古印章は、平安の藤貞幹なるもの、前に既に模写し集

凡そ物の偽贋に渉ること疑うべき有りと雖も、的証の指摘すべき凡そ鈕櫃の亦古製多きは、今皆模写し収入す。之を約すに貞幹の功十に七八居り。

無きは、今しばらく収入し、以て博覧に資す。

(原漢文)

写の奥書を有する。 ちらには明治二十年荻原厳雄の奥書があり、 会図書館所蔵本も同じ内容ながら、 件+附録三件+別録一 印影が掲載される。後者は早稲田大学附属図書館蔵本を見ると六十九 は宮内庁書陵部所蔵本に三十七点、 印譜』(安永二年〈一七七三〉自序) 十種』の編纂における情報源としても重要な人物である。『集古図』 瑞祥斎、好古などと号した。京都に住む考証家として知られ、『集古 た資料を補ったため、七~八割は貞幹の功績であるとする。藤貞幹 古い印章はすでに藤貞幹の著作があり、これをもととして新たに得 (一七三二~九七) は字を子冬、 『好古日録』など多数の著作を残しており、 一十三件+補四件の計九十九件が収録される。国 通称を叔蔵といい、 国立国会図書館所蔵本に四十点の 補の書写が不充分となる。ただこ や『金石遺文』が知られる。前者 もとの本には天明三年書 印譜としては『公私古 無仏斎、 蒙斎、

八十五冊本にはさらに次の文を追加する。

て其の泄らせし所を録す。は亦多く集載す。以て閲に就くべきなり。故に今襲取せず、別し画幅の印識は、往々にして観るべきもの有り。辨玉集、本朝画印

凡そ此の編は、得るに随いて収入す。故に世次年代は拘々せずし

と雖も聊か工夫之有るを見て序とす。(原漢文)を分ける。標示するに、追加の字を以てす。新旧の混糅妨げ無き初編次いで緒成り、後に復た之を得るもの有れば、輙ち別に巻冊

はともに印影を掲載するものの、 追加される以外は巻四まで『稿』と同内容となっている。追加の二冊 凡例との対応が窺える。 た資料のみ収録したという。また、後から採集した資料については、 に数多く収録されるものの、 〈一六七二〉刊)や狩野永納の『本朝画印』(元禄六年〈一六九三〉刊) 絵画に押された印にも観るべきものがあり、 「印章序目」)と巻一~四、 「追加」と題して別巻にまとめたとする。 追加二巻の計七冊から成り、最後に一点が 重複するものは採用せず、これらに漏れ 追加二は画印のみを掲載しており、 八十五冊本は目録巻 『辨玉集』 (寛文十二年 (外題

(8) 扁額

く序文が掲げられておらず、次のような凡例からはじまる。 稿 扁額」とし、内題には「集古十種 扁額」とある。印章篇と同じ扁額篇は目録巻と巻一~巻八の計九冊から成る。外題は「集古十種

凡例

題署の体法は秦漢より起こる

は独だ書家者模本を流げるのみ。今一たびは之に拠りて編入て宮闕荒廃し、諸公の名蹟は亦散亡に随て、其の僅かに存するの扁額を以て一王の典刑を煥成す。但だ中葉以降、乾綱紐を解本朝の名賢親しく之を隋唐より承り、世の能有るは、是れ宮殿

真蹟往々にして見存す。亦就ては原本を模取し編入す。す。其れ仏閣神祠に在るものは、僻遠なるを以て兵火を免れ、

るなり。

は去すべし。但だ其の狂冤有るを恐れ、敢えて妄りに武断せざ録し、他日再論し是を訂さん。明折に非ざるは、然る後に之を集めし内には贋作を疑うべきも間に之れ有るも、亦姑く焉に収

は、則ち以て毫末も謬たざるべし。(原漢文) で、若し旧観を復せんと欲さば、線方に照らして大きさに放わす。若し旧観を復せんと欲さば、線方に照らして大きさに放わ字体長大なるものは、陳繹曾の八面九宮の図法に倣い縮写収入字体長大なるものは、陳繹曾の八面九宮の図法に倣い縮写収入が、是を以て一人数見するもの有り。新旧羼入するもの有り。

八五冊本にはこれに加えて、

人の書を以て雑ぜる。其の体裁は諸集と同じからざる有り。地詳らかならざるものも亦姑く収載し、以て他日を待つ。地詳らかならざるものも亦姑く収載し、以て他日を待つ。一此の集、多くは模本より出づると雖も、未だ其の蔵及び所在の

(原漢文)

の文章もこれまでの篇とはやや趣を異にする。古十種』の一篇として刊行することになったという。そのためか凡例とあり、もとは『扁額広覧』として別に刊行の予定であったが、『集

る

量を示す。所蔵者などを記さない点でも他の篇と体裁が異なる。本 長一尺九寸九分三厘 七線 広九寸五分 十五線」と縦・横の法国次は「百寿」のように扁額に記される語をまず掲げ、その次に「原

加する。
、大五冊本では「別録」として一冊を設けて三十七件を追法大師真蹟)が入れ替わるほか、巻八までの相違は資料名称の訂正の内容をみると、巻七の34「常楽門」(弘法大師真蹟)と25「貞観殿」(弘

(9) 古画・法帖

卿真蹟小倉色紙」(一冊)、③「名物 古画」(一冊)が含まれる。 うちの①「法帖 大師真蹟七祖賛 上・下」(二冊)、②「法帖 定家一冊、「名物 古画」一冊の五篇がある。センチュリー本には、この一冊、「名物 古画」一冊の五篇がある。センチュリー本には、この一冊、「名物 古画」(一冊)、「七祖賛 弘法以上のほか、八十五冊本には「古画 肖像」五冊、「七祖賛 弘法

期の刊本とみておく。

財の刊本とみておく。

東古・五冊本に序文、目録、凡例が一切ないことから、これ以上のことは現時点ではわからないものの、外題に「集古十種」とあり、『稿』とのに対して、センチュリー本には七祖像が収められていない。まず①は八十五冊本が冒頭に七祖の肖像を掲げ、その後に賛を掲載まず①は八十五冊本が冒頭に七祖の肖像を掲げ、その後に賛を掲載

刻」の文字が欠落することから、刊行時期はむしろ下がる可能性もあは考え難く、国会図書館所蔵の八十五冊本にある末尾の「宮田行連謹紙」とあり、内容は八十五冊本と変わらない。『稿』と一連のものと次に②の外題は朱色の題簽に「集古十種 法帖 定家卿真蹟小倉色

はこれを削ったことがわかる。

はこれを削ったことがわかる。

はこれを削ったことがら落丁とは考えられず、また、三井家の次郎右衛門、三ていることから落丁とは考えられず、また、三井家の次郎右衛門、三ていることから落丁とは考えられず、また、三井家の次郎右衛門、三なお、彦根城博物館には「小倉山の色紙写」との手書きの題簽を貼っなお、彦根城博物館には「小倉山の色紙写」との手書きの題簽を貼っ

晁縮摹 清風謹刻」の文字があり、早期の刊本の可能性がある。③の外題および内容は八十五冊本と共通する。②とは逆に末尾に「文

性がきわめて高い。

世がきわめて高い。

他紙」一冊の刊行が確認できることから、本資料は『稿』である可能に八十五冊本と異なる特徴があり、尾崎雅嘉の『群書一覧』で「小倉に八十五冊本と異なる特徴があり、尾崎雅嘉の『群書一覧』で「小倉以上の検討より、現状ではセンチュリー本の三篇は『稿』とは分け

八十五冊本『集古十種』に追加された資料の検討

討しておきたい。

「福』と八十五冊本の比較により、碑銘篇と鐘銘篇は『稿』の段階でかなり完本に近い構成となっているのに対して、兵器篇や銅器篇、でがなり完本に近い構成となっているのに対して、兵器篇や銅器篇、『稿』と八十五冊本の比較により、碑銘篇と鐘銘篇は『稿』の段階

(1) 碑銘・鐘銘

巻八にも81「磨崖碑」として碑文を再録し、次のような一文を付す。 碑銘篇の巻六に全図と拓本を掲載する67「大和国宇知川摩崖碑」は、

前の淂る所に比べて文意殆んど解明す。因て復び収入焉。(原漢文)頃者復び人をして其の碑を打たしむるに、更に百有余字を淂。諸文二十有七字及び仏像一躯を得て、騰打齎来模刻して帖と為す。水府の儒臣・立原萬、曽て大和国に游び宇知川を遵行し、磨崖碑

社大学 観し、 中ニテ多ク打コト能ハス二三紙ヲ得タリ」と記すことから、 春行) 幹や橋本経亮、儒者安藤箕山 藤田幽谷、 号した。水戸徳川家に仕え、 に出掛けており、 肆の茨城(小川)多左衛門 名を萬、字を伯時、 録される拓本はこの時に取られたものとわかる。 京都へ到着すると、藩用のため公家を訪ねる一方、故実考証家の藤貞 仕するまで『大日本史』の編纂に力を注いだことが知られる。 立原萬とは水戸藩の儒者・立原翠軒(一七四四~一八二三)である。 翠軒は藩主の命により上京したことがその日記『上京日記』 らと交友を深め、また洛中および近郊の寺社を訪ねて什物を展 石碑や扁額の拓本も取っている。四月二十三日からは南都巡行 貴重書デジタルアーカイブ)からわかる。二月十七日に同門 弟子小宮山楓軒らと水戸を出立した翠軒は、翌月十五日に 宇智川磨崖碑を訪れたのは五月十六日となる。 通称を甚五郎といい、 天明六年に彰考館総裁に進むと、 (柳枝軒)、 (庄助)、画家田中訥言、松本文平、 銭屋惣四郎 もと東里、 (竹苞楼、 致仕後に翠軒と 佐々木 以後致](同志

|年、定信のもとで『集古十種』編纂に携わる画家・谷文晁も宇智

る古物の情報が文晁にもたらされていた。とから、碑銘篇の編集がこの頃におこなわれていたとわかる。なお、とから、碑銘篇の編集がこの頃におこなわれていたとわかる。なお、とから、碑銘篇の編集がこの頃におこなわれていたとわかる。なお、川の磨崖碑を訪れており、その情報が巻八に反映されたとみられるこ川の磨崖碑を訪れており、その情報が巻八に反映されたとみられるこ

果、八十五冊本では省かれることとなったのであろう。 約百五十年間川底にあったためとみられる。 水でこの塔が宇治川に埋没し、 録されず慶安の追銘が採用されたのは、 三年(一六五〇)に淀藩主永井尚政が再興した時の追銘である。この し替える前の「南都西大寺塔銘」として収録される銘文は、 で追加された資料は「陸奥国伊達郡下大石村古碑」のみである。 石塔には弘安九年(一二八六)の銘があるにもかかわらず、古銘が収 (一五九六) の地震により相輪が落ちて上方四重が傾いたのを、 この篇は比較的早くに編集作業が進められたらしく、 叡尊により宇治川に造立された十三重石塔に刻まれ、慶長元年 明治四十一年に引き上げられるまでの 宝暦六年(一七五六)の大洪 銘の重要度を勘案した結 八十五冊 西大寺 慶安 差

彰する「霊山碑」がある。 寛内には文化十四年、松平定信により建てられた北畠顕家の忠節を顕明大石字倉波にあり、「元徳供養石塔」と称される。近くの日枝神社三年(一三三一年)に建てられた供養塔で、現在、福島県伊達市霊山三れに替わって追加された「陸奥国伊達郡下大石村古碑」は、元徳

(一五六九)九月十日の銘文を有する。ただし、『河内国名所図会』の志紀郡の尼寺・道明寺(大阪府藤井寺市道明寺)にあり、永禄十二年(鐘銘篇では三件を追加し、このうち「河内国道明寺鐘銘」は河内国

.明寺の項にこの鐘については触れられていない。

道

わかる。 年刊) 庫に納められたとあり、 有するという。後者には宮中の寄附により新鐘が鋳造され、 鐘」と称される寺宝があり、 名勝志』(宝永二年序、正徳元年刊) 巻四や 『拾遺都名所図会』(天明七 (一四〇一) 妙覚寺、長享二年 「摂津国兵庫経嶋延福寺鐘銘」には「曇華院宮御蔵」とある。 巻一によると、 東洞院三条にあった通玄寺曇華院には 新鋳の銘より安永三年(一七七四) 延文元年 (一三五六) (一四八八)金龍寺という三寺の銘を 延福寺、 のことと 古鐘は宝 応永八年 Ш

この二篇の追加資料は少なく、増補の事情や時期は明確にできな久安五年十月十八日、大修恵院と鐫す」と記される。八年刊)巻四「大集会山天王院高倉寺」にも「当寺の什具鐃の銘に曰、「和泉国高倉村高蔵寺古鐃銘」は行基開基と伝えられる古刹・高倉

(2)兵器・銅器・楽器・文房

い。そこで追加資料の多い他の篇についても検討したい。

含まれており、網掛けで示して区別した。のぼる。それらを所有者に着目してまとめたのが表2である。このなのぼる。それらを所有者に着目してまとめたのが表2である。このなみに、興器、頻器、楽器、文房の四篇も寛政十二年の序文を有するものの、兵器、銅器、楽器、文房の四篇も寛政十二年の序文を有するものの、

おこなったことがこの事業の特徴である。寛政四年、柴野栗山が住吉を集めることからはじまったと考えられ、それに加えて実物の調査を『集古十種』の編纂は各篇の凡例にもあるように、まず拓本や模本

表2 85冊本追加資料 (兵器篇·銅器篇·楽器篇·文房篇)

国名	寺社名	資料名〔収録篇名・番号〕
陸奥国	佐場野医王寺	古鏃 〔弓矢38〕
	会津塔寺八幡宮	古鏃 (弓矢50)
	那麻上三宮三島社	田楽面 [楽器49]
	平泉毛越寺	面 二 [楽器78]
	平泉中尊寺白山権現	面 二 [楽器79]
出羽国	秋田郡寺内村田村神	利仁将軍矢 [弓矢54]
	雄勝郡杉宮三輪山吉祥院	矢 (弓矢55)
	仙北郡神宮寺村八幡宮	旗 〔旌旗40〕
武蔵国	馬込村万福寺	梶原平三景時鏃 [弓矢51]
下野国	那須山湯泉権現社	那須与市資隆矢 [弓矢12]
下総国	行徳善照寺	鈴 [銅器81]
常陸国	鹿嶋郡正等寺	駅鈴 (銅器82)
相模国	鎌倉建長寺	鈴〔銅器73〕
駿河国	府中宝泰院	硯 〔文房38〕
越後国	青梅神社(社人古川■)	銅器 (境内掘地所得) (銅器65)
尾張国	熱田宮	箙(此図前出雖然精密此図劣故亦図之)[弓矢53]
伊勢国	大神宮	太刀 (刀剣2)
	多度太神宮	鏡 三十 (銅器29)
山城国	本国寺	笙 二 (楽器37)、小蝶丸笙 (楽器101)
	本能寺	鶯丸笙 [楽器94]、鈴虫篳篥 [楽器95]、笙 [楽器100]、虎生笙 [楽器111]
	東寺	平調板 [楽器63]、舞楽帽子 [楽器99]
	要法寺	笙 (楽器104)
	清閑寺	筝 [楽器112]、高倉帝御硯箱 [文房56]
	下御霊社	神鏡 (銅器36)
	五条金光寺市姫宮	神鏡 (銅器41)
	宇治平等院	源三位頼政旗棹 [旌旗23]
摂津国	神秀山満願寺	幸寿丸太刀〔刀剣104〕
	勝尾寺	開成皇子御硯〔文房50〕
	吾彦山大聖寺中坊不動院	楠正成小旗 [旌旗48]、不動尊剣 [刀剣114]、雲次剣 [刀剣115]
	住吉社	源義経朝臣鞍 (馬具50)
	慈眼庵	鏡〔銅器48〕
河内国	道明寺	菅公鏡〔銅器44〕
	駒谷五所明神	埴鏡 二 [銅器50]
	誉田八幡宮	源頼朝卿鞍 [馬具49]、明亨石硯 [文房43]
	壺井八幡宮	源義家朝臣鏃 (弓矢37)、丸木弓 〔弓矢58〕
	葛井寺	楠正成旗〔旌旗47〕
	金剛寺	楠正成卿短刀 (刀剣48)
	観心寺	半月硯〔文房54〕、墨溜〔文房55〕
大和国	法隆寺	丸木弓 [弓矢39]、 矢 [弓矢36] 、鏡 三 [銅器35]、鈴 [銅器59]、金山寺香炉 [銅器62]、水瓶 [銅器63]、香炉 [銅器64]、風炉 [銅器66]、銅量 [銅器67]、鈴 [銅器69]、雪夜篳篥 [楽器96]、福原笛 [楽器97]、源信寄附面 (楽器102)、太鼓火焰 [楽器107]、駄太鼓火焰 [楽器108]
	龍田社	古鏃〔弓矢48〕、鏡 二〔銅器31〕
	信貴山本覚院	楠正成旗 (旌旗19)
	東大寺	熊蛮絵 (楽器27)、文書袋 三 (文房40)
	東大寺八幡宮	競馬太刀 [刀剣112]、唐鞍 [馬具59]、胡徳楽瓶子 [楽器64]、新靺鞨纓 [楽器82]、笏 [楽器84]、靴 [楽器85]
	東大寺勧進所	62)、勿 (米益64)、判 (米益60) 鐙 (馬具47)
	法貴寺	□籠〔馬具62〕
	安条寺	つ龍 (海県の2) 役行者作面 二 (楽器77)
	景清地蔵堂	鏡 (銅器45)
紀伊国	高野山興山寺	旗(旌旗42)

国名	寺社名	資料名〔収録篇名・番号〕					
紀伊国	高野山龍光院	剣・同鞘(大師於神泉苑請雨之時所持)[刀剣103]、鈴〔銅器70]、弘法					
/ICI/ EI		大師硯箱并硯〔文房58〕					
	高野山高室院	硯〔文房48〕					
	高野山宝積院	水瓶 [銅器58]、硯 [文房53]					
	高野山某	夾竿〔文房45〕					
	熊野新宮	平胡籙 [弓矢43]、背負椊 [弓矢44]、杏葉 [馬具52]、鐙 [馬具53]、鞭 [馬具57]					
播磨国	鶴林寺	永田幸介鏃 [弓矢10]、太鼓火焔 [楽器65]					
	鵤太子寺	笙匣 [楽器105]、鞨鼓・鞨鼓台 [楽器106]					
	清水寺	田村丸剣太刀 三 (刀剣105)					
	大山寺	鞨鼓 [楽器66]、笙 [楽器67]、笛 [楽器68]、鞨鼓台 [楽器69]					
	多門寺	慈覚大師伝来笛 (楽器72)					
	室明神	琵琶 (楽器110)					
備前国	牛窓御皇后社	太刀〔刀剣71〕、厚総〔馬具58〕					
備後国	吉備宮 (一宮)	面 三 [楽器60]、舞楽太刀 [楽器103]					
	八幡村八幡宮	神鏡 二 [銅器40]					
		足利尊氏公短刀 [刀剣6]、太刀 [刀剣24]、菊紋太刀 [刀剣117]、神鏡 [銅器					
安芸国	厳島社	42]、玉笛 [楽器80]、鉄笛 [楽器98]、琵琶 [楽器109]、硯 [文房49]、家棚守将					
		監蔵硯〔文房51〕					
長門国	一宮	飾馬具 [馬具46]					
隠岐国	若玉酢社	駅鈴 [銅器74]					
讃岐国	白峯寺	為朝矢 (弓矢52)、面 三 [楽器70]、崇徳帝御物笙 [楽器71]					
伊予国	三島社(三島明神)	矢 [弓矢49]、義政公水瓶 [銅器56]、義政公湯瓶 [銅器57]					
豊後国	姥嶽社	鏃〔弓矢7〕					

所蔵者	資料名〔収録篇名・番号〕
紀伊徳川家	寛治丸笛 [楽器11]、冠古琴 [楽器62]、琵琶 [楽器113]、四霊硯 [文房37]
姫路(酒井)家	劉基硯〔文房47〕
佐竹家	古製筑紫箙 [月矢46]、古鏃 (出羽国仙北郡金沢村民間所得)[月矢56]、
	鏡 二 [銅器68]、鈴 [銅器86]
伊予松山家	鐙 [馬具48]
朽木家 (福知山藩主)	鏡〔銅器51〕
大洲家 (大洲藩主加藤家)	梶原景時鞍 [馬具55]
宮川家(宮川藩主堀田家)	銅鼓 〔銅器83〕
家蔵(松平定信)	鏃(陸奥国磐瀬郡須賀川駅伐木所獲)(弓矢59)
	鏃(陸奥国磐瀬郡鏡沼村堀地所獲)[弓矢60]
	鏃(陸奥国田村郡守山耕田所獲)[弓矢61]
	伊勢守貞信作応永年間鞍 (馬具56)
	銜 (■■堀地所獲)[馬具39]
	鏡 二 (信濃国更級郡石川村掘地所得) [銅器52]
	銅磬 (陸奥国盤瀬郡鏡沼村掘地所得) [銅器71]
	乾統鐘 [銅器88]、笛 三 [楽器88]、明石篳篥 [楽器92]、澄泥研 [文房20]、
	相州瓦硯〔文房46〕
那須家	宇都宮俊綱旗 [旌旗50]、与市宗高太刀金具 [刀剣122]
横瀬家	新田義貞朝臣旗 六 [旌旗49]、源義貞朝臣目貫小柄 [刀劍50]
由良家	太刀 [刀剣111]
蜷川氏	埴鏡(山城国宇治郡掘地所得)[銅器28]
中氏	白菊丸笙 [楽器28]
佐竹家臣今村正昶	古製狩箙 [弓矢45]
細川家臣大矢野某家	菊池家旗紋 (旌旗25)
会津家臣坂本覚兵衛	足利尊氏公鍔及金具 (刀剣119)
家臣高松内匠	佐藤嗣信鞍 [馬具51]
高松家臣■■	口籠 (馬具60)

所蔵者	資料名〔収録篇名・番号〕
姫路家臣山田安貞	宝鐸(播磨国宍粟郡須賀山中掘地所得)[銅器87]
本阿弥三郎兵衛	大塔宮鞍 [馬具33]
中村弥太夫(仏庵、書家)	澄泥硯 [文房36]、文台 [文房41]
相模国松田某	文明年間硯 (文房52)
伊勢国津市医・庭田生安	几〔文房39〕
尾張国海東郡木田村大館■(高門)	鈴 (銅器80)
京師怡顔斎(松岡恕庵)	詩囊 (文房42)
橋本肥後守(経亮)	鏡 [銅器38]
古梅園	唐李家烟墨璽〔文房44〕
近江国山田浦隠士(木内)石亭	鏡 二 [銅器34]、鎮宅霊符 [銅器54]
阿波国阿佐氏家	旗 二 〔旌旗39〕
陸奥国塩竃社人藤塚某(知明)	古弓 (弓矢41)
会津商家森与三郎	鍔(於山崎古塁所獲)(刀剣99)
仙台商家川村■	鈴 (銅器85)
名古屋商家■	鳥首太刀金具(美濃国各務郡蘇原村古墳中所獲)(刀剣120)
大坂商家加島屋源太兵衛	古鏃〔弓矢47〕
大坂商家加島屋源太兵衛	鏡 [銅器46]、鈴 [銅器61]
大坂商家吉田道可	鏡 二 〔銅器37〕
大坂商家岡野新次	赤松律師則祐旗 (旌旗41)
大坂商家	楠正成卿短刀 (刀剣113)
大阪商家	鳩丸短刀 (刀剣123)
大阪商家	楠正成卿短刀 [刀剣124]
大坂商家	義昭公藤丸短刀 (刀剣116)
岡山商家河本又三郎	鏡 十〔銅器47〕、笙 三 [楽器73]、鶯丸笛·高麗笛 [楽器74]、蘭陵王面 [楽
Paradon 1 / October	器75]、鞨鼓台 二 [楽器76]、月琴 [楽器81]
和泉国■尾村農家北村失名	源義経朝臣鞍 (馬具54)
河内国南別井村農家松村失名	楠氏弓〔弓矢40〕
讃岐国□北村官兵衛	駅鈴并小鈴 [銅器60]
讃岐国陶村村長岡田官兵衛家	鏡 五十三 (銅器30)
或蔵	鏡 三 [銅器32]
	鏡〔銅器33〕
	鈴 五 [銅器53]
	鈴 (銅器84)
	模弦上琵琶 (楽器114)
所蔵未詳	平胡籙〔弓矢42〕
	楠正成旗 〔旌旗34〕
	熊谷次郎直実旗 三 〔旌旗35〕
	鏃(出羽国仙北郡金沢村伐木所獲)[弓矢57]
	鏡(摂津国清水村掘地所得)[銅器39]
	鈴 (大和国吉野山中掘地所得)[銅器75]
	鈴 (河内国交野郡渚村掘地所得) (銅器76)
	鈴(上総国周准郡貞元村貞元親王墓傍掘地所得)[銅器77]
	鈴(上総国周准郡貞元村神将寺掘地所得)[銅器55]
	水滴 (相模国鎌倉管領屋敷跡掘地所得) (銅器78)
	鈴(常陸国茨城郡台渡村掘地所得)[銅器79]
	鏡(伊予国出作村農民掘地所得)(銅器43)
	鏡(和泉国堺掘地所得)〔銅器49〕
	鈴 (備中国貿陽郡八田部村掘地所得) (銅器72)
	磁硯 (文房57)
	100 to F F 100 TO

- ・他の所蔵品が『稿』に掲載される所蔵者は網掛けで示した。
- ・『稿』本編には収録されないものの、目次には記載される資料はゴシック体で示した。

佐行、屋代弘賢をともなっておこなった京・大和の寺社宝物調査はそのひとつであり、その記録『寺社宝物展閲目録』によると、本能寺やのひとつであり、その記録『寺社宝物展閲目録』によると、本能寺やのひとつであり、その記録『寺社宝物展閲目録』によると、本能寺やあり、文房篇に「朝倉義景硯」〔文房27〕(ただし東大寺蔵と誤る)を器9〕、文房篇に「朝倉義景硯」〔文房27〕(ただし東大寺蔵と誤る)を器9〕、文房篇に「朝倉義景硯」〔文房27〕(ただし東大寺蔵と誤る)を器り、加えて「大太刀一腰」、「馬加剣一腰」、「菊一文字守刀一腰」、「大太刀一腰」、「南倉義景硯」としてすべてが『寺社宝物展閲目録』にみえる。この五点には描き写したことを示す△印を付しており、加えて「大太刀一腰」には○印も添え、取り寄せて実見すべきおり、加えて「大太刀一腰」には○印も添え、取り寄せて実見すべきおり、加えて「大太刀一腰」には○印も添え、取り寄せて実見すべきおり、加えて「大太刀一腰」には○印も添え、取り寄せて実見すべきたり、屋代弘賢をともなっておこなった京・大和の寺社宝物調査はそれている。

ろう。 ない。これ以降に再度調査をおこなったか、模本を入手したことになないことから図に写されておらず、「虎生笙」〔楽器Ⅲ〕は含まれてい器9〕、「笙」〔楽器∞〕は『寺社宝物展閲目録』にみえるものの△印が出方、八十五冊本で追加したうち「鶯丸笙」〔楽器9〕、「鈴虫篳篥」〔楽

る。

「関にこれらの資料は含まれず、二十九点すべてが書画となっていめ一覧にこれらの資料は含まれず、二十九点すべてが書画となっていと称され、七月二十日、本能寺に訪れたことを記す。ただし調査作品して寺社や名士の所蔵品調査をおこなった。その記録は『文晁過眼録』、次いで寛政八年には谷文晁が弟子喜多武清や広瀬蒙斎とともに上京、

情報が反映されていると考えられる。二人は寛政十一年四月から八月信の命を受けて大野文泉と僧白雲が畿内・山陽道を遊歴した際に得たのだろうか。畿内や西国の資料については、寛政十一年、十二年に定では追加資料の情報はいつどのように定信らのもとへもたらされた

展観が催されたという。 展観が催されたという。 はから伯耆、米子にまで至った。十月に大坂へ戻り、十一月初旬には帰から伯耆、米子にまで至った。十月に大坂へ戻り、十一月初旬には備前から伯耆、米子にまで至った。十月に大坂へ戻り、九亀を経て九月には備前にかけて大坂の木村蒹葭堂宅を拠点として畿内で資料収集をおこなっ

能性は高い。十月二十日には大坂を立って江戸へ戻った。 一起き、大坂では再び木村蒹葭堂のもとに滞在した。そこから山陽道ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊ない、茶山に披露したことがその日記に記される。両社とも八十五冊はこなったらしく、本能寺についてもこの時に調査がおこなわれた可認を四月、二人は再び江戸を立ち、中山道から木曽、美濃を経て京と、大坂では再び江戸を立ち、中山道から木曽、美濃を経て京田で資料が追加された。

とができる。 とが確認されている。 『集 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古十種』の「古画 肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 古・一種』の「古画・肖像」にも収録される岡山河本氏所蔵の藤原定家 とができる。

再写与熊田氏、維時享和元秋日也。閑松堂白雲誌清雅不今世筆意矣。予寛政庚申秋西遊請乞而模写之。今歳辛酉、此像者備前岡山處士河本又七郎家蔵、而不知何人画、云何愛古色

する手掛かりともなる。 では一致しないものの、釜口普賢院、高野山宝積院、和泉駒谷金剛輪寺、は一致しないものの、釜口普賢院、高野山宝積院、和泉駒谷金剛輪寺、れたことが明確である。なお、「拓本帳」には『集古十種』収録品とめて描いたと記しており、河本家の調査が二度目の西遊時におこなわめて描いたと記しており、河本家の調査が二度目の西遊時におこなわ

閑雑記』後編第三に収録されるこの時の紀行文によると、分領である信夫郡、伊達郡十七村を巡見しているのが注目される。『退水に東北の資料については、寛政十二年八月に定信自身が白河藩の

んどは目とまるものなり。その余かずく、なればこゝへもらしつ。たる、又は須か川長者がたちの壺かゞみ、泥土中より出たる磬なたる、又は須か川長者がたちの壺かゞみ、泥土中より出たる磬なたる、又は須か川長者がたちの壺から護真寺の蔵、妙沢が不動の像かいたる、又は須か川長者がたちの壺かざみ、泥土中より出たる磬なたる、又は須か川長者がたちの壺かざく、なればこゝへもらしつ。

とが推測できる。 とが推測できる。

十八世紀において故実考証のために実物資料の模本が作られ、それ

張・大館高門所蔵の鳥形古鉄鈴(松浦社神宝)、 上総国周集郡貞元村神将寺の古鈴、 このなかには、①江戸・桂川中良所蔵の吉野後醍醐天皇皇居出土、 年、神宮文庫)をはじめ、多くの「古鈴図」が現在まで伝わっている。 記されることも多い。 蔵駅路鈴、 鈴集図』(寛政十二年、 各地に伝わる古鈴に関する注目度は高かったらしく、斎藤幸孝の『古 状況が詳細にわかるものがいくつかあり、これらは『集古十種』 れ、これらの多くは模本が写し伝えられたとみられ、 纂にあたっても参考にされたと考えられるという。江戸時代において ついても国学者や有職故実家、 したが、前々号の杉本研究員による論考によれば、銅器篇の鏡や鈴に 勢貞丈の周辺で各地の古武器などの情報が共有されていたことを検証 らに興味を持つ多くの人々の間で写し伝えられていった。前号では伊 ⑥讃岐国多度郡陶村三好官兵衛所蔵の駅路鈴などが収録な 静嘉堂文庫)や鈴木甘井の『古鈴之図』(文化八 愛石家などの間に情報がもたらされた ③下総国行徳善照寺の古鈴、 ⑤常陸国鹿島正等寺 当初の書写年が 4足 の編

年から九年にかけて白河藩に出仕し定信のもとで御小納戸格を務めた 十種』 ことにも注意を払う必要があろう。その随筆 際しては竹杖為軽、 甫粲とも号した。寛政頃までは家祖甫筑の元姓森島を名乗り、 られる。中良は奥医師桂川家の次男に生まれ、平賀源内に学んだ戯作 このうち桂川中良(一七五六?~一八一〇) にも同品の図を掲載し(図4左)、次のように記す。 蘭学者として知られる。字は虞臣、 の「大和国吉野山中掘地所得鈴」〔銅器75〕(図3) にあたるとみ 森羅万象、 築地善交などと称したという。 通称は次郎、 『桂林漫録』(寛政十二年 の所蔵する①は 万蔵で、 寛政六 戯作に 甫斎、



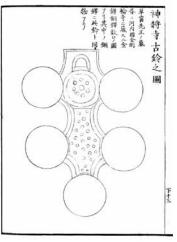


図4 神将寺蔵古鈴・桂林所蔵古鈴(『桂林漫録』)

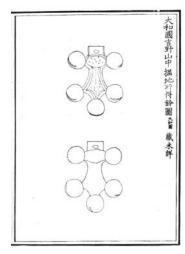


図3 吉野山中出土古鈴 (『集古十種』)

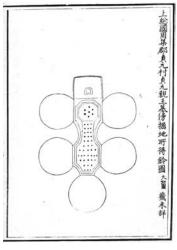


図7 神将寺蔵古鈴(『集古十種』)

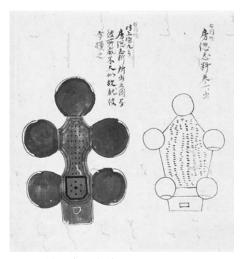


図 6 神将寺蔵古鈴 (『古鈴図』 国立国会図書館)



図5 神将寺蔵古鈴 (『房総志料』)

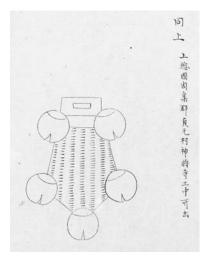


図9 神将寺蔵古鈴(藤貞幹『集古図』)



図8 神将寺蔵古鈴(『集古十種』)

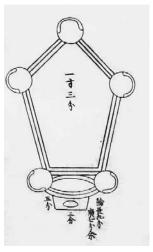


図12 行徳善照寺蔵古鈴 (『江戸名所図会』)

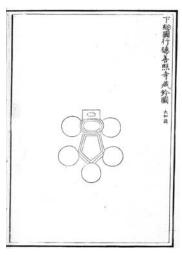
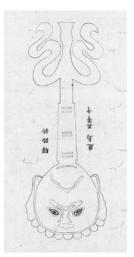


図11 行徳善照寺蔵古鈴 (『集古十種』)



図10 行徳善照寺蔵古鈴 (『古鈴図』 国立国会図書館)



以八木正富之所藏幕

図14 鹿島正統寺蔵古鈴(『古鈴図』 国立国会図書館)



図13 大館高門蔵鳥形鈴 (『集古十種』)



図17 讃岐·北村官兵衛蔵駅鈴 (『集古十種』)



図16 鹿島正統寺蔵古鈴 (伊勢貞丈『駅路鈴考』)

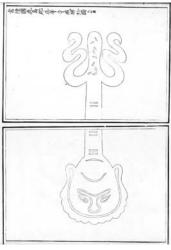
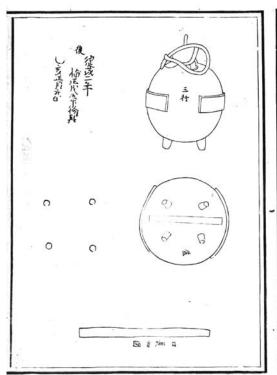


図15 鹿島正統寺蔵古鈴 (『集古十種』)



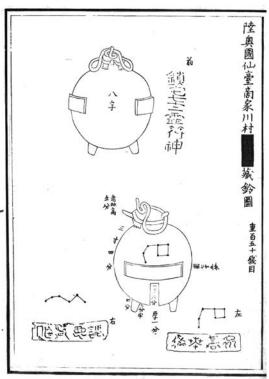


図18 仙台・川村家蔵鈴(『集古十種』)

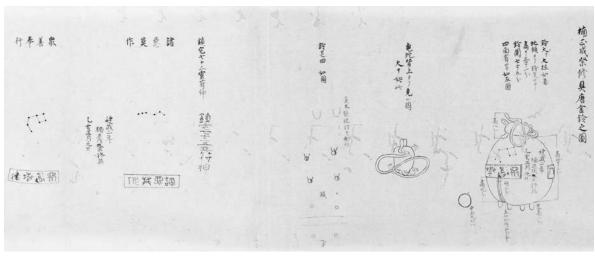


図19 楠正成祭修具唐金鈴之図(『古鈴図』 国立国会図書館)

顆(下略)。

 $\underbrace{6}_{\circ}$ 定信の ることから、少なくともこの頃にはその存在が耳に届いていたとわ に見出されて蝦夷地の探検をおこなったことが知られる人物である。 られる。秦檍丸(一七六四~一八〇八)は村上島之丞とも称し、定信 親王墓傍掘地所得鈴」〔銅器7〕(図7)はこれらをもとにしているとみ 形鈴杏葉(五鈴)であり、 図のほか、寛政三年に秦檍丸によって写されたものが収録される 5)。これが「古鈴図」に掲載される②にあたり、『房総志料』 ものの、その写本に掲載される図は『桂林漫録』とは大きく異なる(図 た 似たものがあることを知り、ここを訪れて実見した上でその図を写し 中良は上総国の神将寺(千葉県君津市貞元)に自身の持つ古鈴とよく いろ評判いたし、一日に四十五里づつ歩候男也とさた仕候よし」とあ (図4右)。房総志要とあるのは『房総志料』(宝暦十一年)を指す 億丸および中良が写した図の特徴から、これは古墳時代の剣菱 『よしの草子』 に寛政五年四月七日のこととして「億丸事いろ 『集古十種』 の「上総国周准郡貞元村貞元 所載 **図**

あるいはその原資料や同系統の模本を参照したとわかる。の『集古図』所載の図(図9)と近いことから、『集古図』そのもの、と雅拙な図ではあるものの、細部の特徴が一致しない。むしろ藤貞幹り、億丸の持つ神将寺錦の資料を得た可能性は高い。一方、「上総国周り、

があったと考えられる。 同じく五鈴の剣菱形鈴杏葉として③行徳善照寺(到1)、別系統の模本れるものの、これらと違って稚拙な図であり(図12)、別系統の模本おるのの、これらと違って稚拙な図であり(図12)、別系統の模本があったと考えられる。

集『菊能家集』(寛政九年)に次のような一文がある。 「八三九」の所蔵する古鈴とわかる。『集古十種』には「尾張国海東 一八三九」の所蔵する古鈴とわかる。『集古十種』には「尾張国海東 一八三九」の所蔵する古鈴とわかる。『集古十種』には「尾張国海東 で、のち一条家に仕えたという大館高門(一七六六〜 「全」として収録される。高門が親し 「本」として収録される。高門が親し 「本」とあることから、本

て、ミやひをたちに哥こひけるときよめる、とひに、をはり人大館高門かもとめえつるいとふるき鈴をもちきおなし年新内裏遷幸ををかミにのほりけるをりの、双林寺の哥つ

「松浦のや「神の社の「みたからと」ゑりしるしたる。さく鈴の「ふる歌会が催された。高門はここに買い求めた古い鈴を持参したという。おこなわれる遷幸を見物するため末偶が上京した際、東山の双林寺で天明の大火により焼失した内裏が新しく造営され、寛政二年十一月に

があり、交遊した人々の間では高門の古鈴がよく知られていたことが窺 九九)の漢詩集『鬯園詩草』にも「観大館高門所蔵古鈴」と題した詞 されたものとみて間違いない。尾張藩の儒者・岡田新川(一七三七~ り」と詠まれることから、この時持参した古鈴は『集古十種』に掲 ルートから定信のもとへ情報がもたらされた可能性もあろう。 古十種』の資料収集においても深く関わったとみられることから、 ていた寛政三年四月九日にも面会したことが確認できる。蒹葭堂は『集 蒹葭堂が一時、伊勢長島城主増山雪斎を頼って同地の川尻村に転居し える。天明六年六月二十七日に高門は大坂の木村蒹葭堂を訪ねており 庭つとり かけのたりをの したり尾の かたちなした

近藤守重識

路鈴ノ図」とあることから、 年)にも掲載され 駅鈴図」〔銅器82〕 転写したものである。このなかに「常陸国鹿嶋郡鹿嶌正等寺蔵板ノ駅 酉山(忠寄)旧蔵の青柳種信蔵本から矢野処名なる人物が寛政八年に たことが窺える。西尾市岩瀬文庫の所蔵する『古駅鈴図考』は大久保 六八七~一七四三)の賛が写されることから、早くに模本が作られ ⑤正等寺の駅鈴 (図15) にあたる。伊勢貞丈の (図16)、享保十七年(一七三二)林信智 (図14) は『集古十種』の「常陸国鹿嶋郡正等寺蔵 一枚刷りが配られたことが窺える。 『駅路鈴考』(天明四 (確軒、

18 収録される。鈴木甘井の『古鈴之図』所載の図は吉沢好道により寛政 みられ、近藤正斎の識語から寛政四年に写したものであることがわかる。 田官兵衛所蔵の鏡も掲載しており、白雲の「拓本帳」にも収められる。 六年に作られた模本を元にしている。銅器篇には同じ陶村の村長・岡 は、 「讃岐国■北村官兵衛蔵駅鈴并小鈴図」〔銅器60〕(図17)として 「古鈴図」に掲載される「楠正成公祭修具」(図19) と同一品と 『集古十種』 0) 「陸奥国仙台商家川村■蔵鈴図」 [銅器85] $\widehat{\mathbb{Z}}$

> 年壬子五月予得見之於松木氏之女夫大出氏之所、 寬政二年庚戌正月廿六日閱不忍池辺星花舗所得。 右建武中楠氏祭修具唐金鈴一枚者、 他日将充考古之一助云。尔時壬子五月廿二日晡時手写畢正月 大洲藩臣松木辰正所蔵也云。 喜而齎帰乎自模 (中略) 寛政四

り新たに調査がなされたのであろう。 に川村家の手に渡ったとみられる。 この時点での所蔵者は大洲藩士の松木辰正であり、 白雲「拓本帳」にも本資料が掲載されることから、定信の命によ 両者の図は角度などが異なってお 寛政末年までの間

ŋ

れたなかでは次のものがある。 ると、掘り出された時期が明らかな事例があり、 証明することが困難であるものの、土中から発見された資料に着目す 多くの資料はいつの段階で定信のもとに情報がもたらされたのかを 八十五冊本で追加さ

○越後国青梅神社境内掘地所得銅器 社 人古川■蔵) 〔銅器65

ちの経筒にあたり、 納めて藩主に献上したものの、 小泉蒼軒の『壬寅随筆』によると、瓶三点・幣筒一点・笄一点を箱に 際に銅製の経筒や壺などが出土した(青梅神社経塚)。本品はそのう 宝暦七年(一七五七)、新発田藩主溝口直温の命による境内拡張 「菅原氏 治承二年六月廿四日」と銘が刻まれる。 あらためて神社へ贈られたという。

とは別図ながら本品を掲載し、「山田氏古宝鐸記云」として、寛政二 ○播磨国須賀山中掘地所得宝鐸 平田篤胤(一七七六~一八四三) (姫路家臣山田安貞蔵)[銅器87] 0) 『弘仁歴運記考』に『集古十種

一八四一)の所有に帰したとみられる。 舞」とあるといい、ある時期に姫路藩の家老・河合道臣(一七六七〜 のことから、安貞がこの銅鐸を入手したのは寛政十年のことであったとみられる。ここに「寛政十年戊午月日落予手子々孫々永保」と を表したのは寛政十年のことであったとみられる。なお、東京国立博物館の所蔵する『金石款識』にこの 大とみられる。なお、東京国立博物館の所蔵する『金石款識』にこの でとみられる。なお、東京国立博物館の所蔵する『金石款識』にこの でとみられる。なお、東京国立博物館の所蔵する『金石款識』にこの でとみられる。なお、東京国立博物館の所蔵する『金石款識』にこの でとみられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとなられる。 であったとみられる。 であったとみられる。 であったとなられる。 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとから、 であったとがら、 であるといい、 あるといい、 ある時期に姫路藩の家老・河合道臣(一七六七~ であったとがら、 であるといい、 の所有に帰したとみられる。

○摂津国清水村掘地所得鏡(所蔵未詳)〔銅器39〕

とみられるものの、「諸方へ持散り申候」とある。 古鉄四貫目計、鉄壺、鉄櫃などが出土したとある。本品もそのひとつ古鉄四貫目計、鉄壺、鉄櫃などが出土したとある。本品もそのひとつ出土の銀環図を載せ、寛政十年二月中旬に掘り出されたもので、他に出土の銀環図を載せ、寛政十年二月中旬に掘り出されたもので、他に出土の銀環図を載せ、寛政十年二月中旬に掘り出されたもので、他に出土の銀票の「古図纂」(東京国立博物館)に摂州川辺郡清水村松山塚

○信濃国更級郡石川村掘地所得鏡 二(松平定信蔵)〔銅器5〕〕

真田幸弘が奉行所に持ち込まれたなかから贈ったものとみられる。 は四十二面にのぼったものの、三十面ほどは六月に奉行所へ届け出る 載には間に合わなかったことがほぼ確実である。この時に出土した鏡 載には間に合わなかったことがほぼ確実である。この時に出土した鏡 載には間に合わなかったことがほぼ確実である。この時に出土した鏡 長野市篠ノ井上石川の川柳将軍塚古墳から刀剣や珠玉類とともに

『集古十種』ではその所蔵と誤解した可能性が指摘される。するものを、当時の藩主・諏訪忠粛が朽木昌綱に鑑定を求めたため、の春に信濃国諏訪の守屋山中腹から出土し、現在諏訪大社上社に伝来このほか、福知山藩主・朽木家所蔵の鏡〔銅器51〕は、寛政十二年

ら、これ以後の情報を反映していることになる。 聞えし」とあることから、献上は秋田藩主・佐竹義和(一七七五~ 書き留めている。「近きとしに此鈴をめしたまへば、 年藩主に献上したとの情報を『贄能辞賀楽美 (にえのしがらみ)』に 一五○一)頃に「南谷」の崩土から発見された「駅路の鐸」を近 に佐竹家所蔵として収録される三鈷鐃 菅江真澄(一七五四~一八二九)は、住職の話として、明応(一四九二 八一五)の上覧が契機であったとみられる。この鈴は また、享和三年六月十八日、 「覚」より、献上されたのは享和元年十二月九日とわかることか 秋田の松峰神社別当寺伝寿院を訪れた [銅器86] であり、 守に奉りきと 『集古十種』 伝寿院宛て

(3)印章・扁額・定家卿真蹟小倉色紙

最後に序文の無い三篇について確認しておくと、まず印章篇は『稿』を論をはぼそのままの形で踏襲し、「追加」と題して二冊が新たに作成本篇をほぼそのままの形で踏襲し、「追加」と題して二冊が新たに作成本篇をほぼそのままの形で踏襲し、「追加」と題して二冊が新たに作成石山寺、弘福寺、河内金剛輪寺、安芸厳島社があり、特定の地域に偏らない。このうち石山寺については本編に別の資料が収録されており、弘福寺は「弘福寺印」が掲載される。

その他に個人蔵の資料が多く追加され、定信のほか、幕臣の屋代弘

せる。 九畹(東籬)と親しく交友したという。 弥太、姫路・芥氏、大坂隠士・森川曹吾 賢、 官印」印影は、 金印について『後漢金印図章』(天明五年序)を著し、衡岳も序文を寄 を命じられ、寛政三年には飛び地である伊勢松坂の代官も勤めた。書 嘉といい、矩中、青峰と号した紀伊藩士である。天明八年には江戸詰 寺井某、岡山商家・河本又三郎、 このうち井田亀之助 篆刻家として知られ、 紀伊家臣・井田亀之助、 寛政七年に亡くなっていることから、『集古十種』収録の「太政 定信周辺が間接的に入手した可能性が高い。 (青峰、一七五四~九五)は名を敬之、 藩の儒者・菊池衡岳や円山派の画家・片山 尾張家臣・八木養碩、 信濃佐久郡清川村農夫が挙げられる。 (竹窓)、江戸商家某、大坂商家 志賀島から出土したとされる 柳川家臣・ 字を仲 ·西原大

曹吾」とみえるなど、 版の『浪華郷友録』 する人物としては第一 を催した。この会は翌年十一月まで月一回、計二十回開かれ、本稿に関 文政七年 (一八二四) 号した。『集古十種』には所蔵する『東鑑(吾妻鏡)』の古写本に捺さ る江戸詰藩士で、名を公和といい、梭江、一甫、南野、松羅館などと 堂日記』からは木村蒹葭堂と頻繁に訪問し合う親しい間柄であったこ している。文晁とは『集古十種』編纂時から交流があった可能性が高い。 田梅園らとともに、参加者が珍品を持ち寄って考証を加える「耽奇会」 れた「般舟三昧院」印が収録される。古物収集に熱心であったらしく、 また、森川曹吾(竹窓、一七六三~一八三〇)は名を世黄、字を離 西原大弥太(梭江、一七六〇~一八四四) 竹窓と号した。岳玉淵に学び、二十八歳にあたる寛政二年 に「森修亮 一回から屋代弘賢、 五月十五日には山崎美成、谷文晁、 早くから書家や篆刻家として知られた。『蒹葭 字子敬号柏堂 第七回から中村弥大夫も出席 は柳川藩主立花家に仕え 備後町壱丁メ 関思亮、 戸

不明ながら、この後、『集古十種』の編纂にも関わったとされる。は、文人画家として知られる松井愛石とともに同伴している。真偽はとが窺え、寛政八年七月二十五日に文晁が蒹葭堂を初めて訪れた時に

指すとみられる。 なお、姫路の芥氏は播磨鋳物師の棟梁で野里村に居住した芥田氏を

の調査結果を受けて増補されたものが多いと推測する。野駅正法寺観音堂以外はすべて京・大和に所在する。大野文泉や白雲野駅正法寺観音堂以外はすべて京・大和に所在する。大野文泉や白雲

田安家、 見がかなわなかったのであろう。 年自序、寛政三年刊)には二十七点がすでに掲載される。それぞれ『集 松江藩主松平治郷(一七五一~一八一八)の『古今名物類聚』(天明七 紙については、『玩貨名物記』(万治三年〈一六六〇〉序)に二十八点、 善右衛門、隠士貴良に加え、「或家蔵」が三点となっている。 家 を参照したと考えられる。 古十種』には半数ほどが収録されるに止まるとはいえ、定信もこれら になると三十三点に増加する。 「定家卿真蹟小倉色紙」は『稿』では十九点を収録し、八十五冊本 『玩貨名物記』にすでに挙げられることから、 (村上藩主内藤家)、中川家 因州家 (鳥取藩主池田家)、 追加された岡田氏や後藤庄三郎所蔵品など 追加された色紙の所有者は、 (岡藩主)、岡田氏、 郡山家(郡山藩主柳沢家)、 稿 後藤庄三郎、 の段階では実 尾張家 小倉色 邑上

おわりに

により、後者に追加した資料が具体的に明らかになった。『集古十種』以上、『集古十種稿』と八十五冊本の『集古十種』を比較すること

ことも少なくない。しかし、寛政十二年の序文を収録するのは『稿』 像」、「七祖賛 弘法大師真蹟」、「牧渓玉澗八景」、 れる刊本が見出せない篇のうち、兵器篇の「甲冑」については『群書 に順次刊行されていたと考えてよいだろう。今のところ『稿』とみら して掲載され、現存本の構成よりも巻数が少ないことから、このころ 翌享和元年の序文を有する尾崎雅嘉の 内容の完成時期については慎重な判断が必要である。『稿』の場合は 江戸時代の版本では発刊年と序文の年紀が大きくずれることも多く、 野の論考に引用され、寛政十二年完成との前提で考察がおこなわれる は幅広い資料を収録することから、美術史や考古学などさまざまな分 いては挙げられておらず、その時期は不明である。 のみであり、『集古十種』自体に刊行年を示す手掛かりはない。 覧』にあることから出版されていたことがわかる一方、「古画 『群書一覧』に『集古十種』と 名物 古画」につ また、 肖

とが不可欠であろう。

とが不可欠であろう。

とが不可欠であろう。

とが不可欠であろう。

とが不可欠であろう。

のである。特に兵器、銅器、楽器、文房のの『集古十種』が完成したのである。特に兵器、銅器、楽器、文房のの『集古十種』が完成したのである。特に兵器、銅器、楽器、文房のの『集古十種』が完成したのである。特に兵器、銅器、楽器、文房のの『集古十種』が完成したのである。特に兵器、銅器、楽器、文房のにおこなったとみられ、寛政十一年と十二年の二度おこなわれた続的におこなったとみられ、寛政十一年と十二年の二度おこなわれた続的におこなったとみられ、寛政十一年と十二年の二度おこなわれた。

あることから、近江宮川藩主堀田家の所蔵とわかり、「かの君是をもる辞及歌」を収録し、「近江の宮川の君の家に伝へもたせ給へる」と(一七四九~一八二三)の『一話一言』巻十四に「漢代銅鼓の図を見八十五冊本で追加された宮川家所蔵の銅鼓〔銅器83〕は大田南畝

おり、 賛を有するものも伝わる。 (¾) 徳斎 に仕立てて、同好の士に配布することにより、 の蔵品なり」として上面の精緻な図が掲載され、③ われる藩主堀田正穀(一七六二~一八一九)による識語が収録されて れていたことが窺える。 定信もこの銅鼓図を得て『集古十種』に追加した可能性があろう。原 なお、識語の年紀は「寛政庚申(十二年)秋」となっていることから、 ぬるに」とも記す。『石楠堂随筆』にはこの時に南畝が見たものと思 くまで詳しう記し給へるを、ある人もて来たりて歌詠むべきよし聞え てあそび給へるあまり、そのかたちを図になしてわたりめぐりの寸さ (一八○○~七○)の『なかなかの友』 正穀が自ら銅鼓図に添えて「ある人」に贈ったことが窺える。 自らの有する情報や所蔵品を拓本や刷り物 にも「此図は堀田宮川 広くその資料が共有さ 白河藩士広瀬蒙斎

が 明らかになるものと思う。 た 体を把握し、江戸時代の文献に各資料がどのように取り上げられるの は大部なうえに収録する資料が多岐にわたっており、インターネット 斎や谷文晁、大野文泉、白雲らが資料収集にあたったことが論じられ いけば、 かを集約するのは困難である。しかし、ひとつひとつを丹念に追って 上で多くの情報を集めることが可能になったとはいえ、 文人たちの広範なネットワークがその背景に存在した。『集古十種 く、京の藤貞幹や橋本経亮、大坂の木村蒹葭堂、伊勢の本居宣長など、 てきた。しかし、直接定信の命を受けて編纂に関わった人々だけでな 判明すれば、機会を見つけて報告したい。 めには異なるアプローチが必要になると考える。今後、 『集古十種』の編纂過程については、これまで定信のもとで広瀬 『集古十種』の編纂過程にとどまらず、さらに多くの事実が また、 八十五冊本の完成時期を明らかにす 個人でその全 新たな事実

- (1) 拙稿「「享保名物帳」の意義と八代将軍徳川吉宗による刀剣調査」(黒川古 文化研究所紀要『古文化研究』一五、二〇一六年)。
- (2) 拙稿「『集古十種』兵器篇と十八世紀の古武器調査」(黒川古文化研究所紀 要『古文化研究』 一六、二〇一七年)。
- 3 年)。なお、先駆的な業績として清野謙次『日本人種論変遷史』(小山書店、 出土情報の伝達―」(黒川古文化研究所紀要『古文化研究』 一五、二〇一六 一九四四年)、同『日本考古学・人類学史』(岩波書店、一九五四年)などが 杉本欣久「江戸時代における古美術コレクションの一様相―古鏡の収集と
- (4) 彦根本五十二冊および「小倉山の色紙写」は彦根城博物館に全頁を複写し ていただいたものを参照した。
- (5) 佐藤洋一「展示資料『集古十種』の諸本について」(『あるく・うつす・あ つめる 松平定信の古文化財調査 集古十種」、福島県立博物館、二〇〇〇年)。
- 確認している。 現在までのところ、碑銘、鐘銘、兵器、銅器の四篇のみ複写を取り寄せて
- 7 確認した。 文庫、慶應義塾大学アート・センター、二〇一六年)。斯道文庫にて実物を 『描かれた古―近世日本の好古と書物出版』(慶應義塾大学附属研究所斯道
- 台東区立書道博物館・鍋島稲子氏のご教示による。
- 一九九四年)。 岡雅彦・青木利行編『ハーバード燕京図書館和書目録』(ゆまに書房)
- 坪井氏は前半を西願寺、後半を光徳寺の鐘銘とする。 多尾畑にある光徳寺の東には地蔵堂があり、前半はここの古鐘とみられる。 坪井良平『日本の梵鐘』(角川書店、一九七○年)。現在、大阪府柏原市雁
- 印譜については、小倉慈司「『藤貞幹摹古印譜』と板屋公俊常『公私古印譜』」 格について」(『国立歴史民俗博物館研究報告』七九、一九九九年)、藤貞幹の 以前について」(『国立歴史民俗博物館研究報告』七九、一九九九年)に詳しい。 (『日本歴史』六○五、一九九八年)、同「日本古印譜の研究(序説)−藤貞幹 『集古十種』印章篇については、佐藤洋一「『集古十種』印章類の資料的性
- (1)「文晁過眼録」(『集古会誌(集古)』辛亥二~甲子一、一九一二~二四年)、 長岡由美子「資料紹介『大和巡画日記』(後)」(『美術史学』一三、一九九一年)。
- 14 川勝政太郎「兵庫県延福寺旧鐘のこと」(『史跡と美術』一七二、一九四六年)。
- 伊勢貞春『武器図説』では森政宣の所蔵としており、 八十五冊本で本能寺の所蔵とする「織田信長公刀図」〔刀剣75〕について、 『稿』では所蔵者を記

- 河市歴史民俗資料館、一九九八年)に詳しい。 白雲と大野文泉については、『定信と画僧白雲―集古十種の旅と風景―』 (白
- 集古十種の旅と風景--』、白河市歴史民俗資料館、一九九八年)。 佐川庄司「画僧白雲伝記点描―展示概説にかえて―」(『定信と画僧白雲―
- 白雲―集古十種の旅と風景』、白河市歴史民俗資料館、一九九八年)。 加藤純子「白雲収集による『集古十種』採訪資料について」(『定信と画僧
- (18) 足立俊雄『画僧白雲上人伝』(常宣寺、一九五五年)、註(15)図録参照。
- 19 註(3) 杉本氏論考。
- 森銑三「秦檍丸の事蹟」(『伝記』七―一、一九四〇年)。
- 20 一九七二年)。 美山靖「大館高門のこと―秋成伝中の人―」(『皇學館論叢』五―六、
- 西尾市岩瀬文庫・古典籍書誌データベース。
- 22 23 加茂市史編集委員会編『加茂市史』資料編四考古(加茂市、二〇一六年)。
- の新地平』、吉川弘文館、二〇一三年)。 難波洋三「新出の山田安貞著『古宝鐸記』」(奈良文化財研究所編『文化財
- 註(3) 杉本氏論考。
- 26 註(3) 杉本氏論考。
- (27) 時枝務「秋田県大館市松峰寺跡出土三鈷鐃の研究」(『立正大学人文科学研 究所年報』五一、二〇一三年)。
- 堀内信編『南紀徳川史』第五巻(名著出版、一九七一年)。
- 29 中山右尚「西原梭江小伝」(『近世文芸』二四、一九七五年)。
- 文館、二〇〇九年)を参照のこと。 曲亭馬琴、亀屋久右衛門(文宝堂)、滝沢興継(琴嶺)、桑山修理(龍珠館)、 なる。詳しくは揖斐高『江戸の文人サロン 知識人と芸術家たち』(吉川弘 聞の記録を互いに持ち寄る「兎園会」も発足し、出席者の多くは耽奇会と重 第十二回を最後に出席していない。一方、文政八年一月十四日には、奇事異 清水赤城らの参加があった。ただし、梭江は柳川への帰国を命じられたため、 つかの写本が伝わる。これによれば他に荻生維則(蘐園)、谷文二(台谷)、 耽奇会の記録は西原梭江が命名した『耽奇漫録』の題でまとめられ、いく
- (31) 水田紀久・野口隆・有坂道子(編著)『完本 蒹葭堂日記』(藝華書院) 二〇〇九年)。
- 32 岡本撫山『浪華人物誌』(風俗絵巻図画刊行会、一九一九年)。
- を誤りとする西尾市岩瀬文庫・古典籍書誌データベースに従った。 なかの友』は国書総目録等で徳斎の父志賀理斎の著書とされるものの、これ 清野謙次『日本考古学・人類学史』(岩波書店、一九五四年)。なお『なか
- 『あるく・うつす・あつめる 松平定信の古文化財調査 集古十種』(福島

県立博物館、二〇〇〇年)。

図4、5、12、16図2、3、6~11、13~15図4、5、12、1616

早稲田大学図書館古典籍総合データベース

(http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html)

附属研究所斯道文庫、国立国会図書館、センチュリー文化財団、彦根城博物館の本稿を成すにあたっての資料調査、複写、写真掲載に関しては、慶應義塾大学 関係各位のご高配を賜った。末筆ながらここに記して深く謝意を表します。

付表 『集古十種』·『集古十種稿』 対照表 碑銘

集古十種稿						
巻	No.	名 称	巻	No.	備考	
1	1	大和国薬師寺仏足石碑	1	1	釈文訂正	
	2	陸奥国多賀城碑	1	2		
	3	大和国益田池碑雷字	1	3		
2	4	陸奥国宮城郡松浦碑	2	1		
_	5	陸奥国盤手郡平和泉村阿倍氏墓誌	2	2		
	6	大和国奈良中川辻地蔵碑	2	3		
	7	近江国草津駅西南新田村碑	2	4		
	8	武蔵国野火留平林寺碑	2	5	名称下「四行中年号在」割注	
	9	大和国吉野山中苔清水碑	2	6	名称下「三字一行」割注	
	10	大和国奈良佐保山御陵碑	2	7	石林 一二十一 1 刮住	
	_		2	8	 鴟尾→鮪、拓本の行を入れ替え	
	11	大和国招提寺金堂鴟尾図并銘		_	場尾→期、扣本の行を入れ合え	
	12	陸奥国宮城郡岩切山信田小太郎古館跡碑	2	9		
	13	摂津国湊川楠正成碑	2	10		
	14	陸奥国雄鹿郡石巻高道墓誌	2	11		
	15	山城国宇治橋断碑	2	12		
	16	武蔵国品川海晏寺北条時頼墓誌	2	13		
	17	上総国市原郡椎津村古墟所掘得之碑	2	14		
	18	摂津国芦屋村猿丸太夫墓誌	2	15		
3	19	上野国多胡郡真井村碑	3	1		
	20	陸奥国宮城郡信田小太郎古館跡岩切山碑	3	2	目次なし	
	21	上野国山名村碑	3	3	釈文訂正	
	22	上野国山名村観音堂碑	3	4		
	23	河内国石河郡高屋連枚人墓誌	3	5		
	24	大和国奈良十輪院境内忍海原連魚養碑	3	6		
	25	河内国上太子蔵聖徳太子瑪瑙石記	3	7		
	26	河内国古市郡駒谷村金剛輪寺境内永手公墓誌	3	8		
	27	陸奥国宮城郡燕沢村碑	3	9		
				-		
	28	武蔵国多磨郡芝﨑村玄武山普済寺境内六角碑	3	10		
	29	河内国石河郡春日村紀広純女吉継墓誌	3	11		
	30	下野国那須郡湯津上村国造碑	3	12		
4	31	陸奥国松島御島碑	4	1		
	32	大和国達磨寺八面碑	4	2		
	33	伊豆国柳下郡土肥堀内村万年山城頭寺実平墓誌	4	3		
5	34	陸奥国宮城郡南宮村慈雲寺碑	5	1		
	35	武蔵国牛島牛御前社碑	5	2		
	36	伊豆国和田村伊藤入道墓誌	5	3		
	37	陸奥国守山大元帥社碑	5	4		
	38	大和国葛下郡馬場村穴虫山所掘出小野伊奈卿墓誌	5	5		
	39	陸奥国須賀川愛宕山碑	5	6		
	40	武蔵国品川海晏寺二階堂墓誌	5	7		
	41	近江国愛智郡百済寺下乗碑	5	8		
	42	武蔵国所沢村碑	5	9		
	43	古碑	5	10	名称下「未詳所在」	
	44	武蔵国入間郡久米村将軍塚碑	5	11	PERMIT INDRINGING	
	45	陸奥国宮城郡河上村岩切山碑	5	12		
		使英国各城都州上州石切山峰 伊豆国田方郡善名村碑	5	13		
	46					
	47	下総国葛西郡青砥村古城跡碑	5	14		
	48	陸奥国雄鹿郡石巻水門里多福院山中吉野先帝碑	5	15		
	49	紀伊国高野山町石縮図	5	16		
6	50	相模国江島碑	6	1		
	51	武蔵国足立郡登田村松岡山勝願寺旧地碑	6	2	拓本 6 行目に「佛衆生八郎」	
	52	相模国鎌倉扇谷海蔵寺碑	6	3		
	53	武蔵国江戸小石川竜門寺寺中碑	6	4		
	54	武蔵国江戸雑司谷大寶寺寺中碑	6	5		
	55	武蔵国入間郡久米村碑	6	6		
-		Land to the second seco				
	56	大和国宇知郡大沢村楊貴氏墓誌	6	7		

	1	Into the last the window to the transfer to the	1	T	I
	58	陸奥国安達郡西内村相應寺碑	6	9	
		陸奥国安達郡和田村碑			
	59	下野国宇都宮静巌寺鉄碑	6	10	釈文訂正、文字送り変更
	60	大和国奈良佐保山碑	6	11	
	61	陸奥国白川郡関山満願寺下馬石	6	12	
	62	肥後国石敢當碑	6	13	
	63	京師五条八幡宮手水鉢銘	6	14	
İ	64	武蔵国秩父碑	6	15	
	65	上野国八幡山碑	6	16	
	66	上野国桐生碑	6	17	
	67	大和国宇知川摩崖碑	6	18	
	01			10	名称下「今歳高野山上智院」無し、
7	68	僧空海益田池碑草本真跡	7	1	名称・跋文書体変更
8	69	下野国大場村地蔵院碑	8	1	
	70	大和国宇知郡栄山寺灯台銘	8	2	
	71	京師西山三鈷寺門碑	8	3	
	72	摂津国平重盛公墓誌	8	4	
	73	陸奥国郡山如法寺碑	8	5	釈文訂正
ŀ	74	陸奥国郡山如法寺釜堂碑	8	6	(八文司正
		武蔵国葛飾郡寺嶋村瑞泉寺碑	_		
	75		8	7	
	76	陸奥国盤瀬郡稲村碑 - 大石屋	8	8	
	77	大和国室生山畑中碑	8	9	
	78	陸奥国白川郡三城目村碑	8	10	釈文訂正
	79	陸奥国安積郡大重院碑	8	11	全図左「右碑・・・」無し
	80	陸奥国守山堂坂妙音寺碑	8	12	
	81	大和国宇知川磨崖碑	8	13	
İ	82	武蔵国江戸坂本高巌寺碑	8	14	
	83	武蔵国葛飾郡寺嶋村瑞泉寺碑	8	15	
İ	84	陸奥国信夫郡飯坂天王寺山中碑	8	16	
ŀ		陸奥国佐場野医王寺碑銘	8	10	
	85	陸奥国信夫郡飯坂天王寺碑	8	17	
	86	陸奥国水門多福院碑	8	18	
ŀ	87	下野国寺内邑妙言碑	8	19	
			8	20	
	88	陸奥国信夫郡宮城村山王境内碑	_		
9	89	越後国蒲原郡如法寺碑	9	1	
	90	下野国日光山碑	9	2	
	91	河内国駒谷村所掘出之断碑	9	3	目次「大和国杜社碑銘」
	92	下野国薬師寺村龍興寺鑑真和尚墓誌	9	4	
	93	大和国栄山寺武智麻呂公碑	9	5	
	94	大和国橘寺碑	9	6	
	95	陸奥国盤瀬郡稲村碑 二	9	7	
	96	陸奥国安積郡如法寺碑	9	8	
	97	下野国那須山日蓮書名号碑	9	9	
10	98	摂津国呉田吉田某蔵古瓦	10	1	名称「■■」
-	99	同古瓦	10	2	名称「■■」
	100	讃岐国白峰寺古瓦	10	3	H 12 1
	100	紀伊国高野山法明上人碑	10	4	
			_		
	102	紀伊国高野山光明院碑	10	5	
	103	同山中秋田城之助願文碑	10	6	
	104	同永和年間石堂銘	10	7	
	105	和泉国鉢峯山石灯籠銘	10	8	
	106	紀伊国高野山天野路碑	10	9	路→道知
11	107	筑前国阿弥陀寺弥陀経碑	11	1	
	108	山城国二尊院法然上人碑	11	2	
	109	大和国般若寺碑	11	3	
	110	大和国山辺郡役行寺者講田碑	11	4	名称「和泉国山辺郡行者講田碑」、
					釈文「役」→□
	111	陸奥国山目村碑	11	5	64. FT L 50V
	112	河内国高貴寺下乗碑	11	6	名称「下」字脱
	113	京師深草法性寺廃跡所掘得古鉄灯扉銘	11	7	名称「寺」字脱
	114	摂津国勝尾寺石塔銘	11	8	
12	115	陸奥国伊達郡下大石村古碑	12	1	南都西大寺塔銘 異品

12	116	摂津国野間村供養碑	12	2	
	117 大和国桃尾山門院石壁銘				
	118	大和国矢田地蔵堂石階銘	12	4	
	119	大和国春日山上水屋長尾水船銘	12	5	
	120	河内国弘川寺下馬碑	12	6	
	121	紀伊国高野山慈尊院村断碑	12	7	
	122	同山中仏号碑	12	8	

鐘銘

運		集古十種		稿				
巻	No.	名称	巻	No.	備考			
<u>仓</u> 1	1 10.	山城国神護寺鐘銘	1	1 10.	/m · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
1	2	大和国奈良南円堂銅灯台銘	1	2				
	3	山城国道澄寺鐘銘	1	3				
2	4	山州四月日日 寸理的 相模国鎌倉新長谷寺鐘銘	2	1				
			2	2				
	5	安房国千光山清澄寺鐘銘						
	6	相模国筥根山鐘銘	2 2	3 4				
	7	相模国藤沢寺鐘銘 遠江国佐野郡長福寺鐘銘	2					
	8			5				
	9	大和国吉野郡賀名生谷和田村堀又太郎家蔵鐘銘	2	6				
	10	河内国鴈田尾畑村光徳寺鐘銘	2	7				
	11	相模国鎌倉円覚寺鐘銘	2	8				
	12	相模国東慶寺鐘銘	2	9				
	13	陸奥国棚倉馬場鐘銘	2	10				
	14	河内国西琳寺鐘銘	2	11				
3	15	大和国奈良真言院鐘銘	3	1				
	16	相模国鎌倉巨福山建長寺鐘銘 二首	3	2				
	17	武蔵国豊嶋郡浅草寺鐘銘	3	3				
	18	武蔵国豊嶋郡泉福寺真福寺鐘銘	3	4				
	19	山城国八幡神宮寺鐘銘	3	5				
	20	武蔵国野本寺鐘銘	3	6				
	21	相模国鎌倉鶴岡八幡宮鐘銘	3	7				
	22	山城国京妙心寺鐘銘	3	8				
	23	相模国秋山村極楽寺鐘銘	3	9				
	24	常陸国潮来長勝寺鐘銘	3	10				
	25	備前国熊山霊仙寺鐘銘	3	11				
	26	山城国山崎宝積寺鐘銘	3	12				
	27	伊豆国伊浜村普照寺鐘銘	3	13				
	28	大倭国奈良般若寺鐘銘	3	14				
	29	陸奥国白川鹿嶋最勝寺鐘銘	3	15				
4	30	武蔵国金沢郷知足山龍華寺鐘銘	4	1				
	31	同称名寺鐘銘	4	2				
	32	同瀬戸三嶋鐘銘	4	3				
	33	大和国薬師寺塔擦銘	4	4	擦銘→露盤銘			
	34	同興福寺勧善院鐘銘	4	5				
	35	陸奥国平泉中尊寺鐘銘	4	6				
	36	伊豆国走湯山東明寺鐘銘	4	7				
	37	大和国吉野勝手明神古鐘銘	4	8				
	38	同世尊寺鐘銘	4	9				
	39	相模国鎌倉明王院鐘銘	4	10				
5	40	山城国太秦広隆寺鐘銘	5	1				
	41	大和国奈良中川寺鐘銘	5	2				
	42	陸奥国平泉毛越寺鉄灯銘	5	3				
	43	同塩竈大明神鉄灯銘	5	4				
	44	紀伊国密寺鉄灯扉銘	5	5				
	45	尾張国一宮灯台銘	5	6				
	10		5	7	相模国鎌倉八幡宮灯台銘			
	46	武蔵国多麻郡府中六所明神境内鉄仏銘	5	8	10大档 \$\$ 10 10 10 10 10 10 10			
	47	大倭国薬師寺仏背銘	5	9				
	48		5	10				
	48	大和国法隆寺釈迦仏光背銘	5	11				
	50	大和国広座寸析迦仏儿月珀 同薬師仏光背銘	5	12	 同経筒銘→正治元年経筒銘			
	50	四米岬四儿月到	l D	14	四性同類 工们儿牛胜同药			

					I
	51	相模国鎌倉所掘得経筒銘	5	13	
	52	常陸国青柳凌霄寺経筒銘	5	14	
	53	伊豆国田方郡牧野村所掘得骨壺銘	5	15	
	54	伊豆国君沢郡増山村益山寺花盤銘	5	16	
	55	伊豆国田方郡善名村神主蔵古銅器銘	5	17	
	56	陸奥国会津庄八幡宮鰐口銘	5	18	
	57	山城国京壬生寺鰐口銘	5	19	
	58	大和国東大寺聖武帝銅板勅書	5	20	
6	59	伊豆国走湯山東明寺鐘銘	6	1	
	60	肥前国平戸観音院鐘銘	6	2	
				3	
	61	相模国鎌倉鶴岡八幡宮銅灯銘	6		
	62	大和国東大寺灯台銘	6	4	
	63	備中国一品吉備津宮鐘銘	6	5	
	64	駿河国巨鼇山清見寺鐘銘	6	6	
	65	大和国栗原寺塔堂露盤銘	6	7	
	66	大和国法隆寺金堂四天銘	6	8	金堂四天→銅斛、銅斛銘→同蔵
	67	三橋某蔵長持寺閼伽桶銘 図所不詳	6	9	「三橋某蔵」「図所不詳」無し
	68	下総国八幡宮鐘銘	6	10	
	69	近江国番場蓮華寺鐘銘	6	11	
	70	越前国織田村祠鐘銘	6	12	
	71	安芸国伊都岐島鐘銘	6	13	
7	72	下野国日光山中禅寺鐘銘	7	13	
'		「野国日九山中伊守連新 同釜銘	7	2	
	73	円金路			
	74		7	3	
	75	下野国都賀郡小薬村称念寺鐘銘	7	4	
	76	常陸国久慈郡戸崎村蓮光寺鐘銘	7	5	
	77	常陸国中郡庄長福寺鐘銘	7	6	
	78	常陸国鹿嶋郡安禅寺鐘銘	7	7	
	79	陸奥国津軽弘前長勝禅寺鐘銘	7	8	
	80	陸奥国石河庄大実山岩峰寺鐘銘	7	9	
	81	山城国宇治白山金色院鐘銘	7	10	
	82	河内国誉田八幡宮灯籠銘	7	11	
	83	河内国橘寺庭中所置土露盤銘	7	12	
	84	河内国大県郡雁田尾地蔵堂鐘銘	7	13	後半、寛喜己丑の銘文あり
	85	河内国観心寺大灯籠銘	7	14	
		陸奥国宮城郡塩竈宮鐘銘 	7	15	
	86				
	87	河内国上太子叡福寺鐘銘	7	16	
	88	美濃国池田郡井頭郷御嵩山蔵王権現鐘銘	7	17	
8	89	摂津国多田荘鴻橋寺鐘銘	8	1	目次なし
	90	摂津国須磨寺鐘銘	8	2	目次なし
	91	播磨国酒見寺鐘銘	8	3	目次なし
	92	近江国西念寺鐘銘	8	4	目次なし
	93	備前国児嶋児林庄新熊野山鐘銘	8	5	目次なし
	94	伊豆国八丈嶋鰐口銘	8	6	目次なし
	95	常陸国土浦完冢(宍塚)邑般若寺鐘銘	8	7	目次なし
	96	常陸国土浦城内鐘銘	8	8	目次なし
	97	大和国矢田山金剛山寺鐘銘	8	9	目次なし
	98	大和国布留社鐘銘	8	10	目次なし
		播磨国清水寺鐘銘	8		
	99			11	目次なし
	100	大和国吉野郡金峯山蔵王堂鐘銘	8	12	目次なし
	101	大和灯籠銘	8	13	目次なし
	102	大和国奈良東大寺法華堂花瓶銘	8	14	目次なし
	103	讃岐国屋嶋峯千光院鐘銘	8	15	目次なし
	104	武蔵国多摩郡広園禅寺鐘銘	8	16	目次なし
	105	摂津国西成郡盛福寺鐘銘	8	17	目次なし
	106	摂津国大坂升屋重芳蔵半鐘銘	8	18	目次なし
	107	同水鉢銘	8	19	目次なし
	108	河内国道明寺鐘銘			
	109	摂津国兵庫経嶋延福寺鐘銘			
	110	和泉国高倉村高蔵寺古鐃銘			
	110	7日八日日71日151八日1505年			I .

兵器 弓矢

兵器	兵器 弓矢					
		集古十種			稿	
巻	No.	名 称	巻	No.	備考	
1	1	摂津国住吉社蔵弓并嚢図	1	1		
	2	出雲国大社蔵弓図	1	2		
	3	尾張国熱田宮蔵弓図	1	3		
	4	伊予国三島社蔵弓図	1	4		
	5	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵源頼朝公弓図	1	5		
	6	武田信豊弓図 古模本	1	6		
	7	豊後国嫗巓社蔵鏃図	1	(7)	目次のみ	
	8	出雲国大社蔵矢図	1	8		
	9	加賀国江沼郡須輪村多太社蔵実盛表指鏃図	1	9		
	10	播磨国刀田山鶴林寺蔵永田幸介鏃図	1	10	熱田八剣宮蔵矢図	異品
	11	尾張国熱田八剣宮蔵蟇目図	1	11	熱田社蔵	
	12	下野国那須山湯泉権現社蔵那須与市資隆矢図	1	(12)	目次のみ	
	13	六角義賢鏃図 所蔵未詳	1	13		
	14	摂津国八部郡農家鷲尾次郎兵衛家蔵源義経朝臣靱図	1	22		異図
	15	摂津国住吉社蔵平胡籙図	1	15		
	16	摂津国住吉社蔵靱図	1	16		
	17	伊予国三島社蔵浅利与市所納箙図	1	17		
	18	伊予国三島社蔵同絃巻図	1	18		
	19	尾張国熱田八剣宮蔵箙図	1	19		
	20	尾張国熱田八剣宮蔵矢加羅美図	1	20		
	21	伊予国三島社蔵和田小太郎所納箙図	1	21		
	22	陸奥国鳥海伐木所得 鏃図 所蔵未詳	1	14		
	23	摂津国八部郡農家鷲尾次郎兵衛家蔵源義経朝臣鏃図	1	23		
	24	出雲国大社蔵箙図	1	24		
	25	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵平胡籙図	1	25		
	26			26		
	27	大和国釜口長岳寺蔵能登守教経矢図		27		
	28	摂津国住吉社蔵鞆図	1	28		
	29	摂津国住吉社蔵同袋図	1	29		
	30	或家蔵胡籙図	1	30		
	31	或家蔵竹胡籙図	1	31		
	32	或家蔵新羅三郎義光箙図	1	32		
	33	南都東大寺蔵竹胡籙図	1	33		
	34	京師荻野某家蔵秦川勝胡籙図	1	34		
	35	今出川家蔵平胡籙図	1	35		
	36	南都法隆寺蔵矢図	1	(36)	目次のみ	
2	37	河内国壺井八幡宮蔵源義家朝臣鏃図	1	(30)	1 1000	
~	38	陸奥国佐場野医王寺蔵古鏃図				
	39	南都法隆寺蔵丸木弓図				
		河内国南别井村農家松村失名蔵楠氏弓図				
	40	一個				
	41 42	平胡籙図 所蔵未詳				
		一十				
	43	紀伊国熊野新宮蔵背負椊図 - 2011年11日 1911年11日 1911年1				
	44	花伊国照町和呂敞頁貝件図 佐竹家臣今村正昶蔵古製狩箙図				
	45					
	46	佐竹家蔵古製筑紫箙図				
	47	大坂商家加島屋源太兵衛蔵古鏃図				
	48	大和国立田社蔵古鏃図	1	(05)		
	49			(37)	目次のみ	
	50	陸奥国会津塔寺八幡宮蔵古鏃図		(38)	目次のみ	
	51	武蔵国馬込村万福寺蔵梶原平三景時鏃図	1	(39)	目次のみ	
	52	讃岐国白峯寺蔵為朝矢図				
	53	尾張国熱田宮蔵箙図				
	54	出羽国秋田郡寺内村田村神社蔵利仁将軍矢図				
	55	出羽国雄勝郡杉宮三輪山吉祥院蔵矢図				
	56	佐竹家蔵古鏃図 出羽国仙北郡金沢村民間所得				
	57	鏃図 出羽国仙北郡金沢村伐木所獲				
	58	河内国壺井八幡宮蔵丸木弓図				
	59	家蔵鏃図 陸奥国磐瀬郡須賀川駅伐木所獲				

60	家蔵鏃図	陸奥国磐瀬郡鏡沼村堀地所獲		
61	家蔵鏃図	陸奥国田村郡守山耕田所獲		

兵器 旌旗

77.00	//生//共				
		集古十種			稿
巻	No.	名 称	巻	No.	備考
1	1	摂津国天王寺蔵貞固親王旗図	1	1	
	2	摂津国天王寺蔵貞保親王旗図	1	2	
	3	摂津国天王寺蔵平重盛公旗図	1	3	
	4	摂津国天王寺蔵平行盛旗図	1	4	
	5	摂津国天王寺蔵平清経旗図	1	5	
	6	摂津国天王寺蔵能登守教経旗図	1	6	
	7	摂津国天王寺蔵貞平親王旗図	1	7	
	8	摂津国天王寺蔵貞元親王旗図	1	8	
	9	摂津国天王寺蔵源満政旗図	1	9	
2	10	大和国吉野山吉水院蔵古旗図	2	1	
	11	摂津国天王寺蔵赤松則祐旗図	2	2	
	12	摂津国天王寺蔵足助次郎重範旗図	2	3	
	13	摂津国天王寺蔵佐々木四郎高綱旗図	2	4	
	14	摂津国天王寺蔵備後三郎高徳旗図	2	5	
	15	明石家蔵旗図 銘持明院権中納言基雄卿書	2	6	
3	16	大和国吉野郡和田村堀源二郎家蔵後醍醐天皇所賜御旗図	3	1	
	17	湯川某家蔵大塔宮錦御旗図	3	2	
	18	相模国鎌倉補陀羅伽寺蔵赤旗図	3	3	
	19	大和国信貴山本覚院蔵楠正成旗図			
	20	武蔵国品川法蔵寺蔵楠正成旗図	3	4	
	21	西村某家蔵楠正成旗図	3	5	
	22	大和国吉野郡和田村堀源二郎家蔵後村上天皇所賜御旗図 二	3	6	
	23	山城国久世郡宇治平等院蔵源三位頼政旗棹図	+ -		
	24	下総国真間弘法寺蔵菊池家旗図	3	7	
	25	細川家臣大矢野某家蔵菊池家旗紋図	+ -		
	26	京師五条八幡宮蔵旗図	3	8	
	27	甲斐国山梨郡荻原村雲峯寺蔵武田信玄旗図 二	3	9	
	28	山城国檀王林寺蔵見﨑氏舩印旗図	3	10	
	29	源義家朝臣旗図 古模本	3	11	
	30	井伊家蔵源義家朝臣旗図	3	12	
	31	井伊家蔵旗袋図	3	13	
	32	伊予国三島社蔵旗図 二	3	14	
	33	小畑勘兵衛家蔵武田家旗図 三	3	15	
4	34	楠正成旗図 所蔵未詳	4	1	
	35	熊谷次郎直実旗図 三 所蔵未詳	4	2	
	36	河内国壺井宮蔵楠家旗図	4	3	
	37	那須家蔵白旗図	4	4	
	38	豊後国直入郡神原村姥嶽社蔵緒方三郎旗図	4	5	
	39	阿波国美馬郡祖谷山阿佐名住阿佐氏家蔵旗図 二	+ -		
	40	出羽国仙北郡神宮寺村八幡宮蔵旗図	+		
	41	摂津国大坂商家岡野新次蔵赤松律師則祐旗図			
	42	紀伊国高野山興山寺蔵旗図			
5	43	摂津国多田院蔵源頼光朝臣旗図	4	6	
	44	武蔵国葛飾郡牛御歬社蔵千葉五郎胤道小旗図	4	7	
	45	大和国吉野郡和田村堀源次郎家蔵後村上天皇所賜御旗図	4	8	
	46	紀伊国高野山蔵悪七兵衛景清旗図	4	9	
	47	河内国葛井寺蔵楠正成旗図	+ 4	3	
	48	摂津国住吉郡吾彦山大聖寺中坊不動院蔵楠正成小旗図	+		
	49	横瀬家蔵新田義貞朝臣旗図 六	+		
	50	那須家蔵宇都宮俊綱旗図	+		
	50	加炽外限于即首 医門膜凹		<u> </u>	

兵器 刀剣

兵器	刀剣	集古十種			拉
巻	Mo		巻	No.	稿
	No.	大和国吉野郡和田村堀源次郎家蔵後醍醐帝御剣図	1	No.	畑 考 笄あり、帝→天皇
1	2		1	1	开めり、市→大皇
	3	伊勢国大神宮蔵太刀図 後白河帝御太刀図 蔵未詳	1	3	平鞘太刀図
	4	山城国鞍馬寺蔵源義経朝臣太刀図	1	4	十顆人刀凶
			1	5	
	5 6	伊勢国大神宮蔵俵藤太秀郷蜈蚣切太刀図 安芸国厳島社蔵足利尊氏公短刀図	1	5	
	7	安云 国	1	6	
	8	数象版公方図 播磨国宍粟郡山崎町平瀬 ■■ 蔵天国刀図	1	7	■■→某家
	9	##国	1	8	■■→未豕
	10	花伊国熊野利呂 嘘嘘 帆 市 角	1	9	
	11	右次国逐級印金心山仲呂守蔵太刀州朝図	1	10	
	12	相模国鎌倉任州人്	1	11	
	13	或家蔵太刀図 二	1	12.13	
	14	鬼丸太刀図 本阿弥三郎兵衛代々所守護	1	14	酒井家蔵 異図
	15	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵杏葉太刀図 二	1	16	四升
			_		共凶
	16 17	豊前国宇佐八幡宮蔵短刀図 見世鞘図 酒井雅楽頭忠恭朝臣依古式製之	1	17	
			1	19	
	18 19	千葉介常胤下鞘図 蔵未詳 筑前国彦山堀地所獲刀図 蔵未詳	1	20	
			_		正
	20	丹波国農家蔵蔵於丹波国大江山山中所獲刀図	1	21	所蔵者なし
	21	上野国高崎郡豊岡村堀地所獲刀図	1	22	
	22	京師商家蔵短刀図	1	23	
	23	伊勢貞丈家蔵小鳥丸太刀図	1	24	
	24	安芸国厳島社蔵太刀図	1	0.0	
	25	永井家蔵刀図	1	26	
	26	飯塚正宗短刀図 蔵未詳	1	27	
	27	楠正成卿短刀図 蔵未詳	1	28	
	28	陸奥国南部本誓寺蔵太刀図 厨川ヨリ所出ト云	1	29	
	29	陸奥国塩竃社蔵太刀図 ************************************	1	30	
	30	源頼義朝臣太刀図 蔵未詳	1	31	
	31	伊予国三島社蔵平重盛公太刀図	1	32	
	32	那須氏蔵与市宗高太刀図	1	33	
	33	伊予国三嶋社蔵大森彦七所納太刀図	1	34	
	34	伊予国三嶋社蔵太塔宮所納太刀図 尾張国熱田社蔵太刀図	1	35 36	
	35	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵太刀図 二	1	37	
	36	伯快国球星鶴両八幡呂威太刀図 古摹本太刀図 五 蔵未詳	1		三宅家蔵
		可参生公儿区 五 敞木計 可多能太刀区 二			
	38	或家蔵太刀図 六	1	43·44 45-49	
			1	50	
	40	伊豆国三嶋社蔵北条家所納太刀図 二	1		田団
2	41	出雲国大社蔵剣図	1	51	異図
	42	源義家朝臣海老鞘巻短刀図 蔵未詳	1	_	
	43	河内国壺井八幡宮蔵源義家朝臣太刀図 相模国箱根権現社蔵赤木短刀図	1	53 54	
	44	相模国箱根権現社蔵派頼朝卿所納太刀図	1	55	
	45		_	_	
	46	相模国籍根権現社蔵嵯峨帝御剣図	1	56	
	47	相模国箱根権現社蔵太刀図	1	57	
	48	河内国天野山金剛寺蔵楠正成卿短刀図 下総国一仏刹蔵千葉介常胤短刀図	1	F0	 目次なし
	49		1	58	日外なし
	50	横瀬家蔵源義貞朝臣目貫小柄図	1	Ε0.	
	51	伊予国三島社蔵高力左近大夫高長所納刀図 伊子国三島社蔵正五ケの正如十刀図	1	59	
	52	伊予国三島社蔵平重衡卿所納太刀図	1	60	
	53	信濃国諏訪社蔵綱切丸太刀図 相模国鎌倉荏柄天満宮蔵短刀図	1	61	
	54		1	62	
	55	相良家蔵宗吉刀図	1	63	
	56	讃岐国高松海中所出剣図 	1	64	
	57	尾張国海東郡勝幡村堀地所獲短刀図 	2	1	
	58	長門国赤間関阿弥陀寺蔵安徳帝御剣図	_	2	
	59	長門国赤間関阿弥陀寺蔵能登守教経刀図	2	3	

	CO		0	4	
	60	或家蔵太刀図	2	4	
	61	或家蔵太刀図	2	5	
	62	摂津国故住吉社蔵神息剣図 	2	6	
	63	摂津国農家栗花落理左衛門蔵太刀図	2	7	異図
	64	駿河国富士浅間社蔵武田信玄太刀図	2	8	
	65	下総国大戸社蔵太刀図	2	9	
	66	武蔵国新坐郡新倉村堀地所獲短刀金具図 蔵未詳	2	10	足利家
	67	或家蔵柄鍔図	2	11	上杉家蔵
	68	山城国本能寺蔵刀剣図	2	12	
	69	陸奥国白川郡大村堀地所獲刀図	2	13	
	70	近江国竹生嶋社蔵俵藤太秀郷所納太刀図	2	14	
	71	備前国牛窓御皇后社蔵太刀図			
	72	武蔵国多摩郡御嶽山社蔵宝寿丸太刀図	2	15	
	73	山城国六角堂蔵剣図	2	16	
	74	尾張国神戸村堀地所獲鉾剣図	2	17	
	75	山城国本能寺蔵織田信長公刀図	2	18	所蔵者なし(『武器図説』森政宣蔵)
	76	高松家臣楠正助蔵楠正成卿短刀図	2	19	
	77	大坂商家西村庄兵衛蔵義政公鍔図	2	20	
	78	大坂商家西村庄兵衛蔵義政公短刀幷匣袋図	2	21	
	79	河内国杜本社蔵剣図	2	22	目次なし
	80	大和国吉野桜本坊蔵理源大師割地剣図	2	23	目次なし
	81	大和国吉野桜本坊蔵護摩刀図	2	24	大和大納言殿寄附
	82	山城国本能寺蔵大太刀図	2	25	
	83	大和国吉野桜本坊蔵村上彦四郎鍔図	2	26	
	84	越後国一宮弥彦明神社蔵大太刀図	2	27	
	85	陸奥国白川郡船田村堀地所獲 太刀図	2	28	
3	86	河内国誉田八幡宮蔵剣図	2	29	
	87	蜷川氏蔵剣図	2	30	
	88	肥後国阿蘇大宮司惟純蔵蛍丸太刀図	2	31	
	89	河内国誉田八幡宮蔵刀図	2	32	
	90	河内国愛宕山蔵小鍛冶宗近太刀図	2	33	
	91	武蔵国荏原郡馬込村万福寺蔵梶原景時刀図	2	34	7080
	92	河内国天野山金剛寺蔵後醍醐天皇御剣図	2	35	刀は異品
	93	或家蔵加藤清正朝臣短刀図	2	36	
	94	肥後国熊本■蔵剣図	2	37	
	95	大和国法隆寺蔵七曜之剣図	2	38	
	96	山城国六条八幡宮蔵刀図	2	39	
	97	熊本家臣宗文五蔵於菊池氏城墟所獲鍔図	2	40	
	98	山城国仏光寺子院大善院蔵武田信玄鍔図	2	41	
	99	陸奥国会津商家森与三郎蔵於山崎古塁所獲鍔図	0	40	
	100	武蔵国都筑郡今井村堀地所獲太刀金具図	2	42	
		平松家伝来竹笄図	2	43	H I
	_	飛騨国高山国分寺蔵小鳥丸太刀図 2月田宮照山第28度李十師弘神皇英津田之時武井剣図	1	2	異図
		紀伊国高野山龍光院蔵大師於神泉苑請雨之時所持剣図 類津国河辺郡条四岸神秀山港廟寺寺寺寺九十刀図			
		摂津国河辺郡多田庄神秀山満願寺蔵幸寿丸太刀図 採麻国津水寺菜田牡丸剣士刀図 三			
		播磨国清水寺蔵田村丸剣太刀図 三 伊豆园三島社芸北条家武幼士刀会貝図			
	106	伊豆国三島社蔵北条家所納太刀金具図			
	107	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵太刀金具図			
	108	伊予国三島社蔵平重盛公太刀金具図 伊子国三島社蔵平重盛公太刀金具図			
	109	伊予国三島社蔵大塔宮所納太刀金具図 相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵太刀金具図			
		伯侯国球 1			
	111	田良豕鳳瓜刀図 大和国東大寺八幡宮蔵競馬太刀図			
		大坂商家蔵楠正成卿短刀図			
	113	大坡岡家蔵開正成卿超月図 摂津国住吉郡吾彦山大聖寺中坊不動院蔵不動尊剣図			
	114				
		大坂商家蔵義昭公藤丸短刀図 - 左共同戦皇社芸苑紅土刀図			
	117	安芸国厳島社蔵菊紋太刀図			
		鬼丸太刀金具図			
	119	会津家臣坂本覚兵衛蔵足利尊氏公鍔及金具図			
	120	尾張国名古屋商家蔵鳥首太刀金具図 美濃国各務郡蘇原村古墳			
		中所獲			

3	121	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵杏葉太刀金具図		
	122	那須氏蔵与市宗高太刀金具図		
	123	大阪商家蔵鳩丸短刀図		
	124	大阪商家蔵楠正成卿短刀図		

兵器 馬具

2			集古十種			稿
2	巻	No.	名 称	巻	No.	
2 衛田図 議法評 1 2 成田茶館 3 衛田図 議法評 1 3 有件表表成 4 鏡好図 古根本 1 4 伊勢貞文家故木 5 府図 國 統計評 1 6 7 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 <td< td=""><td></td><td>1</td><td>姫路家蔵銜図</td><td>1</td><td>1</td><td>酒井家蔵</td></td<>		1	姫路家蔵銜図	1	1	酒井家蔵
4		2	銜図 蔵未詳	1	2	成田某家蔵
5		3		1	3	倉持某家蔵
6 検別		4		1	4	伊勢貞丈家蔵本
7 大森彦士徳図 成末評 1 7 8 「製図二 歳末評 1 9 10 報図二 歳末評 1 10 11 報図 伊勢寺貞法作 歳未評 1 11 伊勢貞丈家歳 12 報図 成未評 1 13 清華経家歳 14 徳四緒子優頭形図 成未評 1 15 16 四緒子図 成未評 1 15 16 四路子図 成未評 1 15 17 東巡問の非行図 成未評 1 15 16 四路子図 成未評 1 15 17 東巡問の議員 1 15 18 河外国部部区域・中院城市正成柳図 1 20 19 大和国青山市北海市成 1 20 21 坂郎家武市成城 1 22 坂本家成 22 相撲四線全後来等成大館大館域図 1 22 坂本家成 22 相撲四線全後来等成大館校園 1 23 瀬井家成本 23 報図 百里四人代部画場所獲 1 26 新井家成本 25 鏡図 正成は同年の議員 1 27 大町至上中、東京区が成業 25 鏡図 正的との表別を開発したいのはのままままままままままままままままままままままままままままままままままま		5		1	5	藤田某家蔵
8 較図二 成未評 1 1 8 9 1 2				1	6	
9				1		
10		8		1		
11 核図 伊勢宁貞宗作 蔵未評		9		1	9	
12		10		1	10	
13 居木図 小笠原昌高長皆作 歳未評		11		1	11	伊勢貞丈家蔵
14 鏡四緒手図 蔵未詳				1		
15		13		1	13	津軽家蔵
16 四緒手図 蔵未詳		14		1	14	
17 武蔵国卸線山蔵鏡鞍図・鈴厚総図 1 17 18 河内国錦部郡観心寺中院蔵楠正成卿鞍図 1 20 19 大和国信貴山本党院蔵楠正成卿鞍図 1 21 20 会津家臣坂本党兵衛蔵源義政公鞍鐙図 1 22 坂本某家蔵 21 姫路家蔵水品地鞍図 1 23 酒井家蔵・展図 22 柑枝国蘇會極楽寺蔵大館次郎鞍図 1 25 新井家蔵本 24 電鐘図 甲斐国八代郡■編地所獲 1 26 山栗郡収堀得 25 鐘図 武蔵国府中場地所獲 1 27 26 大和国会良正合院蔵業務値図 1 28 27 水野家蔵街図 1 29 28 前図 茂津国有馬郡下部村場地所獲 1 30 29 双家蔵鏡函図 1 31 30 伽前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱銜図 1 32 30 伽前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱銜図 1 33 32 七佐家蔵藤棚図 1 34 33 本阿弥三郎兵衛蔵大塔宮鞍図 1 34 34 太和国太大寺大衛宮蔵図 1 34 35 太和国本大寺で蔵金鐘図 2 1 36 尾張国熱田社蔵飾馬皆具図 2 3 37 美濃国大井駅長国寺蔵粉湾図 2 2 38 美濃国大井駅長国寺蔵粉湾図 2 2 39 家蔵奇図 2 4 41 前図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中一因洪水 42 前図 歴美国海連郡跡幡村堀地所獲 2 9 43 街図 歴美国海連郡跡幡村堀地所獲 2 9 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵田具図 2 11 46 長門国一宮蔵飾馬具図 2 12 47 大和国東大寺助港所蔵館図 4 伊外国大神宮蔵白馬具図 4 7 大和国東大寺助港所蔵館図 4 4 伊外国大神宮蔵田具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵田具図 2 11 46 長門国一宮蔵飾馬具図 7 大和国東大寺助港所蔵館図 4 伊子松山家庭館図 4 伊内国管田八幡宮蔵郷朝郷鞍図 5 民居の本内に成佐藤屬信鞍図 5 紀伊野町大帝宮蔵母属図図 5 紀伊町野新宮蔵香製図 5 紀伊国熊野新宮蔵香製図 5 紀伊国野新宮蔵香製図 5 紀伊国熊野新宮蔵香製図 5 紀伊国野新宮蔵香製図 5 紀伊国熊野新宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 紀伊国熊野新宮蔵香製図 5 紀伊国熊野新宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 紀伊国野野宮蔵香製図 5 2 2 5 5 5 5 5 5 5		15		1	15	
18 河内国錦部郡観心寺中院蔵楠正成卿較図		16		1	16	津軽家蔵
19		17		1	17	
20 会津家臣坂本覚兵衛蔵源義政公鞍鐙図		18		1	20	
21 姬路家蔵水晶地鞍図 1 24 22 相模国録倉極楽寺蔵大館次郎鞍図 1 24 23 鞍図 古楼本 1 25 新井家蔵本 24 壺鐘図 甲斐国八代郡■■場地所獲 1 26 山栗郡取掘得 25 鐘図 武蔵国府中場地所獲 1 27 26 大和国奈良正倉院蕨蒺藜衡図 1 28 27 木野家蔵前図 1 30 28 衡図 摂津国有馬郡草下部村堀地所獲 1 30 29 或家蔵館衙図 1 31 30 備前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱衙図 1 33 31 結城家蔵鞭袋図 1 33 32 土佐家蔵藤観図 1 34 33 本阿弥王郎兵商蔵大塔宮鞍図 1 35 34 大和国主除寺蔵壺鐘図 2 1 35 大和国東大寺若宮八幡宮蔵鞍并皆具図 2 2 36 尾張国熱田社蔵飾馬皆具図 2 3 37 美濃国大井駅長国寺蔵様建是行鐙図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵検達是行鐙図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵検達是行鐙図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵検護と行鐙図 2 4 40 豊臣寿吉公領図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 40 豊臣寿吉公領図 蔵未詳 2 7 丸井菜家蔵 41 衛図 彫後国海池郡港村帯村州地所獲 2 8 土中→田洪水 42 衛図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 45 伊勢国大神宮蔵白馬及図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬及図 2 11 46 長門国一宮蔵白馬及図 2 11 47 大和国東大寺部進所蔵館区 2 12 46 伊勢国大神宮蔵白馬の		19	大和国信貴山本覚院蔵楠正成卿鞍図	1	21	
22 相模国鎌倉極楽寺蔵大館次郎鞍図 1 24 24 変図 古模本 1 25 新井家蔵本 24 変鐘図 甲斐国八代郡■■堀地所獲 1 26 山梨郡取掘得 25 鏡図 武蔵国府中堀地所獲 1 27 26 大和国奈良正倉院蔵蒺藜銜図 1 28 27 水野家蔵銜図 1 28 28 街図 根津国有馬郡草下部村堀地所獲 1 30 29 或家蔵務街図 1 31 30 備前且上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱街図 1 32 異図 31 結城家蔵職發図 1 33 33 本阿弥王郎兵衛蔵大塔宮蔵図 1 34 33 本阿弥王郎兵衛蔵大塔宮蔵図 1 34 33 本阿弥王郎兵衛蔵大塔宮蔵図 2 1 34 33 本阿弥王郎兵衛蔵大塔宮蔵図 2 1 35 活出東大帝武護養園区 異品 4 大和国東大寺北駅長国寺蔵修図 2 4 3 表書表養園区 2 4 3 裏品 2 5 大和国東大寺八幡宮蔵鎮轄計算図 異品 4 中野国大井駅長国寺蔵総修図 異品 4 中野国大井東家蔵 2 6 大和国東大学院蔵		20		1	22	坂本某家蔵
23 較図 古模本 24 壺鐘図 甲斐国八代郡■■堀地所獲 1 26 山梨郡取堀得 25 鐘図 武蔵国府中堀地所獲 1 27 26 大和国奈良正倉院蔵蒺藜節図 1 28 27 水野家蔵飾図 28 街図 摂津国有馬郡草下部村堀地所獲 1 30 30 備前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱飾図 1 31 31 32 異図 31 結城家蔵鞭袋図 31 結城家蔵鞭袋図 31 33 本阿弥三郎兵商蔵大塔宮鞍図 1 35 酒井家蔵透鞍覆図 2 1 35 大和国東大寺蔵童鐘図 2 1 35 大和国東大寺若宮八幡宮蔵鞍并皆具図 2 2 3 (長張国熱田社蔵飾馬皆具図 3 (展張国共中発長国寺蔵検理と行鐘図 2 2 3 (最近大井駅長国寺蔵検護図 2 2 1 (最近大井駅長国寺蔵検育図 2 2 3 (最近大井駅長国寺蔵検育区) 3 (最近大井駅長国寺蔵検育区) 3 (最近大井駅長国寺蔵検育区) 2 4 (最近大井駅長国寺蔵検育区) 2 5 (表別国大井野長国寺蔵検育区) 2 6 (大和国東大寺人幡宮蔵贛幹并鐘図 異品) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛幹并鐘図 第 2 5 (表別国大井駅長国寺蔵検育区) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛幹并鐘区) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛幹井鐘区) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛轄井鐘区) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛轄井鐘区) 3 (東西大寺人幡宮蔵贛轄井鐘区) 4 (東西大寺人幡宮蔵銭村田市) 2 (表別国東大寺人幡宮蔵銭轄井鐘区) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤・新宮恵居本町藤幡村堀地所穫) 2 (表別国本野藤・新宮恵居本町藤・藤田東田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				1		酒井家蔵・異図
24 壺鐙図 甲斐国八代郡■■堀座所獲 1 26 山梨郡取捆得 26 大和国奈良正會院蔵蒺藜街図 1 28 27 水野家蔵銜図 1 29 28 衛図 摂津国有馬郡草下部村堀地所獲 1 30 29 政家蔵鏡銜図 1 31 30 備前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱銜図 1 32 異図 31 結城家蔵鞭役図 1 33 3 32 土佐家蔵鯨鞭図 1 33 3 32 土佐家蔵鯨鞭図 1 33 3 32 土佐家蔵鯨鞭図 1 33 3 3 33 本阿武美藤宮殿留図 2 1 35 酒井家蔵透鞍覆図 異品 2 34 大和国東大寺者宮へ幡宮蔵鞍子替具図 2 2 2 36 尾張国無計社殿師馬普具図 2 3 3 3 3 4 2 4 4 4 第個 2 4 4 4 6 表世東上市・政府 2 2 3 3 7 大井東家蔵 2 7 九井東家蔵 2 7 九井東京蔵 4 4 6 日		22		1	24	
25		23		1	25	新井家蔵本
26 大和国宗良正倉院蔵蒺藜銜図 1 29 2		24		1	26	山梨郡取掘得
27 水野家蔵銜図		25	鐙図 武蔵国府中堀地所獲	1	27	
28 新図 摂津国有馬郡草下部村堀地所獲		26	大和国奈良正倉院蔵蒺藜銜図	1	28	
29 或家蔵鏡銜図		27		1	29	
30 備前国上寺村八幡宮蔵佐々木盛綱銜図		28	銜図 摂津国有馬郡草下部村堀地所獲	1		
31 結城家蔵鞭袋図 1 33 33 33 34 34 34 34		29	或家蔵鏡銜図	1		
32 土佐家蔵鯨鞭図		30		1		異図
33 本阿弥三郎兵衛蔵大塔宮鞍図				1		
2 34 大和国法隆寺蔵壺鐙図 2 1 35 大和国東大寺若宮八幡宮蔵鞍并皆具図 2 3 36 尾張国熱田社蔵飾馬皆具図 2 3 37 美濃国大井駅長国寺蔵報舎図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵鞍舎図 2 5 39 家蔵舎図図 ■ 2 6 大和国東大寺八幡宮蔵鎮轄并鐙図 異品 40 豊臣秀吉公舎図 蔵未評 2 7 九井某家蔵 4 4 毎回 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 4 4 毎回 上の世外本 4 4 毎回 上の世外本 2 9 4 3 新図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 4 4 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 4 4 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 12 3 4 6 長門国一宮蔵飾馬具図 4 7 大和国東大寺衛進所蔵鐙図 4 4 伊沙野工神宮蔵館図 4 4 伊沙国大神区蔵館図 4 4 伊沙国大神区蔵館園 4 4 伊沙国大神区蔵館図 4 4 4 4 6 長門工・高蔵館図 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 </td <td></td> <td></td> <td>土佐家蔵鯨鞭図</td> <td>1</td> <td></td> <td></td>			土佐家蔵鯨鞭図	1		
35		33	本阿弥三郎兵衛蔵大塔宮鞍図		35	酒井家蔵透鞍覆図 異品
36 尾張国熱田社蔵飾馬皆具図 2 3 37 美濃国大井駅長国寺蔵報舎図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵鞍銜図 2 5 39 家蔵銜図 ■堀地所獲 2 6 大和国東大寺小幡宮蔵鎖鞋并鐙図 異品 40 豊臣秀吉公銜図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 41 銜図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 銜図 屋張国海東郡勝幡村堀地所獲 2 9 43 銜図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵師馬具図 2 12 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 2 12 48 伊予松山家蔵鐙図 4 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国營田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 5 張津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 50 張津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 5 2 2 1 50 北津国住吉社蔵源義経朝巨鞍図 5 2 2 1	2	34	大和国法隆寺蔵壺鐙図			
37 美濃国大井駅長国寺蔵根津是行鐙図 2 4 38 美濃国大井駅長国寺蔵鞍銜図 2 5 39 家蔵銜図 ■■堀地所獲 2 6 大和国東大寺八幡宮蔵鎮整并鐙図 異品 40 豊臣秀吉公銜図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 41 銜図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 銜図 屋襲国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 衛図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 2 12 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 4 伊予松山家蔵鐙図 4 49 河内国營田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 5 現津国住吉社蔵源義経朝巨鞍図 5 50 紀中本の成立により、表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表		35	大和国東大寺若宮八幡宮蔵鞍并皆具図	2	2	
38 美濃国大井駅長国寺蔵鞍銜図 2 5 39 家蔵銜図 ■ 地所獲 2 6 大和国東大寺八幡宮蔵鎖鞋并鐙図 異品 40 豊臣秀吉公銜図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 41 銜図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 銜図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 衛図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 2 12 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 4 伊予松山家蔵鐙図 4 4 伊子松山家蔵鐙図 5 1 京臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 5 1 京臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 5 2 紀中国熊野新宮蔵杏葉図 2 1 <t< td=""><td></td><td>36</td><td></td><td>2</td><td>3</td><td></td></t<>		36		2	3	
39 家蔵銜図 ■■堀地所獲 2 6 大和国東大寺八幡宮蔵鎖鞋并鐙図 異品 40 豊臣秀吉公銜図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 41 銜図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 銜図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 銜図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図 53 24 25 26 26 26 26 26 26 26		37	美濃国大井駅長国寺蔵根津是行鐙図	2	4	
40 豊臣秀吉公銜図 蔵未詳 2 7 丸井某家蔵 41 銜図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 銜図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 銜図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図 41 42 43 44 44 45 45 45 45 45		38	美濃国大井駅長国寺蔵鞍銜図	2	5	
41 衡図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得 2 8 土中→因洪水 42 衡図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 衡図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 7 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 6 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 7 10 1		39	家蔵銜図 ■■堀地所獲	2	6	大和国東大寺八幡宮蔵鎖鞚并鐙図 異品
42 衡図 陸奥国白川郡大村堀地所獲 2 9 43 66回 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 7 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 7 48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国營田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 9 9 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 9 9 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 9 9 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図 9 9		40	豊臣秀吉公銜図 蔵未詳	2	7	丸井某家蔵
43 銜図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得 2 10 44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 2 12 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 4 伊予松山家蔵鐙図 4 9 河内国營田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 5 5 1 京臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 5 2 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図 3 2 1		41	衛図 肥後国菊池郡瀬戸口村土中所得		8	土中→因洪水
44 伊勢国大神宮蔵馬具図 2 11 45 伊勢国大神宮蔵白馬形図 2 12 3 46 長門国一宮蔵飾馬具図 2 12 47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国營田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 50 東京高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		42			9	
45		43	銜図 尾張国海東郡勝幡村堀地所得		10	
46 長門国一宮蔵飾馬具図		44			11	
47 大和国東大寺勧進所蔵鐙図 48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		45		2	12	
48 伊予松山家蔵鐙図 49 河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図	3	46				
49 河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図 50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		47	7 1111111111111111111111111111111111111			
50 摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図 51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		48				
51 家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図 52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		49	河内国誉田八幡宮蔵源頼朝卿鞍図			
52 紀伊国熊野新宮蔵杏葉図		50	摂津国住吉社蔵源義経朝臣鞍図			
			家臣高松内匠蔵佐藤嗣信鞍図			
53 紀伊国熊野新宮蔵鐙図		52	紀伊国熊野新宮蔵杏葉図			
		53	紀伊国熊野新宮蔵鐙図			
54 和泉国■尾村農家北村失名蔵源義経朝臣鞍図			I			

55	大洲家蔵梶原景時鞍図			
56	家蔵応永年間鞍図 伊勢守貞信作			
57	紀伊国熊野新宮蔵鞭図			
58	備前国牛窓御皇宮蔵厚総図			
59	大和国奈良東大寺八幡宮蔵唐鞍図			
60	高松家臣■■蔵口籠図			
61	伊勢内宮文殿蔵銜図	2	13	
62	大和国藤原山法貴寺蔵口籠図			異図

銅器

		集古十種			稿
巻	No.	名称	巻	No.	備考
1	1	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵政子十二手箱中鏡図	1	1	PID 3
1	2	京師大仏殿蔵太閤秀吉公鏡并匣図	1	2	
	3	山城国大原古知谷阿弥陀寺蔵鏡図	1	3	
	4	或蔵鏡図 二	1	4	
	5	陸奥国安積郡王宮権現蔵采女鏡図	1	5	
	6	相模国鎌倉報国寺蔵仏乗禅師鏡図	1	6	
	7	相模国鎌倉禅居庵蔵大鑑禅師鏡図	1	7	
	8	尾張国神戸村掘地所得鏡図 二 蔵未詳	1	8	
	9	大和国奈良道祖神神輿鏡図	1	9	
	10	日向国諸県郡掘地所得鏡 三 蔵未詳	1	10	
	11	常陸国水戸掘地所得鏡図 蔵未詳	1	11	
	12	伊予国三島社蔵孝謙帝御鏡図	1	12	
	13	伊予国三島社蔵天智帝御鏡図	1	13	
	14	相模国在柄天神蔵鏡図	1	14	
	15	摂津国長田太神神鏡図 三	1	15	
	16	或蔵鏡図 十一	1	16	
	17		1	17	
	18	伊勢神官桧垣丹波守蔵鏡図		18	
	19	V 24 11 E V = 7 V 1 7 W 10 E E	1	19	
	20	越後国魚沼郡松代市掘地所得鏡図 蔵未詳 大和国法隆寺蔵鏡図	1	20	
		文州国広座寸廠規図 或蔵鏡図 二		21	
	21		1		
	22	参河国鳳来寺鑑堂蔵古鏡図 十三	1	22	
	23	信濃国伊奈郡飯田城下掘地所得鏡図 蔵未詳	1	23	
	24	相模国藤沢寺蔵照手姫鏡図	1	24	
	25	会津家臣野村某家蔵古鏡図	1	25	
	26	伊豆国君沢郡熊沢村掘地所得鏡図 蔵未詳	1	26	
	27	豊前国小倉足立山掘地所得鏡図 九 蔵未詳	1	27	
	28	蜷川氏蔵山城国宇治郡掘地所得埴鏡図			
2	29	伊勢国多度太神宮蔵鏡図 三十			
	30	讃岐国陶村村長岡田官兵衛家蔵鏡図 五十三			
	31	大和国龍田明神社蔵鏡図 二			
	32	或蔵鏡図 三			
	33	或蔵鏡図			
	34	近江国山田浦隠士石亭蔵鏡図 二			
	35	大和国奈良法隆寺蔵鏡図 三			
	36	京師下御霊社蔵神鏡図			
	37	大坂商家吉田道可蔵鏡図 二			
	38	橋本肥後守蔵鏡図			
	39	摂津国清水村掘地所得鏡図 蔵未詳			
	40	備後国八幡村八幡宮神鏡図 二			
	41	京師五条金光寺市姫宮神鏡図			
	42	安芸国厳島神鏡図			
	43	伊予国出作村農民掘地所得鏡図 蔵未詳			
	44	河内国道明寺蔵菅公鏡図			
	45	大和国奈良景清地蔵堂蔵鏡図			
	46	大坂商家加賀屋源太兵衛蔵鏡図			
	47	備前国岡山商家河本又三郎蔵鏡図 十			
	48	摂津国小橋村慈眼庵蔵鏡図			
	49	和泉国堺掘地所得鏡図 蔵未詳			
	50	河内駒谷五所明神蔵埴鏡図 二			

2	51	朽木家蔵鏡図	
	52	家蔵信濃国更級郡石川村掘地所得鏡図 二	
İ	53	或蔵鈴図 五	
	54	近江国山田浦隠士石亭蔵鎮宅霊符図	
	55	上総国周准郡貞元村神将寺掘地所得鈴図 蔵未詳	
	56	伊予国三島明神蔵義政公水瓶図	
	57	同蔵義政公湯瓶図	
	58	紀伊国高野山宝積院蔵水瓶図	
	59	大和国法隆寺蔵鈴図	
	60	讃岐国□北村官兵衛蔵駅鈴并小鈴図	
	61	大坂商家加島屋源太兵衛蔵鈴図	
	62	大和国法隆寺蔵金山寺香炉図	
	63	同蔵水瓶図	
	64	同蔵香炉図	
	65	越後国蒲原郡青梅神社境内掘地所得銅器図 同所社人古川■蔵	
	66	大和法隆寺蔵風炉図	
	67	同蔵銅量図	
	68	佐竹家蔵鏡図 二	
	69	大和国法隆寺蔵鈴図	
	70	紀伊国高野山龍光院蔵鈴図	
	71	家蔵陸奥国盤瀬郡鏡沼村掘地所得銅磬図	
	72	備中国賀陽郡八田部村掘地所得鈴図 蔵未詳	
	73	相模国鎌倉建長寺蔵鈴図	
	74	隠岐国若玉酢社蔵駅鈴図	
	75	大和国吉野山中掘地所得鈴図 蔵未詳	
	76	河内国交野郡渚村掘地所得鈴図 蔵未詳	
	77	上総国周准郡貞元村貞元親王墓傍掘地所得鈴図 蔵未詳	
	78	相模国鎌倉管領屋敷跡掘地所得水滴図 蔵未詳	
	79	常陸国茨城郡台渡村掘地所得鈴図 蔵未詳	
	80	尾張国海東郡木田村大館■蔵鈴図	
	81	下総国行徳善照寺蔵鈴図	
	82	常陸国鹿嶋郡正等寺蔵駅鈴図	
	83	宮川家蔵銅鼓図	
	84	或蔵鈴図	
	85	陸奥国仙台商家川村■蔵鈴図	
	86	佐竹家蔵鈴図	
	87	姫路家臣山田安貞蔵宝鐸図 播磨国宍粟郡須賀山中掘地所得	
	88	家蔵乾統鐘図	

楽器

**************************************	未 位							
		集古十種		稿				
巻	No.	名 称	巻	No.	備考			
1	1	大和国信貴山蔵二鼓胴図	1	1	二鼓胴→二鼓			
	2	同蔵雞婁胴図	1	2	雞婁胴→服太鼓			
	3	同蔵三鼓胴図	1	3	三鼓胴→三鼓			
	4	同蔵鼗鼓図	1	4	鼗鼓→振鼓			
	5	同蔵鞨鼓胴図	1	5				
	6	同蔵面図 二	1	6	同蔵面図 二			
	7	安芸国厳島明神蔵小桜笙図	1	7	異図			
	8	大和国法隆寺蔵洞簫図	1	8	異図			
	9	大和国吉野山蔵王権現蔵後醍醐帝御物三嶽丸笙図	1	9	異図			
	10	同七文字笛同高麗笛図	1	10	異図			
	11	紀伊家御蔵寛治丸笛図	1	11	家蔵堪能丸図 異品			
	12	多氏蔵玉椿笙図	1	12	異図			
	13	大和国法隆寺蔵琴図	1	13				
	14	大和国龍田明神蔵雞婁胴図	1	14	雞婁胴→服鼓			
	15	大和国法隆寺蔵鞨鼓台図	1	15				
	16	大和国東大寺八幡宮蔵面図 二十	1	16	東大寺八幡社蔵胡徳楽勧盃面図と 同蔵古面図に分割			
	17	河内国金剛輪寺蔵面図	1	17	面→古面			
	18	田安御蔵孔雀丸笙図	1	18	異図			
	19	山城国本能寺蔵時雨箏図	1	19				

	20	安芸国厳島明神蔵面図 七	2	6	面→古面	異図
2	21	会津家人小室庄助蔵平重衡卿所愛有浦篳篥図	1	20		
	22	安芸国厳島明神蔵法花箏同調子板同柱畳紙図	2	1		
	23	同蔵倭琴図	2	2		
	24	黒田家蔵平経政所愛郭公琵琶同調子竹図	2	3		
	25	或家蔵青海笛図	2	4		
	26	大和国東大寺八幡宮蔵舞楽装束中獅子蛮絵図	2	5	舞楽装束中獅子蛮絵→	舞楽装束蛮
	27	同熊蛮絵図			絵獅子形	
	28	中氏蔵白菊丸笙図				
	29	紀伊家御蔵鹿丸笙図	2	8		異図
	30	陸奥国会津願成就寺蔵琵琶図	2	9		大 囚
	31	紀伊家御蔵小男鹿笙図	2	10		異図
						共凶
	32	今出川家蔵巌琵琶図	2	11		म जि
	33	大和国東大寺八幡宮蔵新靺鞨下鞘図	2	22		異図
	34	大和国法隆寺蔵石胴鞨鼓図	2	13		
	35	持明院家蔵敦実親王御物拍子図	2	14	持明院家→山城国愛宕 橋本肥後	郡梅宮社人
	36	姫路家蔵笙図	2	15	姫路家→酒井家	
	37	山城国本国寺蔵笙図 二	2	16	同蔵笛図 共四	異品
	38	尾張家御蔵二帯笙同調子竹図	2	17		JUHH
	39	家蔵琵琶図	2	18		
	40	水戸家御蔵心越禅師将来琴図	2	19		
		2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0 2.0				
	41	大和国法隆寺蔵唐櫃中所納筝柱図	2	20		
3	42	大和国東大寺蔵鉦鼓図	3	1		
	43	山城国妙覚寺蔵二絃図	3	2		
	44	陸奥国会津塔寺八幡宮蔵漢竹笛図	3	3		
	45	陸奥国農家蔵四絃図	3	4		
	46	大和国法隆寺蔵味摩之将来伎楽面図 三十一	3	5	三十一→共六十九	
	47	大和国東大寺蔵伎楽面図 三十八	3	6	三十八→数三十七	
		A CHARLES TO A CANADA CONTRACTOR OF THE CONTRACT				
I	48	4. 丁田中内蔵承蔵鬼面図	3	7		
	48	仏工田中内蔵丞蔵鬼面図 陸園国那庭那トニ宮村三島社蔵田楽面図	3	7		異品
1	49	陸奧国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図	3	8	尾張家御蔵小鼓図	異品
4	49 50	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図	3 4	8	尾張家御蔵小鼓図	
4	49 50 51	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図	3 4 4	8 1 2		
4	49 50 51 52	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図	3 4 4 4	8 1 2 3	尾張家御蔵小鼓図	
4	49 50 51 52 53	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図	3 4 4 4 4	8 1 2 3 4	尾張家御蔵小鼓図	異図
4	49 50 51 52 53 54	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一	3 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5	尾張家御蔵小鼓図	異図
4	49 50 51 52 53	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図	3 4 4 4 4	8 1 2 3 4	尾張家御蔵小鼓図	異図
4	49 50 51 52 53 54	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一	3 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5	尾張家御蔵小鼓図	異図
4	49 50 51 52 53 54 55	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図	3 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6	尾張家御蔵小鼓図	異図
4	49 50 51 52 53 54 55 56	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図	3 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7	尾張家御蔵小鼓図	異図 異図 異図 異図
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国誉田八幡宮蔵鞨鼓図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8	尾張家御蔵小鼓図	異図 異図 異図 異図
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図	3 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7	尾張家御蔵小鼓図 笙図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国堂田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	尾張家御蔵小鼓図 笙図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉) 入襴袍図	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国誉田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風筝図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	尾張家御蔵小鼓図 笙図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風筝図 紀伊家御蔵冠古琴図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風筝図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	尾張家御蔵小鼓図 笙図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風筝図 紀伊家御蔵冠古琴図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風筝図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国普田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国首田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国丁田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 「「全図」 「「「全図」 「「一」	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国上太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国主太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国菅田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同笛図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国営田八幡宮蔵琵琶図 河内国主太子蔵用明帝御物瓦落笛同高麗笛図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵面図 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同笛図 同館図 同館図 同館図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	陸與国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国営田八幡宮蔵琵琶図 河内国営田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同笛図 同館図 同館図 同館図 同館図 同葉図 同館図 同葉の 同葉図 同館図 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の 同葉の	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 所蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同第致台図 讃岐国白峯蔵面図 三 同蔵崇徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 二	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 所蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨豊図 同成太鼓図 備後国古備宮蔵 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同第図 同第図 同第図 同萬図 同萬図 同萬図 同萬図 同萬図 同葡図 同葡図 同葡ョ 「蔵崇徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 二 備前国岡山商家河本又三郎蔵笙図 三	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 所蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国古備宮蔵 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同第致台図 讃岐国白峯蔵面図 三 同蔵崇徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 二	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 所蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 十一 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨豊図 同成太鼓図 備後国古備宮蔵 三 姫路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同第図 同第図 同第図 同萬図 同萬図 同萬図 同萬図 同萬図 同葡図 同葡図 同葡ョ 「蔵崇徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 二 備前国岡山商家河本又三郎蔵笙図 三	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 延路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同館図 同職数台図 講唆国白峯蔵面図 一蔵美徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 一成後京極摂政所愛鶯丸笛同高麗笛図 一蔵食り、幡社家伝来蘭陵王面図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
4	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 延路家蔵松風筝図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同館図 同職数台図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 「蔵養京極摂政所愛鶯丸笛同高麗笛図 同蔵衛大幡社家伝来蘭陵王面図 同蔵鞨鼓台図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 図追加 死蔵
5	49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75	陸奥国那麻郡上三宮村三島社蔵田楽面図 大和国奈良古梅園蔵面図 一条家御蔵菊丸笙図 会津家蔵律管図 同蔵菅公琴図 河内国誉田八幡宮蔵面図 一条家御蔵海浦笙図 河内国誉田八幡宮蔵琵琶図 河内国学田八幡宮蔵鞨鼓図 同蔵太鼓図 備後国吉備宮蔵面図 延路家蔵松風箏図 紀伊家御蔵冠古琴図 山城国東寺遍昭心院蔵平調板図 大和国東大寺八幡宮蔵胡徳楽瓶子図 播磨国刀田山鶴林寺蔵太鼓火炎図 播磨国大山寺蔵平重盛公所寄附鞨鼓図 同笙図 同館図 同職数台図 講唆国白峯蔵面図 一蔵美徳帝御物笙図 播磨国明石郡多門寺蔵慈覚大師伝来笛図 一成後京極摂政所愛鶯丸笛同高麗笛図 一蔵食り、幡社家伝来蘭陵王面図	3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13)	尾張家御蔵小鼓図 室図→吉野多門院 南都東大寺八幡宮新倉 入襴袍図 姫路家→酒井家 目次のみ	異図 異図 異図 異図 図追加

5	79	陸奥国平泉開山中尊寺白山権現蔵面図 二	4	(16)	目次のみ
	80	安芸国厳島社蔵玉笛図			
	81	備前国岡山商家河本又三郎蔵月琴図			
	82	大和国東大寺八幡宮新倉蔵新靺鞨纓図			
	83	同革帯図	2	12	大和国東大寺蔵新靺鞨革帯図
	84	同笏図			
	85	同靴図			
	86	相模国鎌倉八幡宮蔵面図 二十三	2	7	二十三→共六
6	87	陸奥国平泉開山中尊寺弁慶堂蔵鈴木三郎所愛琵琶撥図	2	21	
	88	家蔵笛図 三			
	89	伊勢大神宮蔵筝柱畳紙図 三	2	23	筝柱畳紙→筝柱袋
	90	或家蔵箏柱畳紙図	2	24	或家→楽家
	91	大和国興福寺蔵面図 六	2	25	面図 六→胡徳楽古面図 共四
	92	家蔵明石篳篥図			
	93	大和国氷室社蔵蘭陵王面図	2	26	大和国→山城国京
	94	山城国本能寺蔵鶯丸笙図			
	95	山城国本能寺蔵鈴虫篳篥図			
	96	大和国法隆寺蔵妹子大臣将来雪夜篳篥図			
	97	同蔵平清盛公所愛福原笛図			
	98	安芸国厳島明神蔵銕笛図			
	99	山城国東寺蔵舞楽帽子図			
	100	山城国本能寺蔵笙図			
	101	山城国本国寺蔵小蝶丸笙図			
	102	大和国法隆寺蔵源信氏所寄附面図			
	103	備後国一宮蔵舞楽太刀図			
	104	山城国東山要法寺蔵笙図			
	105	播磨国鵤太子寺蔵笙匣図			
	106	同蔵鞨鼓同台図			
	107	大和国法隆寺蔵太鼓火焔図			
	108	同蔵駝太鼓火焔図			
	109	安芸国厳島明神蔵琵琶図			
	110	播磨国室明神蔵琵琶図			
	111	山城国本能寺蔵虎生笙図			
	112				
	113	紀伊家御蔵琵琶図			
	114	或家蔵模弦上琵琶図			
	115	大和国東大寺八幡宮蔵新靺鞨入襴袍図	4	11	異図

文房

义方								
		集古十種		稿				
巻	No.	名 称	巻	No.	備考			
1	1	瓦硯図	1	1	蔵未詳→於藤子礼家模之			
	2	大和国吉野山吉水院蔵竹文台図	1	2	天皇→帝			
	3	同竹硯箱図	1	3	同→大和国吉野山吉水院、天皇→帝			
	4	同蔵琨玉硯図	1	4	同→大和国吉野山吉水院、天皇→帝			
	5	大和国釜口普賢院蔵千宗易所愛曽我堂瓦硯図	1	5	同国釜口普賢院曽我堂蔵千宗易硯図			
	6	同普賢院蔵銅雀台瓦硯図	1	6				
	7	大和国当麻寺蔵松蔭硯并箱図	1	7	同→同国、蓋裏図・蓋表図 以革			
	1	八仲国	1	'	張之・硯図キャプション挿入			
	8	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵源頼朝公硯并箱皆具図	1	8	硯并箱皆具図→硯箱図			
	9	山城国壬生寺蔵壬生忠岑硯図	1	9	異図			
	10	大和国東大寺蔵磁硯図	1	10				
	11	京師二条西洞院所掘得硯図	1	11				
	12	相模国鎌倉光明寺蔵菅公硯図	1	12				
	13	同蔵松蔭硯図	1	13	同→相模国鎌倉光明寺、厚サ→傍			
	1.4	日本一片採見田園	1	14	厚,把模团缝会必明去			
	14	同蔵二位禅尼硯図	1		同→相模国鎌倉光明寺			
	15	乾封紫石硯図	1	15				
	16	紀伊国熊野新宮蔵磁硯図	1	16				
	17	相模国鎌倉鶴岡八幡宮蔵源頼朝公馬蹄硯図	1	17				
	18	京師一乗寺村詩仙堂蔵残月硯図	1	18				
	19	参河国渥美郡田原庄河合某家蔵硯図	1	19				

	20	京師東寺蔵硯図	1	20	家蔵澄泥研図 異品
	21	相模国鎌倉粟船山常楽寺蔵祖元和尚硯図	1	21	
	22	大和国奈良東大寺蔵瑪瑙硯図	1	22	
	23	京師東寺蔵弘法大師風字硯図	1	23	異図
	24	同蔵硯図	1	24	同→京師東寺 異図
	25	同蔵唐李家製墨図	1	25	
	26	大和国法隆寺蔵聖徳太子硯図	1	26	異図
	27	大和国東大寺蔵朝倉義景硯図	1	27	京師本能寺→大和国奈良東大寺
	28	江戸商家岡部■蔵研図	1	28	江戸商家岡部■→江戸岡部某家
	29	尾張国大舘某家蔵大化中瓦硯図	1	29	
	30	京師百万遍蔵平重衡卿硯図	1	30	
2	31	摂津国大坂商家蒹葭堂蔵硯図	1	31	商家なし
	32	水戸家御蔵羅城門瓦硯図	1	32	
	33	松浦家蔵端渓硯図	1	33	
	34	大和国在原寺蔵在原業平朝臣硯箱図	1	34	
	35	相模国鎌倉報国寺蔵仏乗禅師硯図	1	35	
	36	中村弥太夫蔵澄泥硯図			
	37	紀伊家御蔵四霊硯図			
	38	駿河国府中宝泰院蔵硯図			
	39	伊勢国津市医庭田生安蔵几図			
	40	大和国奈良東大寺蔵文書袋図 三			
	41	中村弥太夫蔵文台図			
	42	京師怡顔斎蔵詩囊図			
	43	河内国誉田八幡宮蔵明亨石硯図			
	44	大和国奈良古梅園蔵唐李家烟墨璽図			
	45	紀伊国高野山某蔵夾竿図			
	46	家蔵相州瓦硯図			
	47	姫路家蔵劉基硯図			
	48	紀伊国高野山高室院蔵硯図			
	49	安芸国厳島社蔵硯図			
	50	摂津国勝尾寺蔵開成皇子御硯図			
	51	安芸国厳島社蔵家棚守将監蔵硯図			
	52	相模国松田某蔵文明年間硯図			
	53	紀伊国高野山宝積院蔵硯図			
	54	河内国観心寺蔵半月硯図			
	55	同蔵墨溜図			
	56	京師東山清閑寺蔵高倉帝御硯箱図			
	57	磁硯図 蔵未詳			
	58	紀伊国高野山龍光院蔵弘法大師硯箱図并硯図			

印章

미루	/부							
		集古十種			稿			
巻	No.	名 称	巻	No.	備考			
1	1	天皇御璽 四	1	1				
	2	建武之寶 古模本	1	2				
	3	皇帝官印 東福寺 (承久元年度牒)	1	3				
	4	大政官印 六	1	4				
	5	乾政官印 古模本	1	5				
	6	神祇官印 古模本	1	6				
	7	主殿寮印	1	7				
	8	典薬寮印	1	8				
	9	左京印	1	9	左京之印			
	10	民部印	1	10	民部之印			
	11	宮内印 古模本	1	11	宮内之印			
	12	図書寮印 古模本	1	12				
	13	大学寮印	1	13				
	14	雅楽寮印 古模本	1	14				
	15	施薬院印	1	15				
	16	勧学院印	1	16				
	17	内侍印	1	17	内侍之印			
	18	悠記所印 古模本	1	18				
	19	主基所印 古模本	1	19				

					Correspondent to the second
1	20	造平安宮城職印	1	20	造平安宮城職之印
	21	遺唐使印 二	1	21	共二→二
	22	遣新羅使印 古模本	1	22	遣新羅使之印
	23	承和年間民部省所用印	1	23	
2	24	官印 古模本	2	1	
	25	山背国印	2	2	
	26	山城国印 二	2	3	共二→二
	27	大和国印 二	2	4	共二→二
	28	摂津国印	2	5	
	29	伊賀国印 二	2	6	共二→二
	30	尾張国印	2	7	
	31	下総国印	2	8	
	32	近江国印	2	9	
	33	美濃国印	2	10	
	34	越前国印	2	11	
1	35	越中国印	2	12	
	36	陸奥国印	2	13	
	37	丹波国印	2	14	
		丹後国印	2		
	38			15	
	39	但馬国印	2	16	
	40	因幡国印 二	2	17	共二→二
	41	播磨国印 古模本	2	18	
	42	紀伊国印	2	19	
	43	阿波国印 二	2	20	共二→二
	44	日向国印 古模本	2	21	
	45	太宰府印 二 古模本	2	22	共二→二
	46	鎮守府印 古模本	2	23	
	47	字治郡印 二	2	24	共二→二
	48	添上郡印	2	25	
	49	葛下郡印	2	26	
	50	十市郡印	2	27	
			2		
	51	阿拝印		28	阿拝之印
	52	山田郡印	2	29	
	53	足羽郡印 二	2	30	共二→二
	54	坂井郡印	2	31	
	55	高草郡印	2	32	
	56	伊都郡印	2	33	
	57	大和守印	2	34	
	58	紀伊守印	2	35	
	59	柘植郷長解所用印	2	36	植殖卿長解所用印
1	60	下総国大寺郷所得印	2	37	大寺卿印
	61	下野国足利学校印	2	38	
	62	内親王酒人印	2	39	
	63	藤原忠平公印	2	40	右大臣藤忠平公印
			2		
	64	十部朝臣兼永卿印		41	下部朝臣兼永卿印
	65	木曽義仲印	2	42	将軍義仲印
	66	足利家印 六	2	43	共六→六
	67	平信長公印	2	44	平右府信長公印 共二
	68	豊臣秀吉公印 二	2	45	豊太閤印 共二
	69	豊臣秀次公印 古模本	2	46	
	70	豊臣秀頼公印	2	47	
	71	小田原北条家印 二 仏師後藤斎宮 (駅券)	2	48	共二→二
	72	永禄年間印 二	2	49	共二→二
	73	豊臣行長印 播磨国龍野中井伯元家	2	50	
	74	承平年間加宅巻所用印	2	51	
	75	雪野寺所堀得印	2	52	雪野寺堀地所得印
		 	2	_	讃岐国田井村堀地所得印
	76	讃岐国田井村所堀得印	2	53	"咦哦P\$四才们先地別待引
1	77	或所蔵印		54 55	近江国栗本郡堀地所得印
				l hh	1 3/1 7 1 1±1 25
	78	近江国栗本郡所堀得印	2	_	<u> </u>
	78 79	或所蔵印	2	56	
	78			_	秦永岑印

	00	法居奴取印 一	0	FO	# - · -
	82	清原経賢印三	2	59	共三→三
	83	- 韮山古城跡所堀得印	2	60	韮山古城跡堀地所得印 46.28.18.18.18.18.18.18.18.18.18.18.18.18.18
	84	仙波山中所堀得印	2	61	仙波山中堀地所得印
	85	武田信玄印 信濃国諏訪社(天正六年文書)	2	62	
	86	和気種成印 古模本	2	63	
	87	金沢文庫印	2	64	
	88	然可翁印 古模本	2	65	
3	89	伊勢大神宮印 古模本	3	1	
	90	伊勢内宮政印 古模本	3	2	
	91	伊勢豊受官印 古模本	3	3	
	92	北野天満宮印 古模本	3	4	
	93	雄徳山八幡宮印 古模本	3	5	
	94	淡路国二宮大和社印 淡路国三原郡八太村二宮大和社	3	6	
	95	売神祝印 信濃国諏訪社	3	7	
	96	隱岐国屯倉官印 隠岐国知夫郡由良比売神社	3	8	隠岐国屯倉之印
	97	仁和寺僧綱印	3	9	仁和寺僧綱之印 二
	98	造東寺印	3	10	
	99	教王護国寺造寺司印	3	11	同上
		弘福寺印 二	3	12	共二→二
	101	東寺伝法印	3	13	
	102	T T T T T T T T T T	3	14	
	103	大覚寺印	3	15	
	104	崇福寺造寺司印 鞍馬寺	3	16	造崇福印
	105		3	17	
	106	東大寺印 三	3	18	共三→三
	107	東大寺施薬院印	3	19	施薬院印
	108	東大寺尊勝院印	3	20	尊勝院印
	109	華厳供印	3	21	
	110	大安寺印	3	22	
	111	百済寺院 蔵未詳	3	23	
	112	薬師寺院	3	24	
	113	法隆寺印 二	3	25	共二→二
	114	法隆寺一切経印	3	26	
	115	西大寺印	3	27	
	116	比叡寺印	3	28	
	117	延暦寺印	3	29	
	118	観世音寺印	3	30	
	119	法勝寺印 古模本	3	31	
	120	因幡国師印	3	32	
	121	石山寺印	3	33	
	122	僧空海印 三 武蔵国多摩郡安内村吉祥寺	3	34	弘法大師印 三
	123	詮伝灯印	3	35	
	124	元三論印	3	36	
	125	岡寺孝謙帝勅作印 古模本	3	37	
	126	鹿嶋根本寺什物印 二	3	38	共二→二
	127	鵤寺倉印 大和国法隆寺	3	39	
	128	小田原最乗寺道了権現印	3	40	小田原最乗寺印
	129	高山寺印 古模本	3	41	
	130	天海蔵印	3	42	
	131	仏乗禅師宋朝請来印 二 鎌倉宅間報国寺	3	43	共二→二
	132	日蓮上人印 二	3	44	共二→二
	133	一休印	3	45	一休和尚印
	134	安楽寿院印	3	46	
4	135	伊勢内宮政印鈕	4	1	
	136	諏訪社印鈕	4	2	
	137	隠岐国若玉酢社印鈕	4	3	
	138	大寺卿印鈕	4	4	下総国大寺郷所得印鈕
	139	讃岐国田井村所堀得印鈕	4	5	讃岐国田井村堀地所得印鈕
	140	近江国栗本郡所堀得印鈕	4	6	近江国栗本郡堀地所得印鈕
	141	雪野寺所堀得印鈕	4	7	雪野寺堀地所得印鈕
	142	或所蔵印鈕 二	4	8	共二→二
	143	或所伝写印鈕	4	9	
	110	LANDEL A CLASTIC	T		I .

4	1.4.4	ままのままたはっての畑	1 4	10	
4	144	東寺印東寺伝法二印鈕	4	10	
	145	東寺印鈕 四	4	11	共四→四
	146		4	12	
	147	鵤寺印鈕	4	13	
	148	百済寺印鈕	4	14	
	149	仏乗禅師宋朝請来印鈕 二	4	15	共二→二
	150	菅原洞斎家所伝印鈕	4	16	
	151	仙波山中所堀得印鈕	4	17	仙波山中堀地所得印鈕
	152		4	18	四次四十海地//17日地
			4	19	表神和印展
	153	諏訪社印櫃		-	売神祝印櫃
	154		4	20	なし
	155	仏乗禅師宋朝請来印櫃	4	21	
	156		4	22	3点のみ
追加1	157	天皇御璽 三			
	158	嵯峨院印			
	159	冷泉院印			
	160	太政官印 紀伊家臣井田亀之助			
	161				
	162				
	163	或所蔵印			
	164				
		安芸国印 二			
	166	宇陀郡印			
	167	船井郡印			
	168	承和十二年文書所印			
	169				
	170	小田原北条家印 備前国商家河本又三郎 (永禄十三年文書)			
	171	豊臣秀家卿印 古模本			
	172				
	173				
	174				
	175	孟子古写本所印 蔵未詳			
	176	陸奥国足立郡杉田村堀地所獲印 蔵未詳			
	177	屋代弘賢所蔵印			
	178				
	179	或所蔵印			
	180				
	181	或所蔵印			
	182	大和国飛鳥社印			
	183				
	184	熱田文庫印			
	185	陸奥国会津恵日寺蔵印 四			
	186	弘法大師印			
	187	般舟三昧院印			
	188	善導大師印			
	189	興福寺印	+		
		一元興寺印	+		
				_	
		真言院印			
	192				
	193	立石倉印 出羽国最上立石寺			
	194	鞍馬寺印			
	195	古写本論語所印 江都商人□			
	196	寂照宝府所印			
	197	石室印 二			
	198	明王院印 大和国高市郡鳥屋村農人掘地所獲	+		
	199	五大堂印	+		
	200		1		
	201				
	202				
	203	或所蔵印			

扁額

扁額_		#-1 #			Tick:
74.	NT.	集古十種	*	NT.	稿
巻	No.	名称	巻	No.	備考
1	1	「百寿」/観智院僧正賢賀真蹟	1	1	
	2	「究竟頂」/京師金閣寺額/後小松院宸翰	1	2	
	3	「元本八神殿」/京師吉田社額/後土御門院宸翰	1	3	
	4	「大元宮」/京師吉田社額/後土御門院宸翰	1	4	
	5	「玄妙」/筆写不詳	1	5	
	6	「清水寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	1	6	
	7	「薬師堂」/筆写不詳	1	7	
	8	「勅諡大圓禅師」/宸翰不詳	1	8	
	9	「正一位一宮大明神」/上野国萬年橋一宮額/神祇伯従二位兼 雄卿真蹟	1	9	
	10	「弁才天」/相模国江島弁才天上之宮額/釈乗圓真蹟	1	10	
	11	「正一位大明神」/越後国伊夜日子山額/後醍醐天皇宸翰	1	11	
	12	「上品蓮台寺」/嵯峨天皇宸翰	1	12	
	13	「補陀洛東門」/上野国幡多郡足摺山金剛福寺東門額/嵯峨天 皇宸翰	1	13	
	14	「日本最上日高日宮」/京師吉田社額/嵯峨天皇宸翰	1	14	
	15	「雨宝」/上京弁天額 説曰宝字空海之所書也/嵯峨天皇宸翰	1	15	
	16	「小倉山」/嵯峨二尊院中門額/後柏原院宸翰	1	16	
	17	「知恩教院」/後奈良院宸翰	1	17	
	18	「玉鳳院」/京師正法山妙心寺額/花園院宸翰	1	18	
	19	「感神院新宮」/青蓮院宮尊祐法親王真蹟	1	19	
	20	「日輪法城禅寺」/甲斐国山梨郡東光寺村日輪法城寺額/淳和 天皇宸翰	1	20	
	21	「日本最上両太神宮」/京師吉田社楼門額/清水谷大納言実秋 卿真蹟	1	21	
	22	「刀田山」/筆者不詳	1	22	
	23	「愛宕山」/曼殊院二品良恕法親王真蹟	1	23	
	24	「鎌宮」/近江国加茂郡曽森鎌足宮額/林丘寺宮真蹟	1	24	
	25	「天照山」/相模国鎌倉光明寺山門額/後花園院宸翰	1	25	
	26	「太神光」/参河国山中太神光二村山宝蔵寺額/後花園院宸翰	1	26	
	27	「天満宮」/上野国桐生神職家蔵/筆者不詳	1	27	
	28	「熊野山」/上野国新田熊野山額/筆者不詳	1	28	
	29	「八幡宮」/江戸深川永代島八幡宮額/青蓮院宮尊證法親王真蹟	1	29	
	30	「八幡宮」/ 江戸休川水八高八幡宮領/ 青建院宮亭遠伝祝工真蹟 「天満宮」/江戸湯島天満宮額/広橋儀同三司真蹟	1	30	
	31	「三縁山」/江戸三縁山額/廓山上人真蹟	1	31	
	32	「二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		32	
			1	33	
	33				
	34	「杏檀」/江戸聖堂額/持明院権中納言基輔卿真蹟	1	34	
	35	「正一位塩竈社」/陸奥国一宮額/左近中将吉村朝臣真蹟 「当山者桓武天皇勅願所最仙上人草創也本尊者笠月蓋長者持仏	1	35	
	36	薬師瑠璃光如来」/山城国比叡山根本中堂額(此額足利氏之時 罹災今存模書者可謂希世之珍矣)/世尊寺大納言行成卿真蹟	1	36	
	37	「実城寺」/大和国吉野山学頭実城寺額/筆者不詳	1	37	
	38	「御霊八所大明神」/筆者不詳(神田道古家蔵)	1	38	
	39	「興山寺」/紀伊国高野山興山寺額/後陽成院宸翰	1	39	
	40	「一切経蔵」/大和国法隆寺塔頭西園院蔵/弘法大師真蹟	1	40	
	41	「毘盧蔵」/京師花園妙心寺経蔵額/伏見院宸翰	1	41	
2	42	「吉祥閣」/江戸東叡山山門額/大明院一品公辨法親王真蹟	2	1	
	43	「東叡山」/江戸東叡山仁王門額/大明院一品公辨法親王真蹟	2	2	
	44	「瑠璃殿」/江戸東叡山中堂額/霊元院宸翰	2	3	東山院宸翰
	45	「大己貴尊」/大和国三輪社額/筆者不詳	2	4	
	46	「高野山」/紀伊国高野山額/弘法大師真蹟	2	5	
	47	「応天門」/弘法大師真蹟	2	6	
	48	「会昌門」/弘法大師真蹟	2	7	
	49	「清水寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	8	
	50	「浄花院」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	9	
	51	「法華三昧堂」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	10	
	52	「釈迦堂」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	11	
	53	「冷妙寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	12	
	UU	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	4	14	<u>L</u>

0	- 4	「高就」、 / 四 关土 - - - - - - - - -	0	10	T T
2	54	「霊鷲山」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	13	
	55	「妙法院」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	14	
		「法金剛院」/京師西山天安寺額/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	15	
	57	「金剛心院」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	16	
	58	「金剛乗院」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	17	
	59	「神宮寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	2	18	
	60	「篤音院」/参議佐理卿真蹟	2	19	
	61	「錠菩提院」/参議佐理卿真蹟	2	20	
	62	「金剛念仏三昧院」/参議佐理卿真蹟	2	21	
	63	「敵国降伏」/大隅国八幡宮額/参議佐理卿真蹟	2	22	
	64	「霊山華厳院」/小野道風朝臣真蹟	2	23	
}	- 01	「釈迦如来転法輪所当極楽土東門中心」/摂津国天王寺額/小		20	
	65	野道風朝臣真蹟	2	24	筆者不詳
-	66	「塔見門」/小野道風朝臣真蹟	2	25	
-		「丹生山」/ 小野追風朝臣真頃 「丹生山」/ 摂津国丹生山田明要寺額/小野道風朝臣真蹟	2	26	
-					
-		「萬世楽」/観智院僧正賢賀真蹟(高家長沢氏蔵)	2	27	
		「天子万福」/観智院僧正賢賀真蹟(高家長沢氏蔵)	2	28	
		「一乗殿」/随宜楽院一品公遵法親王真蹟	2	29	
	71	「圓照」/世尊寺定成朝臣真蹟	2	30	
	72	「鶴岡山」/相模国鶴岡八幡宮額/曼殊院二品良恕法親王真蹟	2	31	
	73	「東光山」/相模国鎌倉英勝寺額/曼殊院二品良恕法親王真蹟	2	32	
	74	「宝珠殿」/相模国鎌倉英勝寺額/曼殊院二品良恕法親王真蹟	2	33	
	75	「三国第一山」/富士山鳥居額/曼殊院二品良恕法親王真蹟	2	34	
	76	「若宮大権現」/相模国鎌倉若宮権現額/青蓮院尊純法親王真蹟	2	35	
		「正一位稲荷大明神」/筆者不詳	2	36	
		「正一位大水主大明神」/讃岐国大水主社額/龍池院二品尊朝			
	78	法親王真蹟	2	37	
-	79	「正一位勲五等抜鉾太神」/上野国甘楽郡一之宮額/宸翰不詳	2	38	
-			2	39	
0	80	「妙覚門」/大和国金峯山第四鳥居額/弘法大師真蹟			Ht *
3	81	「瀧山寺」/参河国滝山寺仁王門額/小野道風朝臣真蹟	3	1	世尊寺正三位経朝卿
	82	「浄土堂」/播磨国極楽山浄土寺額/小野道風朝臣真蹟	3	2	
	83	「愛宕山」/嵯峨青龍寺釈迦堂楼門額/小野道風朝臣真蹟	3	3	
	84	「正一位向日大明神」/山城国乙訓郡西岡向日社額/小野道風	3	4	
	04	朝臣真蹟	3	4	
	85	「天神八王子」/山城国山崎八王子社額/小野道風朝臣真蹟	3	5	
	0.0	「天龍護国寺」/上野国群馬郡並榎護国寺什物/小野道風朝臣	3	C	
	86	真蹟	3	6	
	87	「観世音寺」/筑前国太宰府観世音寺額/小野道風朝臣真蹟	3	7	
		「春敲門」/尾張国熱田社東門額/小野道風朝臣真蹟	3	8	
		「勝持寺」/西山大原野勝持寺本堂額/小野道風朝臣真蹟	3	9	
-		「法然寺」/小野道風朝臣真蹟	3	10	
		「長楽寺」/大和国奈良長楽寺額/小野道風朝臣真蹟	3	11	
		「永徳寺 / 越後国柏崎永徳寺額 / 小野道風朝臣真蹟	3	12	
	92				
	93	「流芳楼」/小野道風朝臣真蹟	3	13	
	94	「頓證寺」/讃岐国白峰頓證寺額/小野道風朝臣真蹟	3	14	
1	OF	「等覚門」/大和国金峯山第三鳥居額/小野道風朝臣真蹟	3	15	l .
	95				
	96	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟	3	16	
-		「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟	3	17	
-	96	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟			
-	96 97 98	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟	3	17 18	
	96 97	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟	3	17	
-	96 97 98	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿	3	17 18	
	96 97 98 99	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟	3 3 3 3	17 18 19 20	
-	96 97 98 99 100 101	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟	3 3 3 3	17 18 19 20 21	
	96 97 98 99 100 101 102	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟	3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22	
	96 97 98 99 100 101 102 103	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104 105	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「神明宮」/江戸麻布延命寺額/持明院権大納言基時卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24 25	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「神明宮」/江戸麻布延命寺額/持明院権大納言基時卿真蹟 「光照山」/持明院権大納言基時卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24 25 26	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「神明宮」/江戸麻布延命寺額/持明院権大納言基時卿真蹟 「光照山」/持明院権大納言基時卿真蹟 「千龍山」/持明院権大納言基時卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「神明宮」/江戸麻布延命寺額/持明院権大納言基時卿真蹟 「光照山」/持明院権大納言基時卿真蹟 「千龍山」/持明院権大納言基時卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	
	96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109	「正一位高野大明神」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「稚宮八幡」/山城国石清水八幡宮額/世尊寺大納言行成卿真蹟 「石山寺」/近江国石山寺額/世尊寺従三位行能卿真蹟 「天満宮」/武蔵国多摩郡谷保村天神額/世尊寺正二位経朝卿 真蹟 「正一位稲生大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟 「引接寺」/山城国梅津地蔵堂額/世尊寺正二位行季卿真蹟 「長福寺」/世尊寺正三位経朝卿真蹟 「松門寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「法性寺」/世尊寺大納言行成卿真蹟 「神明宮」/江戸麻布延命寺額/持明院権大納言基時卿真蹟 「光照山」/持明院権大納言基時卿真蹟 「千龍山」/持明院権大納言基時卿真蹟	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27	

111 「若宮八幡宮」/持明院権中納言基雄卿真蹟 3 31 112 「石田大明神」/持明院権中納言基雄卿真蹟 3 32 113 「稲荷大明神」/持明院権中納言基雄卿真蹟 3 33 114 「正一位大山積神宮」/武蔵国瀬戸大山積社額/世尊寺従二位経尹卿真蹟 3 34 115 「天満宮」/京師寺町錦天満宮額/青蓮院一品尊祐法親王真蹟 3 35 116 「扶桑最初禅窟」/筑前国博多聖福寺額/後鳥羽院宸翰 3 36 117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 37 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高院道澄准后真蹟 3 39	
113 「稲荷大明神」/持明院権中納言基雄卿真蹟 3 114 「正一位大山積神宮」/武蔵国瀬戸大山積社額/世尊寺従二位 経尹卿真蹟 3 115 「天満宮」/京師寺町錦天満宮額/青蓮院―品尊祐法親王真蹟 3 116 「扶桑最初禅窟」/筑前国博多聖福寺額/後鳥羽院宸翰 3 117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高 院道澄准后真蹟 3	
114 「正一位大山積神宮」/武蔵国瀬戸大山積社額/世尊寺従二位 経尹卿真蹟 3 34 115 「天満宮」/京師寺町錦天満宮額/青蓮院―品尊祐法親王真蹟 3 35 116 「扶桑最初禅窟」/筑前国博多聖福寺額/後鳥羽院宸翰 3 36 117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 37 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高 院道澄准后真蹟 3 39	
114 経尹卿真蹟	
115 「天満宮」/京師寺町錦天満宮額/青蓮院一品尊祐法親王真蹟 3 35 116 「扶桑最初禅窟」/筑前国博多聖福寺額/後鳥羽院宸翰 3 36 117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 37 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高院道澄准后真蹟 3 39	
116 「扶桑最初禅窟」/ 筑前国博多聖福寺額/後鳥羽院宸翰 3 36 117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 37 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高院道澄准后真蹟 3 39	
117 「南無山王廿一社」/伝教大師真蹟 3 37 118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高院道澄准后真蹟 3 39	
118 「無量寿仏尊」/筆者不詳 3 38 119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高院道澄准后真蹟 3 39	ı
119 「日本第一大霊験所熊野権現」/京師聖護院森熊野社額/昭高 3 39 院道澄准后真蹟	
119 院道澄准后真蹟 3 39	
120 「黄乗院」/相模国円覚寺額/後小松院宸翰 3 40	
121 「八幡宮」/下野国日光八幡宮額/弘法大師真蹟 3 41	
122 「霊光」/京師大徳寺方丈雲門庵額/後土御門院宸翰 3 42	
123 「発心門」/大和国金峯山第一鳥居額/弘法大師真蹟 3 43	
4 194 「天満宮」/播磨国中市郡天神鳥居額/神祇伯従二位卜部兼雄 4 1	
* 124 卿真蹟	
126 「正一位大社豊満大明神」 / 近江国愛智郡大社額 / 中御門前大 4 3	
120 納言宣胤卿真蹟	
129 「八幡宮」/弘法大師真蹟 4 6	
130 「亀峯山」/弘法大師真蹟 4 7	
131 「白鳥大明神」/河内国古市白鳥社額/船橋経賢入道常覚真蹟 4 8	
132 「稲荷大明神」/高橋経和真蹟 4 9	
133 「天照皇太神宮」/高野山沙門悔焉真蹟 4 10	
134 「月華高」/瀧本坊昭乗真蹟 4 11	
135 「大内山仁和寺」/藤木甲斐守敦直真蹟 4 12	
136 「智仁勇」/藤木甲斐守敦直真蹟 4 13	
137 「山王大権現」/妙法院二品尭然法親王真蹟 4 14	
138 「善光寺」/信濃国善光寺額/弘法大師真蹟 4 15	
139 「三社大権現」/江戸浅草寺三社権現額/随宜薬院一品公遵法 4 16	
140 「天満宮」/播磨国印南郡曽根村天神額/曼殊院二品良尚法親 4 17 王真蹟	
141 「梵音寺」/弘法大師真蹟 4 18	
142 「霊鷲山」/京師東山霊山国阿堂額/弘法大師真蹟 4 19	
143 「唯一王子宮」/武蔵国豊島郡王子社額/仁和寺覚深法親王真蹟 4 20 20 3 3 3 4 4 20 3 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5	
144 京道是法親王真蹟	
145 「神護国祚真言寺」 / 京師高雄山神護寺額 / 藤木甲斐守敦直真蹟 4 22	
146 「正一位稲荷大明神」/江戸下谷正法院中鳥居額/崇保院公寛 4 23 23	
147 「稲荷大明神」/江戸下谷正法院拝殿額/蓮華光院大僧正道恕 4 24	
148 「功徳成就墜諸仏経行砌諸天神祇在此山振威験」/大和国長谷 4 25 安井道恕僧正真蹟 寺鳥居額/筆者不詳	
149 「雨乞」/弘法大師真蹟 4 26	
150 「神宮寺」 / 弘法大師真蹟 (荒木内膳家蔵) 4 27 27	
150	
151 僧正道恕真蹟 4 28	
152 「天満宮」/花山院右大臣常雅公真蹟	
153 「龍泉寺」/大和国大峯泥川龍泉寺額/弘法大師真蹟 4 30	
153 「龍泉寺」 / 大和国大峯泥川龍泉寺額 / 弘法大師真蹟 4 30 154 「感応」 / 弘法大師真蹟 4 31	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31 155 「高林寺」/大職冠鎌足公真蹟 4 32	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31 155 「高林寺」/大職冠鎌足公真蹟 4 32 156 「斐太」/越後国松山農家蔵/菅公真蹟 4 33	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31 155 「高林寺」/大職冠鎌足公真蹟 4 32 156 「斐太」/越後国松山農家蔵/菅公真蹟 4 33 157 「天満宮」/江戸小石川牛天神鳥居額/近衛大相国家凞公真蹟 4 34	
154	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31 155 「高林寺」/大職冠鎌足公真蹟 4 32 156 「斐太」/越後国松山農家蔵/菅公真蹟 4 33 157 「天満宮」/江戸小石川牛天神鳥居額/近衛大相国家凞公真蹟 4 34 158 「天満宮」/江戸小石川牛天神鳥居額/近衛大相国家凞公真蹟 4 35 159 「平等院」/山城国宇治郡平等院楼門額/堀川左大臣俊房公真蹟 4 36	
154 「感応」/弘法大師真蹟 4 31 155 「高林寺」/大職冠鎌足公真蹟 4 32 156 「斐太」/越後国松山農家蔵/菅公真蹟 4 33 157 「天満宮」/江戸小石川牛天神鳥居額/近衛大相国家凞公真蹟 4 34 158 「天満宮」/江戸小石川牛天神鳥居額/近衛大相国家凞公真蹟 4 35	

4	162	「神護寺」/弘法大師真蹟	4	39	
4	163	「縁城寺」/播磨国縁城寺額/弘法大師真蹟	4	40	
5	164	「浅草寺」/江戸浅草寺楼門額/曼殊院二品良尚法親王真蹟	5	1	
	165	「鳳来寺」/参河国鳳来寺額/光明皇后宸翰	5	2	筆者不詳
	166	「白雲寺」/山城国愛宕郡愛宕山額/曼殊院二品良恕法親王真蹟	5	3	丰石 / Tim
	167	「藤沢山」/相模国藤沢山額/持明院権大納言基時卿真蹟	5	4	
	168	「寛永寺」/江戸東叡山寛永寺額/後水尾院宸翰	5	5	
	169	「円覚興聖禅寺」/相模国鎌倉円覚寺山門額/花園院宸翰	5	6	
	170	「正明寺」/宸翰不詳	5	7	
	171	「笑宿亭」/筆者不詳	5	8	
	172	「八幡宮」/上野国山田郡仁田山村八幡宮額/筆者不詳	5	9	
	173	「正一位中山金山彦大神」/美濃国一宮鳥居額/青蓮院宮尊純 法親王真蹟	5	10	
	174	伝統工具頃 「智恩寺」/ 丹後国天橋立智恩寺額/ 醍醐天皇宸翰	5	11	
	174 175	「真清田大神」/尾張国一宮額/聖武天皇宸翰	5	11 12	
	176	「高良玉垂宮」/筑後国一宮鳥居額/参議佐理卿真蹟	5	13	
	177	「一百尺玉玉百」/ 玩夜国一百馬店領/ 多議佐理卿具頃 「平間寺」/ 武蔵国橘郡川崎平間寺大師堂額/石河杢亮頼直真蹟	5	13	
	178		5	15	
	179	「大鏡山」/ 市座国人总部並田正宗守領/ (人兄氏辰朝 「大鏡山」/武蔵国多摩郡高田南蔵院額/蓮華光院大僧正道恕 真蹟	5	16	
	180	「時雨亭」/大和国吉野郡川上荘多古村秋光山心月院蔵/京極 黄門定家卿真蹟	5	17	
	181	東口足豕柳县頃 「金光明四天王護国之寺」/大和国東大寺額/聖武天皇宸翰	5	18	
	182	「巨鼇山雲辺寺」/阿波国巨鼇山額/宸翰不詳	5	19	
	183	「二尊院」/京師嵯峨二尊院額/後柏原院宸翰	5	20	
	184	「丹生大明神」/大和国吉野郡丹生社額/弘法大師真蹟	5	21	
	185	「帝釈寺」/但馬国妙見山帝釈寺額/大覚寺宮寛深大僧正真蹟	5	22	
	186	「女体中宮」/下野国日光山瀧尾社額/弘法大師真蹟	5	23	
	187	「大原大明神」/丹波国桑田郡大原社額/弘法大師真蹟	5	24	
	188	「三千院」/霊元院宸翰	5	25	
	189	「左宮」/陸奥国塩竈社額/持明院中納言基雄卿真蹟	5	26	
	190	「別宮」/陸奥国塩竈社額/持明院中納言基雄卿真蹟	5	27	
	191	「右宮」/陸奥国塩竈社額/持明院中納言基雄卿真蹟	5	28	
	192	「中禅寺」/常陸国筑波山中禅寺額/筆者不詳	5	29	
	193	「正一位稲荷大明神」/筆者不詳	5	30	
	194	「大光明宝殿」/相模国鎌倉円覚寺仏殿額/後光厳院宸翰	5	31	
6	195	「高砂社」/播磨国高砂社額/持明院権中納言基雄卿真蹟	6	1	
	196	「勅願所」/相模国鎌倉光明寺額/祐崇上人真蹟	6	2	
	197	「勅謚記主禅師」/相模国鎌倉光明寺額/伏見院宸翰	6	3	
	198	「祈祷」/相模国鎌倉光明寺額/後土御門院宸翰	6	4	
	199	「正一位勲十二等粟鹿大明神」/但馬国一宮鳥居額/宸翰不詳	6	5	
		「正一位籠之大明神」/丹後国天橋立籠社額/小野道風朝臣真蹟	6	6	
	201	「最勝論」/相模国円覚寺額/後光厳院宸翰	6	7	
	202	「琰王殿」/相模国新井閻魔堂額/智覚禅師真蹟	6	8	
	203	「日本惣鎮守大山積大明神」/伊予国三島社額/参議佐理卿真蹟	6	9	
	204	「清浄光寺」/相模国清浄光寺額/後光厳院宸翰	6	10	
	205	「石龕寺 / 丹波国井原石龕寺額/小野道風朝臣真蹟	6	11	
	206	「大谷寺」/京師智恩院本堂額/後奈良院宸翰	6	12	
	207	「穐葉大権現」/遠江国秋葉山鳥居額/九条准三后尚実公真蹟	6	13	
	208	「天淵」/随宜楽院一品公遵法親王真蹟	6	14	
	209	「霊明」/京師泉涌寺蔵/後西院宸翰	6	15	
	210	「正一位勲八等高野大神」/小野道風朝臣真蹟	6	16	
	211	「勅諡仏徳禅師」/美濃国可児郡長瀬村虎渓山永保禅寺開山堂額/宸翰不詳	6	17	
	212	「正統庵」/相模国鎌倉建長寺正統庵額/曼殊院二品良恕法親 王真蹟	6	18	
	213	「海龍王寺」/大和国法華寺村海龍王寺額/弘法大師真蹟	6	19	
	214	「薬師堂」/武蔵国多摩郡高田南蔵院薬師堂額/蓮華光院大僧 正道恕真蹟	6	20	
	215	「伊都岐島大明神」/安芸国厳島社鳥居額/後奈良院宸翰	6	21	
	216	「勅諡仏光禅師」/相模国鎌倉円覚寺額/伏見院宸翰	6	22	
	217	「金剛山」/武蔵国橘郡川崎平閑寺本堂額/石川杢亮頼直真蹟	6	23	

	010	「点文土」 / 六個点文土版 / 明明寺 古味	C	0.4	
	218	「泉涌寺」/京師泉涌寺額/張即之真蹟	6	24	
	219	「瑞鹿山」/相模国鎌倉円覚寺総門額/後光厳院宸翰	6	25	
	220	「補陀海山円通宝閣」/京師泉涌寺山門額/玄宗皇帝宸翰	6	26	
	221	「慈徳寺」/参議佐理卿真蹟	6	27	
	000	「八幡宮」/相模国鎌倉鶴岡八幡宮寺額/曼殊院二品良恕法親	_	-00	
	222	王真蹟	6	28	
			_		
	223	「岩本院」/相模国江島岩本院額/持明院権大納言基時卿真蹟	6	29	
	224	「正一位護国霊験惣社大明神」/上野国群馬郡惣社額/宸翰不詳	6	30	
	225	「凉清山」/相模国鎌倉鶴岡等覚院蔵/弘法大師真蹟	6	31	
	226	「吟雪庵」/筆者不詳	6	32	
	227	「厳島大明神」/安芸国厳島社鳥居額/後奈良院宸翰	6	33	
	228	「転法輪」/安芸国厳島経蔵額/釈自休真蹟	6	34	
	229	「鹿野苑」/参議佐理卿真蹟	6	35	
7	230	「真言院」/弘法大師真蹟	7	1	
'					
	231	「宜陽門」/弘法大師真蹟	7	2	
	232	「建春門」/筆者不詳	7	3	
	233	「承明門」/筆者不詳	7	4	
	234	「長楽門」/弘法大師真蹟	7	5	
	235	「承香殿」/弘法大師真蹟	7	6	
		「仁寿殿」/筆者不詳			
	236		7	7	
	237	「春興殿」/筆者不詳	7	8	
	238	「内衙門」/筆者不詳	7	9	
				_	
	239	「紫宸殿」/筆者不詳	7	10	
	240	「宜穐門」/筆者不詳	7	11	
	241	「永安門」/筆者不詳	7	12	
	242	「明義門」/堀川左大臣俊房公真蹟	7	13	
	243	「左掖門」/筆者不詳	7	14	
	244	「建礼門」/筆者不詳	7	15	
	245	「常楽門」/弘法大師真蹟	7	16	「貞観門」
	246	「弘徽殿」/筆者不詳	7	17	
	247	「温明殿」/筆者不詳	7	18	
	248	「常寧殿」/筆者不詳	7	19	
	249	「校書殿」/筆者不詳	7	20	
	250	「清涼殿」/筆者不詳	7	21	
	251	「後凉殿」/筆者不詳	7	22	
	252	「貞観殿」/弘法大師真蹟	7	23	「常楽殿」
	253	「霊源寺」/京師西加茂霊源寺額/霊元院宸翰	7	24	1 10 7(0)23
	254	「菩提門」/弘法大師真蹟	7	25	
	255	「不老門」/藤木甲斐守敦直真蹟	7	26	
		「南嶽門」/弘法大師真蹟			
	256		7	27	
	257	「嵩山」/相模国鎌倉建長寺開山塔外門額/仏光禅師真蹟	7	28	
	258	「浴室」/相模国鎌倉円覚寺浴室額/張即之真蹟	7	29	
			-	_	
	259	「方丈」/相模国鎌倉円覚寺方丈額/張即之真蹟	7	30	
	000	「祈祷」「修正」/相模国鎌倉円覚寺祈祷殿祈祷修正両面額/夢	_	0.1	
	260	窓国師真蹟	7	31	
	001	1 1 1 1 1 1 1 1 1		00	
	261	「大弁才天女」/相模国江島弁天宮額/土御門院宸翰	7	32	
	262	「西来庵」/相模国鎌倉建長寺開山塔中門額/雲幽真蹟	7	33	
	263	「祈祷」/相模国鎌倉建長寺仏殿額/宸翰不詳	7	34	
	264	「八幡宮」/相模国鎌倉称名寺八幡宮額/亀山院宸翰	7	35	
	265	「海東法窟」/相模国鎌倉建長寺東門額/竹西真蹟	7	36	
	266	「天下禅林」/相模国鎌倉建長寺西門額/竹西真蹟	7	37	
	267	「建長興国禅寺」/相模国鎌倉建長寺山門額/筆者不詳	7	38	或云宸翰或云宋子曇所書也
	268	「秋虹殿」/相模国鎌倉常楽寺文殊堂額/蘭渓禅師真蹟	7	39	
	269		7	40	
		「萬年山」/相模国鎌倉円覚寺祖塔門額/筆者不詳			D = 14 = = = : : :
	270	「巨福山」/相模国鎌倉建長寺総門額/筆者不詳	7	41	或云趙子昴又云寧一山
	271	「選仏場」/相模国鎌倉円覚寺禅堂額/無準和尚真蹟	7	42	
	272	「圓鑑」/相模国鎌倉常楽寺方丈額/仏光禅師真蹟	7	43	
	273	「常照」/相模国鎌倉円覚寺祖塔額/従三位源氏満卿真蹟	7	44	
		「八塩山解脱寺」/山城国長谷村解脱寺額《此額今在三井寺云》			
	274		7	45	
		/ 宸翰不詳			
	275	「大雲寺」/京師北岩倉大雲寺観音堂額/参議佐理卿真蹟	7	46	
		「誓願寺」/安芸国誓願寺本堂額/宸翰不詳	7	47	或云天智帝宸翰
	276				1 F (N = 3 / N D 111 / IN T/II)

	055			40	1
7	277	「大悲」/山城国幡枝円通寺蔵/後水尾院宸翰	7	48	
	278	「円通」/山城国幡枝円通寺蔵/後水尾院宸翰	7	49	
	279	「祈祷」「修正」/陸奥国白川正雲山金勝寺祈祷修正両面額/宸	7	50	
	219	翰不詳	1	30	
	280	「称名院」/聖護院道澄准后真蹟	7	51	
	281	「金輪寺」/丹波国神尾山金輪寺額/後光厳院宸翰	7	52	
8	282	「感神院」/京師祗園社鳥居額/昭高院道晃法親王真蹟	8	1	
		「金毗羅大権現」/長門国阿武郡萩法光院金毗羅堂額/宝鏡寺			
	283	宮真蹟	8	2	
	284	「圓明」/京師相国寺開山塔額/後水尾院宸翰	8	3	
		「正一位道祖神」/陸奥国笠島道祖神長所額/仁和寺覚深法親			
	285	王真蹟	8	4	
	286	「瑞現山」/長門国阿武郡萩瑞現山法光院額/宝鏡寺宮真蹟	8	5	
		「天満宮」/江戸麹町龍眼寺天満宮鳥居額/随宜楽院一品公遵			
	287	法親王真蹟	8	6	
	288	「大山寺」/伊予国和気郡大山寺額/筆者不詳	8	7	
	200	「男体大権現 /下野国日光山男体権現額/最上乗院一品公啓		,	
	289	另种人権現」/ 「對国口儿山另种権現很/ 取工来院—而公台 法親王真蹟	8	8	
	290	「三島大明神」/武蔵国久良郡金沢瀬戸三島明神額/神道長正	8	9	
	001	二位卜部季兼卿真蹟		10	
	291	「誓安寺」/周防国吉敷郡鋳銭司村誓安寺額/宝鏡寺宮真蹟	8	10	
	292	「日向宮」/京師栗田口御日山太神宮額/清和天皇宸翰	8	11	
	293	「香取新福寺」/下総国香取郡香取新福寺額/亀山院宸翰	8	12	
	294	「真隆山」/伊予国古三津村儀光寺額/弘法大師真蹟	8	13	
	295	「延寿」/岡本甲斐守保考真蹟	8	14	
	296	「聖武皇帝御願所 成就山 満願寺」/陸奥国白川郡関山観音	8	15	
	290	堂額/筆者不詳	0	13	
	297	「玉島山」/武蔵国中郷多田薬師額/李三錫真蹟	8	16	
	298	「勝尾寺」/摂津国勝尾寺額/清和天皇宸翰	8	17	
	299	「日尾八幡宮」/伊予国久米郡南久米村八幡宮額/筆者不詳	8	18	
		「正一位塩竈大明神」/陸奥国塩竈明神額/神祇伯従二位卜部			
	300	兼雄卿真蹟	8	19	
	301	「寥義」/伊予国久米郡南久米村石手寺額/筆者不詳	8	20	
		「八幡宮」/遠江国中泉村八幡宮額/白一子真蹟	8	21	
	303	「把不住軒」/陸奥国松島御島雲居禅室額/了堂真蹟	8	22	
	304	「深砂王」/下野国日光山深砂王額/大明院一品公弁法親王真蹟	8	23	
	305	「満願寺」/陸奥国白川郡関山満願寺額/月舟真蹟	8	24	
-	306	「天満宮」/京師北野天満宮中門額/後西院宸翰	8	25	
-	307	「焼火山」/隠岐国島前焼火山雲上寺額/観智院僧正賢賀真蹟	8	26	
	308	「木母寺」/武蔵国隅田川木母寺額/近衛准后信尹公真蹟	8	27	近衛三藐院
	308		0	21	过用二级
	309	「高顕院」/上野国高崎妙義山仁王門額/随宜楽院一品公遵法	8	28	
		親王真蹟			
	310	「御瀧山」/下野国都賀郡乙女村泉龍寺両面額 表/黄檗南川	8	29	
		和尚真蹟			
	311	「御瀧山」/下野国都賀郡乙女村泉龍寺両面額 裏/淳元上人	8	30	
		真蹟			
	312	「巌窟堂」/陸奥国会津郡白岩村塔兼虚空蔵堂額/筆者不詳	8	31	
	313	「正一位稲荷大明神」/陸奥国白川郡烏峠宝生山円福寺稲荷社	8	32	
	313	額/仁和寺覚深法親王真蹟	0	32	
	314	「海晏寺」/武蔵国品川海晏寺額/二階堂出羽守行氏真蹟	8	33	
	315	「治陸寺」/陸奥国木幡山治陸寺額/後冷泉院宸翰	8	34	
	316	「鞍馬寺」/京師鞍馬寺額/青蓮院尊證法親王真蹟	8	35	
	317	「天満宮」/伊予国祝谷天満宮額/筆者不詳	8	36	
	318	「周慶寺」/周防国吉敷郡宇野金村周慶寺額/後陽成院宸翰	8	37	
		「正一位道祖神」/陸奥国笠島道祖神鳥居額/仁和寺覚深法親			
	319	王真蹟	8	38	
	320	「金龍山」/江戸浅草寺総門額/曼殊院二品良尚法親王真蹟	8	39	
		「根津大権現」/江戸根津権現楼門額/大明院一品公弁法親王			
	321	真蹟	8	40	
	322	「敬簡堂」/水戸宰相源治保卿真蹟	8	41	
	323	「菅生山」/伊予国松山菅生山太宝寺額/後白河院宸翰	8	42	
	324	「天満宮」/下総国葛飾郡礒部村天満宮額/屋代弘賢真蹟	8	43	
	J24	八個百」/ 松岡匈即柳城即刊入側首領/ 崖刊知具長頃	0	40	

	325	「根津大権現」/江戸根津権現鳥居額/森尹祥真蹟	8	44	
別録	326	「常楽庵」/京師東福寺開山堂額/光明峯寺摂政道家公真蹟			
77.734		「恵心院」/山城国宇治恵心院本堂額/持明院権大納言基時卿			
	327	真蹟			
	328	「従正一位上石屋大明神」/世尊寺正二位経朝卿真蹟			
	329	「熊野大権現」/京師若王子境内熊野社鳥居額/聖護院道晃法			
	329	親王真蹟			
	330	「高山寺」/山城国栂尾山高山寺額/宸翰不詳			
	331	「寶幢三昧寺」/京師壬生寺蔵/参議為長卿真蹟			
	332	「興聖寶林禅寺」/山城国興聖寺本堂額/宸翰不詳			
	333	「東求堂」/京師銀閣寺東求堂額/慈照院義政公真蹟			
	334	「婆珊婆演底神最初示現之處」/山城国檀王林寺境内主夜神額			
	334	/ 有栖川一品中務卿職仁親王真蹟			
	335	「如法経蔵」/大和国奈良商家蔵/弘法大師真蹟			
	336	「天満宮」/京師菅太臣社鳥居額/竹内良恕法親王真蹟			
	337	「海眼山」/伊勢国荘野駅正法寺観音堂額/弘法大師真蹟			
	338	「福正院」/京師誓願寺塔頭蔵/後水尾院宸翰			
	339	「大雲院」/京師大雲院蔵/後陽成院宸翰			
		「同仁斎」/京師銀閣寺同仁斎額/慈照院義政公真蹟			
	341	「曇華堂」/京師南禅寺法堂額/筆者不詳			
		「龍渕室」/京師南禅寺龍渕室額/後陽成院宸翰			
	343	「勅謚聖一國師」/京師東福寺開山堂額/伏見院宸翰			
	344	「天神宮」/京師六条道場錦天神拝殿額/宝鏡寺宮理秀尼公真蹟			
		「當麻寺」/大和国當麻寺蔵/後奈良院宸翰			
	346	「一切経蔵」/大和国唐招提寺蔵/小野道風朝臣真蹟			
	347	「猪上大明神」/大和国信貴山猪上社鳥居額/蓮華光院大僧正 道恕真蹟			
	348	「治國亭」/大和国釜口山長岳寺塔頭普賢院蔵/小野道風朝臣 真蹟			
	349	「岩上大明神」/大和国布留社蔵/筆者不詳			
	350	「龍象資聖禅寺」/大和国添上郡柴屋村帯解地蔵奥院本堂額/ 一乗院尊昭親王真蹟			
	351	「観松」/大和国當麻寺塔頭中坊書院額/後西院宸翰			
		「朝護孫子寺」/大和国信貴山本堂額/筆者不詳			
	353	「龍蓋寺」/大和国岡寺蔵/弘法大師真蹟			
	354	「真言院」/大和国秋篠寺額/仁明天皇宸翰			
	355	「正一位龍田大明神」/大和国龍田本宮額/筆者不詳			
	356	「長谷寺」/大和国長谷寺楼門額/筆者不詳			
	357	「般若寺」/大和国奈良般若寺蔵/筆者不詳			
	358	「唐招提寺」/大和国唐招提寺蔵/孝謙天皇宸翰			
	359	「天照太神■地諸神■道守護砌」/大和国長谷寺額/蓮華光院 大僧正道恕真蹟			
	360	「法起寺」/大和国岡本寺本堂額/蓮華光院大僧正道恕真蹟			
		「東林寺」/大和国法隆寺境内末寺本堂額/高野山僧春深真蹟			
	362	「摩利支天」/大和国奈良薬師寺摩利支天堂額/蓮華光院大僧			
	302	正道恕真蹟			

法帖 **定家卿真蹟小倉色紙**(彦根城博物館蔵「小倉山の色紙写」)

		集古十種	稿			
巻	No.	名 称	巻	No.	備考	
1	1	「こひすてふ」/尾張家御蔵	1	1		
	2	「あさぢふの」/秋元家蔵	1	2		
	3	「さびしさに」/長州家人益田清之助蔵	1	3		
	4	「こぬひとを」/紀伊家御蔵	1	4		
	5	「きみがため」/同 御蔵	1	5		
	6	「きみがため」/藤堂家蔵	1	6		
	7	「よのなかよ」/雲州家蔵	1	7		
	8	「やへむぐら」/加州家蔵	1	8		
	9	「たれをかも」/加州家人本多玄蕃助蔵	1	9		
	10	「これやこの」/東本願寺家人松本主殿蔵	1	10		
	11	「たかさごの」/久世家蔵	1	11		
	12	「わすらるる」/成瀬家蔵	1	12		

1	13	「なつのよは」/三井次郎右衛門蔵	1	13	
	14	「みよしのの」/三井三郎助蔵	1	14	
	15	「あひみての」/南部家蔵	1	15	
	16	「うかりける」/三井八郎兵衛蔵	1	16	
	17	「ゆらのとを」/水戸家御蔵	1	17	
	18	「をぐらやま」/井伊家蔵	1	18	
	19	「ありあけの」/仙台家蔵	1	19	
	20	「ももしきや」/尾張家御蔵			
	21	「あはれとも」/因州家蔵			
	22	「わすれじの」/中川家蔵			
	23	「たまのをよ」/岡田氏蔵			
	24	「いにしへの」/後藤庄三郎蔵			
	25	「はなのいろは」/隠士貴良蔵			
	26	「かくとだに」/田安御蔵			
	27	「あらしふく」/郡山家蔵			
	28	「たごのうらに」/同蔵			
	29	「あさぼらけ」/ 或家蔵			
	30	「みせばやな」/鴻池善右衛門蔵			
	31	「あまのはら」/邑上家蔵			
	32	「きみがため」/ 或家蔵			
	33	「はなさそふ」/或家蔵			
	30 31 32	「みせばやな」 / 鴻池善右衛門蔵 「あまのはら」 / 邑上家蔵 「きみがため」 / 或家蔵			

^{・『}集古十種稿』の現存が確認できない兵器篇「甲冑」、古画・法帖篇「古画 肖像」、「七祖賛 弘法大師真蹟」、「牧渓玉澗八景」、 「名物 古画」は省略した。

[・]項目名は本編と目次を勘案して設定した。 ・両者で掲載資料が異なる場合は『稿』の項目を網掛けで示した。